南陽市字限図調査報告書（１）

―　赤湯・宮内・金山　―

南陽市字限図調査報告書（１）

2021 年 3 月

南陽市教育委員会

南陽市教育委員会

南陽市字限図調査報告書（１）

―　赤湯・宮内・金山　―

令和３年３月

南陽市教育委員会

凡　例

1　本報告書は、埋蔵文化財分布調査基礎調査として平成 25 年度から実施してきた南陽市内の地名と字限図調査のうち、赤湯、宮内、金山分をまとめた南陽市字限図調査報告書である。

2　調査は、南陽市教育委員会が実施した。

3　事務局体制は次のとおりである。

主 管 課　スポーツ文化課（平成 25、26 年度）
社会教育課（平成 27 年度～）

事 務 局　スポーツ文化課長　江口和浩（平成 25、26 年度）
社会教育課長　田中吉弘（平成 27 年度）
〃　佐藤賢一（平成 28 ～ 30 年度）
〃　板垣幸広（令和元～）
社会教育課長補佐　角田朋行
社会教育課嘱託・会計年度任用職員　斉藤紘輝（令和元年～）

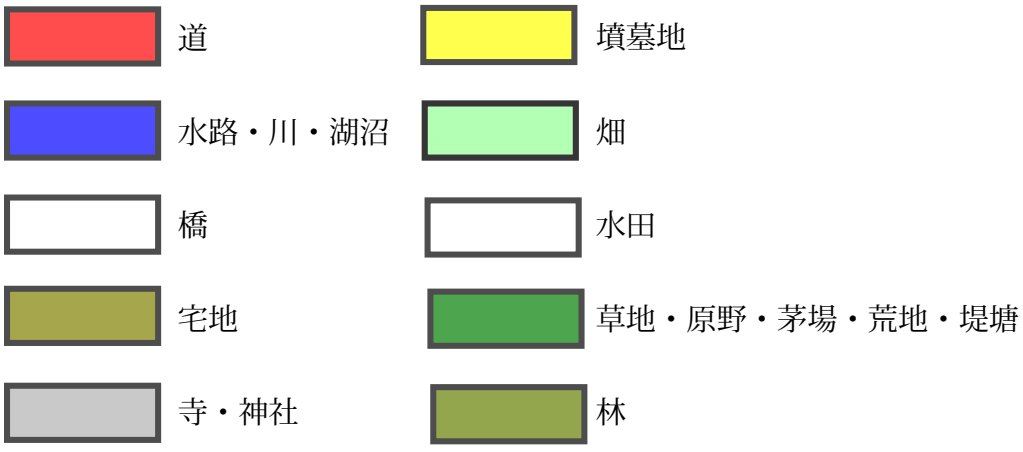
4　本報告書の執筆、編集は角田朋行が行った。

5　字限図のデジタル化は、これまで主に下記の分担により行った。

角田朋行：赤湯、金沢、長岡、椚塚、俎柳、松沢、三間通、上野、二色根、大橋、郡山、島貫、中の目、中落合、西落合、萩生田、若狭郷屋、鍋田、長瀞、蒲生田、高梨、関根、露橋、沖田、坂井、法師柳、宮崎、宮内、金山 、梨郷、和田、竹原、砂塚、羽付 、池黒、漆山

斉藤紘輝：漆山

6　土地利用図の地目毎の塗り分けは下記によった。



目　　次

第１章　調査の概要
１　調査の経緯等 ---------- 1
２　字限図について ---------- 1
３　調査範囲 ---------- 1
４　作図
（１）字限図のデジタル化と土地利用図の作成 ---------- 1
（２）土地利用図等を作成する際の修正について ---------- 3
５　字限図及び土地利用図の活用法 ---------- 3
第２章　土地利用図調査（調査地域全体）
１　宮内扇状地の概要 ---------- 4
２　字限図と古墳について ---------- 8
①稲荷森古墳 ---------- 8
②長岡山古墳群 ---------- 8
③大塚遺跡 ---------- 8
④西高堰古墳 ---------- 10
⑤天王遺跡 ---------- 12
⑥「塚」・「壇」・「森」地名と古墳 ---------- 13
第３章　土地利用図調査（地区別調査）
１　赤湯地区 ---------- 14
（１）赤湯地区の概要と特色 ---------- 14
①白竜湖周辺の土地利用 ---------- 14
②災害地形 ---------- 14
③赤湯地区の集落・屋敷・館等 ---------- 16
（２）土地利用図（赤湯） ---------- 18
①赤湯 ---------- 18
②松沢 ---------- 20
③金沢 ---------- 22
④椚塚 ---------- 24
⑤二色根 ---------- 26
⑥三間通・上野 ---------- 28
⑦長岡 ---------- 30
⑧俎柳 ---------- 32
⑨大橋 ---------- 34
２　宮内地区 ---------- 36
（１）宮内地区の概要と特色 ---------- 36
①門前町の土地利用 ---------- 36

②災害地形 ---- 36
③宮内地区の屋敷・館等 ---- 36
（２）土地利用図（宮内） ---- 38
３　金山地区 ---- 40
（１）金山地区の概要と特色 ---- 40
①災害地形 ---- 40
②金山地区の在家・館等 ---- 40
（２）土地利用図（金山） ---- 42
第４章　南陽市（赤湯・宮内・金山）の小字名及び地名 ---- 46
１　赤湯（１）赤湯・金沢・松沢の小字名・地名 ---- 47
（２）椚塚の小字名・地名 ---- 51
（３）長岡の小字名・地名 ---- 52
（４）俎柳の小字名・地名 ---- 53
（５）三間通・上野、他の小字名・地名 ---- 54
（６）二色根の小字名・地名 ---- 56
（７）大橋の小字名・地名 ---- 57
（８）その他の地名等 ---- 58
２　宮内（１）宮内の小字名・地名 ---- 59
（２）その他の地名等 ---- 61
３　金山（１）金山の小字名・地名 ---- 62
（２）その他の地名等 ---- 64

表 目 次

表　１　字限図保管場所 …… 2
表　２　市内の塚・壇・森の小字名 …… 13
表　３　小字名・地名の出典 …… 46

挿図目次

第 1図　土地利用図　全体 ---------- 5
第 2図　旧河道・微高地 ---------- 6
第 3図　川・堰・堤・孤丘 ---------- 7
第 4図　稲荷森古墳と南森丘陵 ---------- 9
第 5図　稲荷森古墳周辺土取跡推定図 ---------- 9
第 6図　長岡山古墳 ---------- 9
第 7図　大塚遺跡 ---------- 10
第 8図　西高堰古墳 ---------- 10
第 9図　沖郷地区の塚状地割の分布 ---------- 11
第 10図　漆山字天王の地割と遺構 ---------- 12
第 11図　白竜湖周辺の水田 ---------- 15
第 12図　洪水の痕跡 ---------- 15
第 13図　明治８年の赤湯村 ---------- 16
第 14図　赤湯の屋敷や館跡 ---------- 17
第 15図　土地利用図　赤湯 ---------- 18
第 16図　赤湯の小字名 ---------- 19
第 17図　土地利用図　松沢 ---------- 20
第 18図　松沢の小字名 ---------- 21
第 19図　土地利用図　金沢 ---------- 22
第 20図　金沢の小字名 ---------- 23
第 21図　土地利用図　椚塚 ---------- 24
第 22図　椚塚の小字名 ---------- 25
第 23図　土地利用図　二色根 ---------- 26
第 24図　二色根の小字名 ---------- 27
第 25図　土地利用図　三間通・上野 ---------- 28
第 26図　三間通・上野の小字名 ---------- 29
第 27図　土地利用図　長岡 ---------- 30
第 28図　長岡の小字名 ---------- 31
第 29図　土地利用図　俎柳 ---------- 32
第 30図　俎柳の小字名 ---------- 33
第 31図　土地利用図　大橋 ---------- 34
第 32図　大橋の小字名 ---------- 35
第 33図　宮内の屋敷や館等 ---------- 37
第 34図　土地利用図　宮内 ---------- 38
第 35図　宮内の小字名 ---------- 39
第 36図　金山の館等 ---------- 41
第 37図　土地利用図　金山１（南） ---------- 42
第 38図　金山の小字名１（南） ---------- 43
第 39図　土地利用図　金山２（北） ---------- 44
第 40図　金山の小字名２（北） ---------- 45

第１章　調査の概要

１．調査の経緯等

市教育委員会では、市内遺跡分布調査の基礎調査の一環として平成３年度から５年度にかけて市内平野部の字限図調査を実施した。各地区の小字の字限図から字寄図を作成し、それを基本図として土地利用図、旧地形推定図、館跡や条里制等の分布参考図等を作成した。この調査の報告書は未刊行であるが、作成された資料は、その後に実施された各種の遺跡調査において有用性が認められた。近年調査データの蓄積に伴い、当時推定された微高地や旧河道等との比較・検証が可能となってきている。

今次調査では、平成 25 年度から新たに字限図のデジタル化に取り組み、それを元に土地利用図等を作成し、今後の遺跡分布調査等の基礎資料として活用することとした。あわせて関連する小字名･地名についても採録し、本報告書において、市内８地区のうち赤湯･宮内・金山地区分について報告する。

２．字限図について

表題は、明治７年調製のものは地租御改正精絵図、明治８年調製のものは国、郡、村名に続いて字限図、全地字限絵図、字限全地絵図、全地絵図、精絵図、明治 25 年及び 26 年調製のものは単に地図、字切図となっている。様々な名称が用いられているが、本報告書では字限図の呼称を用いる。

南陽市内の明治時代の字限図は、市教育委員会、市税務課、各地区に保管されている。市が保管する字限図は、表１のとおりである。今次調査では、主として明治７年（1874）、８年（1875）、26 年（1893）の字限図を主に使用した。

３．調査範囲

調査範囲は、南陽市域のうち山間部を除いた範囲とし、主に宮内扇状地の地域を対象とした。今次報告地域は、赤湯、宮内、金山である。

４．作図

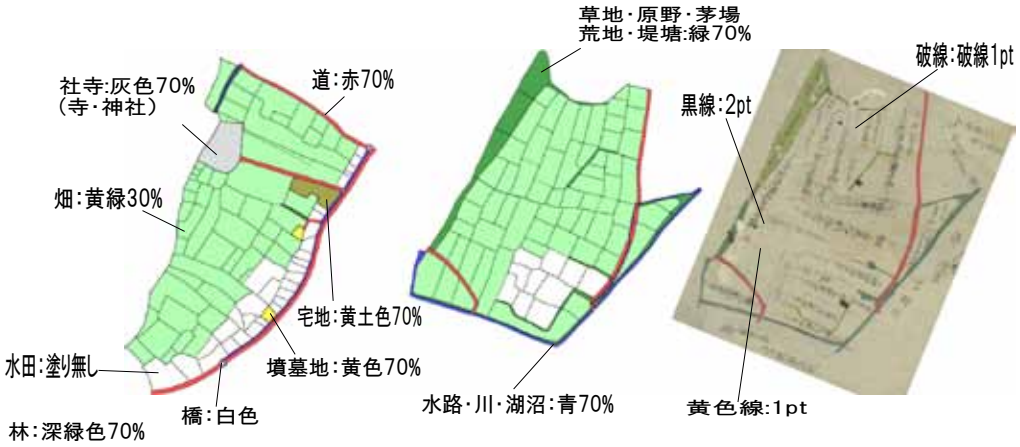
（１）字限図のデジタル化と土地利用図の作成

スキャナーで読み込んだ字限図を１葉ごとデジタルトレースし、作成した小字単位の土地利用図を張り合わせ、地区毎の土地利用図を作成した。

土地利用図を作成するために、小字の輪郭をデジタルトレースし、地目毎に次のような配色で色分けを行った。なお、地目変更がある場合及び畦線等の変更・追加があった場合は古い方を優先とした。ソフトは Inkscape を使用した。

水田は白抜き、畑は黄緑色、草地・原野・萱場・芦場・高岸・砂地は緑色、水路・湖沼・溜池・川は青色、道路は赤色、宅地、公共用地は茶色、墓地は黄色、神社・寺は灰色、山林は濃緑色、温泉は紫色に塗り分け、土地利用図を作成した。

本書に収録した土地利用図のスケールは任意である。



〈区割りレイヤーに記載〉
- 区割り線
- 道、水路（湖沼）
- 草地・原野で水路沿いのものや雨季水路

〈土地利用図レイヤーに記載〉
- 畑・宅地
- 草地・原野・茅場等で面積のあるもの
- 社寺
- 墳墓地

デジタル図化方法

地区		デジタル化数	明治７年	明治８年	明治 25 年	明治 26 年	明治 27 年	明治 31 年	年不明・昭和
赤湯	赤湯	118		○		○		○	
	金沢	36		○		○			
	長岡	31				○			
	椚塚	80				○・地		○	
	俎柳	32				○			
	松沢	32		○	○				
	三間通	59		地					
	上野	19							□
	二色根	32				地			
	大橋	43				□			
沖郷	郡山	39		○		□			
	島貫	17		○		□			
	中の目	55				□			
	中落合	29		○		□			
	西落合	16		○		□			
	萩生田	40		○		□			
	若狭郷屋	24		○		□			
	鍋田	81		○		□			
	長瀞	14		○		□			
	蒲生田	54				□			
	高梨	48		○		□			
	関根	42		○		□			
	露橋	40					□		
	沖田	16		○		□			
	坂井	17		○		□			
	法師柳	25		○		□			
	宮崎	127		○		○・□			
宮内	宮内	201				○			
	金山	150		○	○				
梨郷	梨郷	90		○		□			
	和田	45				○・□			
	竹原	49		○		□			
	砂塚	88				□			
漆山	羽付	32				○			
	漆山	81		○	○	○			
	池黒	67	○						
吉野	荻			○・地		□			
	下荻			○		□			
	小滝					□			
中川	川樋								□
	小岩沢								□
	新田								□
	元中山								?
	日影								?
	釜渡戸								?
	※全ての小字が揃っていないものを含む。								
	○：市史編さん室、地：地区保管、□：税務課保管								

表１　字限図の保管場所

（2） 土地利用図等を作成する際の修正について

個々の字限図は、歪みや計測時の不正確さがあり、隣同士であっても境界の形状が合わないことは珍しくない。地区毎の土地利用図の作成にあたって、その修正については概ね次の方法によった。また、作成した小字単位のデータとそれを集合させた地区毎の土地利用図は別に管理し境界線の修正状況を追認できるように図った。

・地形図に重ね合わせて正誤が判断できる個所は地形図に沿って修正する。
・周辺の図との整合性から、明らかに変形している図のみを修正する。
・どうしても齟齬を生じる境界については、相互の境界線を近づけるように互いの境界線を変形させて擦り合わせる。

なお、中世城館等の埋没遺構等、詳細な検討を要する範囲については、ベースとなる地形図の上に小字単位の土地利用図を重ね、必要に応じて昭和 20 年代等の空撮写真とも照合した。

5．字限図及び土地利用図の活用法

明治期の字限図を元に作成した土地利用図では、重機による大規模な開発が行われる以前の微高地や旧河道といった自然地形、溝跡のような人為的地形が判読可能である。現在は使われていないが明治時代まで使用されていた道や水路の位置も発掘調査前に把握できる。

また、小字名・地名から古墓地、寺跡、神社跡、古墳等が推測される場合や、小字名・地名が土地の成因や環境を示していることも多い。地名については、古語（やまと言葉）による経験則的な地名研究やアイヌ語地名の研究の例も知られており、字名一覧の備考欄には参考としてカナで記載した。また伝承や検討事項等も備考欄に記載した。

土地利用図では、地目（土地利用法）及び地割から得られる情報がある。

地目からは、土地の高低が推測できる。一般に水田は低地である。宅地や畑地は微高地である場合が多い。草地は営農に適さない土地であることが多く、河川沿いの低湿地帯や斜面、崖、水路の肩、塚等に見られる。水田（畑地）の中にぽつりと畑地（草地）が残る場合は古墳、塚、古墓地の可能性がある。このような場合で当該地目内で交点を持つ地境が見られる場合は高塚の可能性がある。

地割からは、館跡、道路跡、水路跡、旧河道、条里水田跡、河川氾濫跡等を読み取ることができる。館跡ではしばしば周囲に堀跡が水田化した地割を見ることができる。

最上川等の河川沿いでは開墾に伴う長割りの地割が見られ、その長軸方向は排水方向に一致する傾向がある。湿地性の水田では、堅田に比べ一区画が小さく密になる傾向がある。

なお、土地利用図は明治初期の状況を示すものである。地名や地割りが年代的にどこまで遡りえるのか、地割りの性格や成因には、発掘調査や文献等の様々な手法による検証が必要である。

第２章　土地利用図調査（調査地域全体）

１．宮内扇状地の概要（第１～３図）

宮内扇状地は、吉野川と織機川等の河川作用で形成された複合扇状地である。宮内の集落地の東を扇頂とし、最上川、吉野川を扇端とする。

扇状地の東側は主に吉野川により形成された地形である。吉野川は扇頂から網状流路状の様相を示しながら南流し、宮内関口付近で更に赤湯方面と沖郷方面に振れる。沖郷方面に流れた吉野川旧河道では、島貫地区の丸堤付近で東西に振れ、中ノ目方面の自然堤防、鍋田方面への自然堤防を発達させた古い流路があると見られる。南西に流れた旧河道は、さらに沖田地区の西で小扇状地状の堆積を示し最上川に至る。赤湯方面に流れた吉野川は孤丘の間を抜けるように南東へ流れ、大谷地の西部を通って俎柳地区の東で西に流れを変える。扇頂に近い宮内市街地は、菖蒲沢から流れ出る宮沢川による扇状地を基盤とする微高地になっており、その微高地と吉野川右岸に堆積した自然堤防が宮内地区を流れる吉野川の西端になっている。

扇状地の西側は主に織機川、上無川の影響を強く受けている地域である。織機川は漆山・池黒集落の北を扇頂とする。織機川は両岸に自然堤防を発達させながら南流し、池黒の羽黒神社付近で東西に振れ本流は南西流するが、旧河道の南東流の跡は上無川に接している。また、織機川の古い流路の痕跡として梨郷砂塚方面に向け２つの自然堤防が延びている。織機川流域では、堆積土への真砂土の混入率が高く、砂塚という地区名にもそれが現れている。上無川は、吉野川旧河道と織機川に挟まれ、吉野川旧河道が丸堤付近の下流域で形成した扇状地状の地形の西辺に沿って南西流する。また、梨郷和田付近では、梨郷堰（上館堰）の河川による自然堤防も見られる。

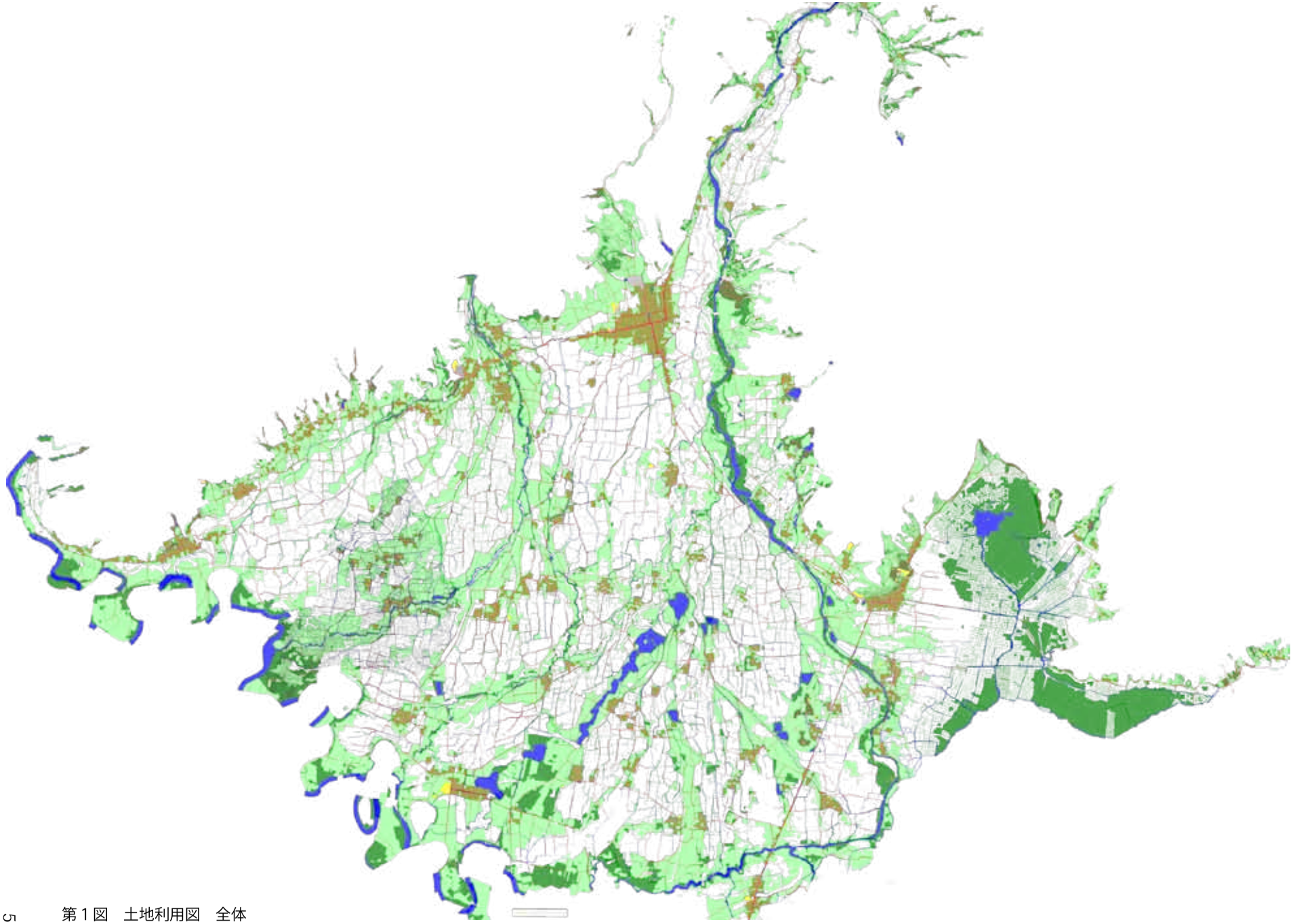
扇端の最上川の流路は蛇行が著しく、たびたび氾濫し、境界争いが生じた歴史を持つ。流路跡にはいくつかの河跡湖があったと思われる。

宮内市街地の南には、条里制の遺構と思われる方形地割が多く残る。このような方形地割は、宮内から沖郷地区の蒲生田、郡山、赤湯地区の三間通付近に見られ、沖郷条里制として知られる。

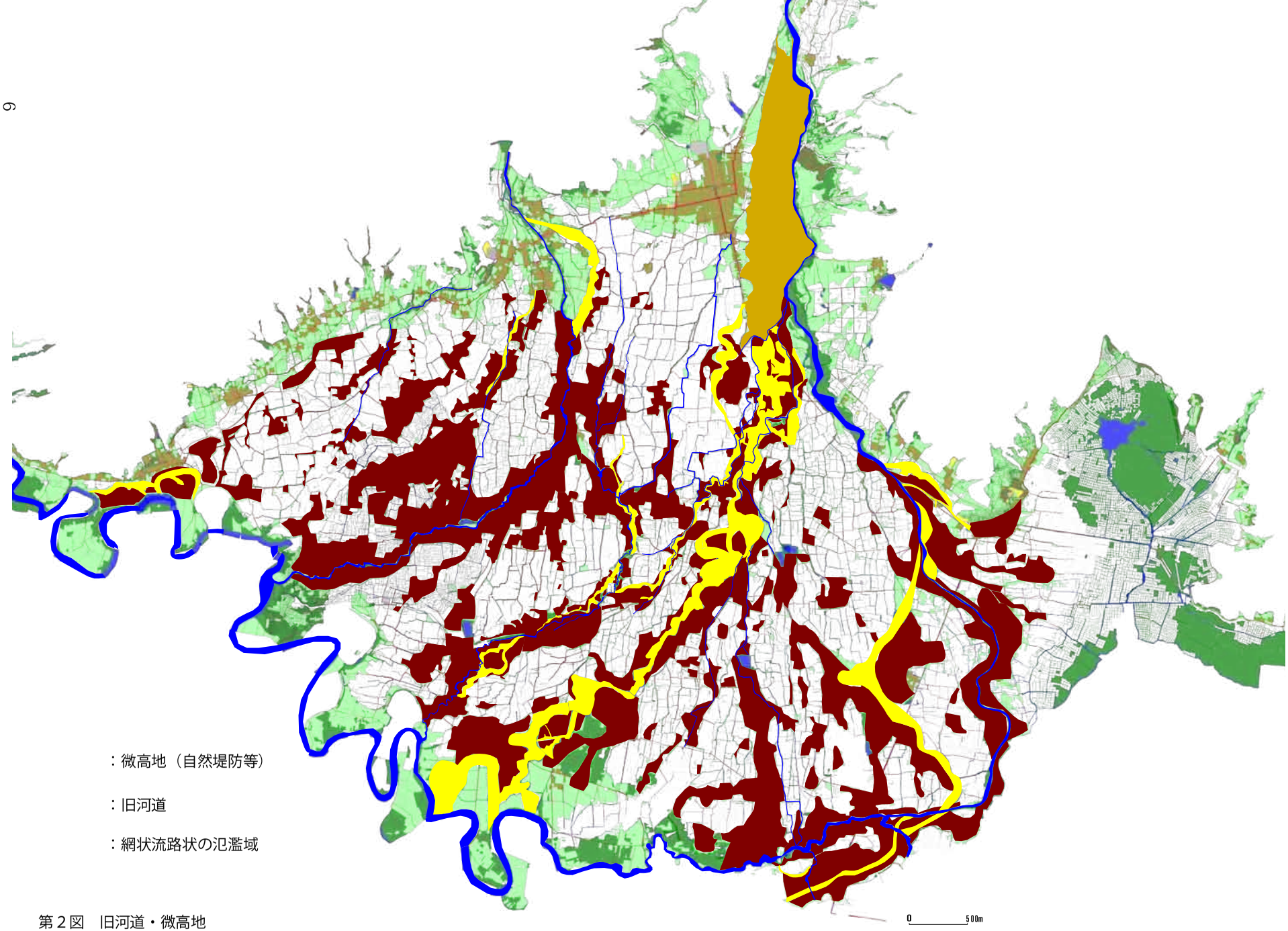
堰や堤は、山間部を除くと、山裾に設置されるものと旧河道を利用して設置されるものに大別される。

山裾の堤は、梨郷の片岸の堤、宮内のからばち堤、内原堤、赤湯の西町の堤、南森丘陵の裾にあった清水尻の堤等がある。旧河道を利用した堤は、沖郷地区を流れていた吉野川旧河道の堤群（丸堤（上堤）・長堤、島堤、中堤、備堤、合羽堤、弁天堤、蓮堤、宮崎持上堤、西堤、蓮池）、そこから分流した郡山堤、中ノ目堤、新堤（前小屋堤）がある。また赤湯には同様に古堤、千刈田堤、長岡堤、俎柳堤がある。織機川の旧河道を利用したものとしては砂塚字堤端の堤がある。その他、関根堤、鵜ノ木堤が見られる。

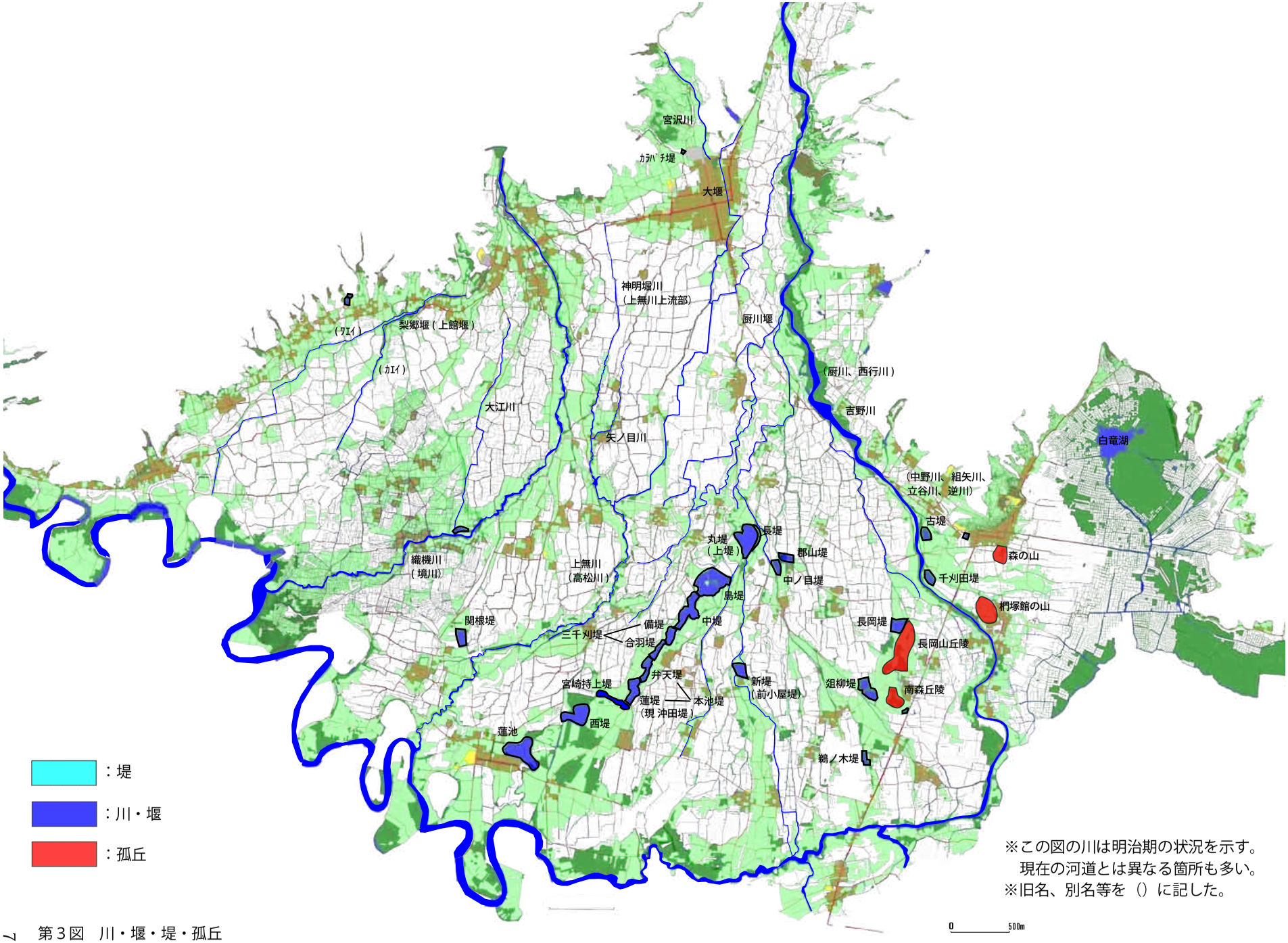
現在は埋め立てられた堤もいくつかある。



第１図　土地利用図　全体



第２図　旧河道・微高地



※この図の川は明治期の状況を示す。
現在の河道とは異なる箇所も多い。
※旧名、別名等を（）に記した。

第３図　川・堰・堤・孤丘

２．字限図と古墳について

字限図から作成した土地利用図では、古墳や塚と思われる地形を読み取ることができる。古墳がどのように字限図に表現されているか検証しながら、古墳の可能性がある地形について俯瞰する。

①稲荷森古墳

市内の古墳で、平地部に立地する古墳では、赤湯の長岡地区に所在する稲荷森古墳が知られている（第４図）。稲荷森古墳の字限図では、墳丘はすべて山林で、地割形状は前方後円墳の地形を元にしていることが分かる。

見るべき点は、後円部の頂上付近で三本の区画線が交わっている点である。これは山の字限図で山の稜線に沿って地割した状況に類似し、これが高塚であることを表している。草地や山林が平野部に点在し、その地目内の中央付近で区画線が交わるものは高さのある地形、高い塚を成している可能性があると見ることが可能であり、字限図から古墳や塚を推定するうえで考慮しておく必要がある。

なお、稲荷森古墳では平成５年度の字限図調査で、墳丘周りの大区画地割や南東の農道が旧丘陵の地山ラインを反映していることや、古墳東側の丘陵切離し幅が約 20 ｍであることが推定され、その後に実施された発掘調査等からその推定が概ね妥当であることが確認されている（第５図）。また、他地域の古墳では周溝が古墳を取り囲む水田跡として見られる場合があるが、稲荷森古墳ではそのような明確な周溝跡は見られず、この点も発掘調査結果と一致している。

隣接する南森丘陵は、稲荷森古墳以上に周囲の斜面が明確に区画されており、高さのある丘であることがわかる。南森丘陵は古墳かどうかの確認調査が進められている。

②長岡山古墳群

長岡山丘陵の尾根に立地する古墳群である。墳丘は削平され周溝のみ検出された。また主体部が１箇所確認されているが、これに伴う溝跡は検出されず墳丘は不明である。

第６図は長岡山の土地利用図と遺構の位置を示した図である。長岡山は中世館が作られた歴史を持ち、明治８年段階で古墳群を示す地割は既に見られない。

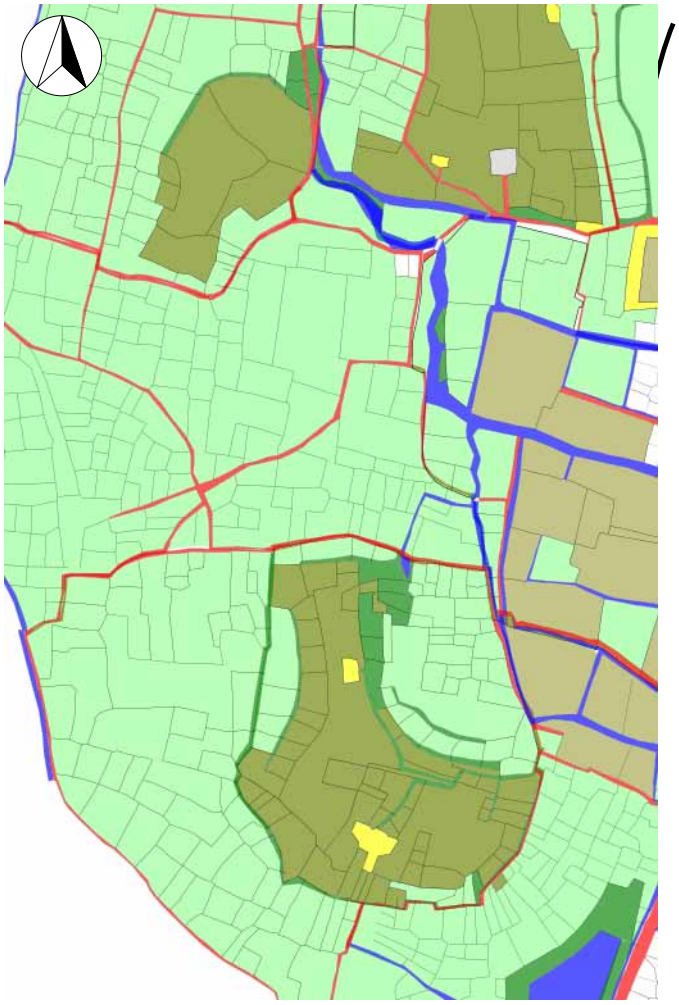
ただし、山頂部の南東端に方形に近い地割の山林が残存している。濃い緑色は草地で斜面や窪地と見られ、当該地割の北辺は窪んでいたか、或は山林部を最高所とする斜面と思われる。この方形地割は、館跡による地形か或は方墳であった可能性はあるが、現在は完全に削平・消滅しており、検証することができない。

③大塚遺跡

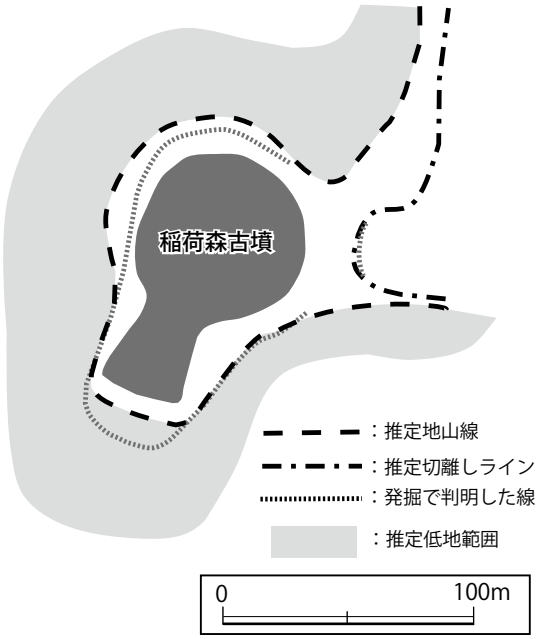
沖郷の萩生田地区に位置する。吉野川旧河道の右岸に古墳群又は方形周溝墓が 15 基確認されている。第７図は大塚遺跡周辺の土地利用図と遺構の位置を示した図である。発掘された古墳のうち最大の古墳（SH257）が、明治８年時点で墳丘の一部が残存していたことが分かる。

この事例のように、古墳や塚は水田や畑地内にぽつんの残る草地として表現されている場合があり、古墳群の南に見られる小さな草地群も、このような墳丘の残存の可能性が考えられる。

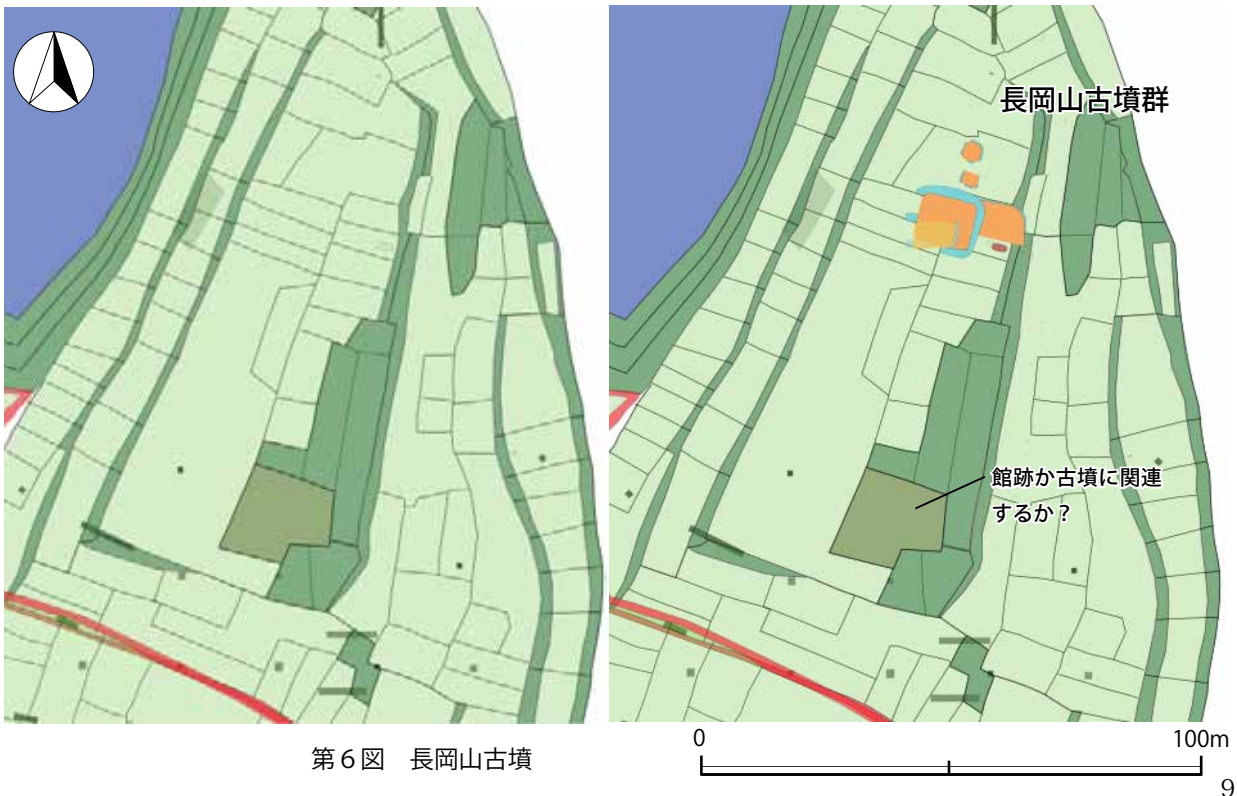
また、現存する馬の墓古墳は方形の神社地として表現されている。



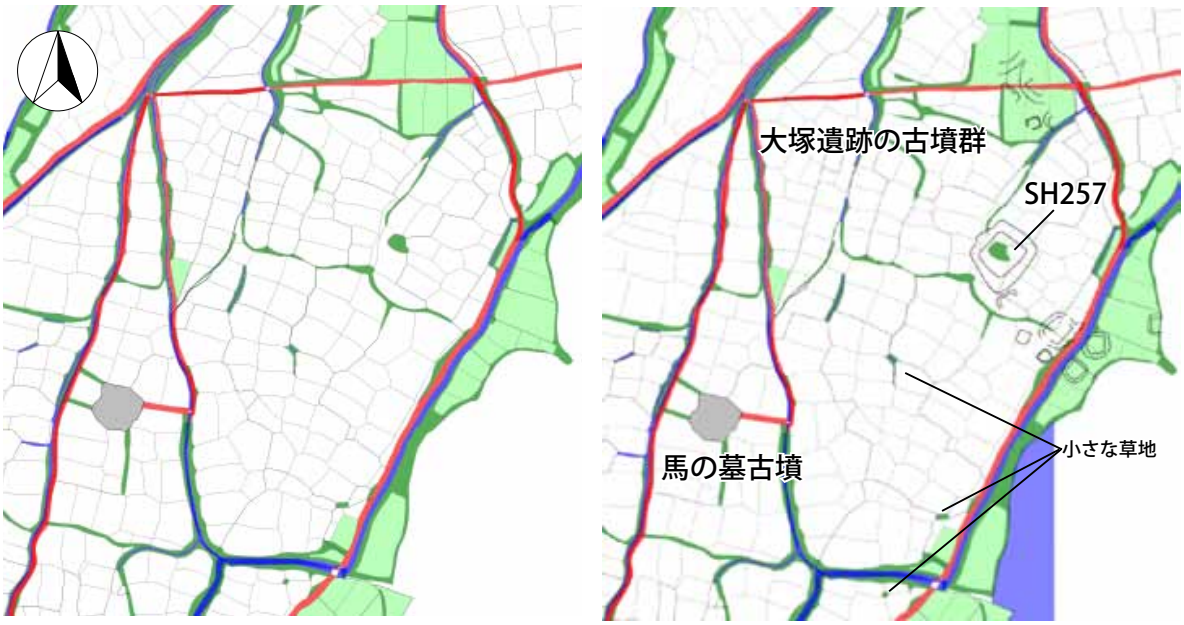
第４図　稲荷森古墳と南森丘陵



第５図　稲荷森古墳周辺土取跡推定図



第６図　長岡山古墳



第７図　大塚遺跡

大塚遺跡周辺地で、この事例に似た水田や畑地内にぽつんの残る草地を第９図に示す。多くは吉野川旧河道沿いの自然堤防上に立地し、立地環境も類似する。A ～ K 地点のうち現在塚状の地形が残るのは J 地点のみである。C 地点は、地目内で区画線が交差しており高塚であった可能性が高い。この隣地では試掘調査が実施されており、古墳時代の高坏等の土師器が出土している。また C の北側、島貫共同墓地付近を通称「狐壇（きつねだん）」と言い、経塚状のものがあったと地元に伝わる。J 地点は地権者の話では昔から塚状であったと言うが、庭の築山のような状態である。

第９図に示した他、同様の草地は、沖郷の高梨字富塚、法師柳字川久保・千刈田、法師柳字北ノ前２、池黒の字弁天でも確認される。このうち高梨字富塚では古墳時代前期の土師器甕が、池黒字弁天では古墳時代中期の高坏が出土又は表採されている。

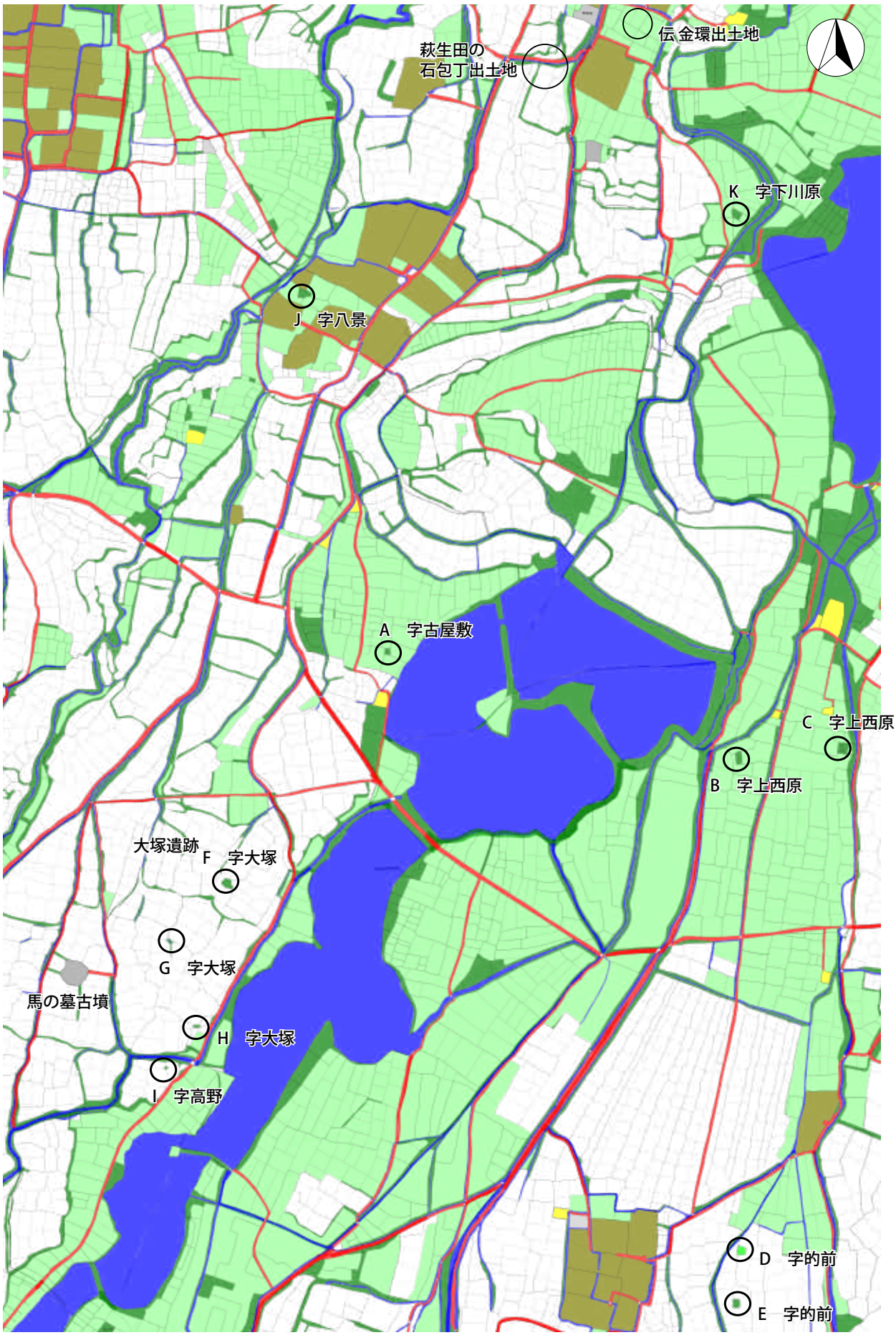
④西高堰古墳

西高堰古墳は、漆山字西高堰１、織機川旧河道と大江川の自然堤防上に立地する。昭和 34 年に地元有志が発掘を行った。墳頂からは川原石が多量に検出されたが、出土品は無かったと言う。

直径 16m の円墳で高さは２ｍとされる。現在は削平されて墳丘は消滅している。明治８年の字限図（第８図）では、畑地内にぽつんと草地があり、その中心を交点とした複数の区画線が見られる。高塚である場合に見られる地割であり、高さが２ｍあったという記録に一致する。

西高堰古墳の南西の自然堤防には弥生時代の遺跡でもある大仏遺跡や古墳群が確認された天王遺跡が広がる。

第８図　西高堰古墳



第９図　沖郷地区の塚状地割の分布

⑤天王遺跡（古墳群）

天王遺跡は、漆山字天王に所在する。織機川の旧河道、大江川右岸の自然堤防上に立地する。平成 18 年度に県埋文センターにより発掘調査が実施され、古墳時代前期の円墳３基と方形館跡とみられる遺構が検出された（第 10 図）。字名の天王は、牛頭天王を祀る神社に由来する。牛頭天王社は古墳群の北に位置し、字限図では隅丸方形の草地として表現されている。平成５年字限図調査の時点で牛頭天王社のあるこの草地は円墳の可能性が高いと把握していたが、その後の発掘により近接して３基の古墳が確認されたことで、よりその可能性は高まった。

調査で検出された３基の古墳は、明治８年段階で既に削平されていたと思われ、地割から古墳を読み取ることはできない。

また、発掘調査で検出された方形居館跡であるが、字限図では水田や畑地の区割りにその堀跡の痕跡が残る。故錦三郎氏の研究によれば、この場所には漆山在住の吉田氏の屋敷があったという。

第 10 図　漆山字天王の地割と遺構

氏家信行ほか　2007『大塚遺跡・西中上遺跡発掘調査報告書』
（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 158 集）財団法人山形県埋蔵文化財センター
髙橋一彦ほか　2010『天王遺跡第１・２次発掘調査報告書』
（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 186 集）　財団法人山形県埋蔵文化財センター

⑥「塚」・「壇」・「森」地名と古墳

市内の「塚」のつく小字名は、山を除く平地では 17 箇所である。沖郷 10 箇所、赤湯 4 箇所、漆山 2 箇所、梨郷 1 箇所で、このうち一つの範囲を隣り合う地域で分割している例が見られるため、その重複を除けば、計 14 地点となる。山間地では金山 1 箇所、吉野 1 箇所に塚地名が見られる。地名の由来として、主なものとして古墳、経塚、洪水堆積土、墓地が考えられ、それ以外を不明としてこの 14 地点を見ると、古墳に関連するのは 4 地点（28.6％）、経塚は 4 地点（28.6％）、洪水堆積土は 3 地点（21.4％）、墓地（伝首塚）は 1 地点（7.1％）、 不明 2 地点（14.3％）である。

次に市内の「壇（檀・段）」のつく小字名は、山を除く平地で 26 箇所である。沖郷 12 箇所、赤湯 4 箇所、漆山 3 箇所、梨郷 6 箇所、宮内 1 箇所である。山間地では金山 1 箇所、吉野 2 箇所に壇地名が見られる。「塚」と同様に由来を見ると、経塚は 1 地点（3.4％）、洪水堆積土は 3 地点（10.3％）、墓地は 15 地点（51.7％）、不明は 10 地点（34.5％）である。

「森」のつく小字名は、山を除く平地で 7 箇所である。赤湯 6 箇所、中川 1 箇所である。山間地では、赤湯 1 箇所、中川 3 箇所、漆山 3 箇所、梨郷 10 箇所、金山 1 箇所、吉野 21 箇所となっている。いずれも由来はドーム状に盛り上がった丘や山にちなむと思われる。平地にある 7 地点をみると、赤湯では、森の山に由来するのが 3 地点、稲荷森 1 地点、南森 2 地点、中川は中ノ森 1 地点である。このうち山自体を示す地名は、「森」「稲荷森」「南森」「中ノ森」で、このうち「稲荷森」は稲荷森古墳、「中ノ森」は館跡である。

小字名の採録地点が市内に限定されているものの、「塚」地名のある所に墓地はほとんど無く、古墳や経塚が多い傾向が見られる。逆に「壇」地名は、墓地に由来する傾向が強いと考えられる。また、ともに河川氾濫域では洪水による土砂堆積地を示す地名にも用いられる場合があるようである。

地区名		塚地名
沖郷	蒲生田	塚田
	郡山	塚田
	関根	三ツ塚
	高梨	富塚
	中の目	経塚
	中の目	北経塚
	萩生田	大塚
	宮崎	三ツ塚
	中の目	南経塚
	鍋田	南経塚
赤湯	大橋	南経塚
	赤湯	塚田
	椚塚	塚田
	大橋	安塚
漆山	漆山	塚原
	漆山	備後塚
梨郷	梨郷	経塚

地区名		壇地名
沖郷	坂井	壇之前
	高梨	大角壇
	高梨	壇之前
	高梨	伊與壇
	長瀞	庚壇
	長瀞	壇ノ越
	中の目	檀ノ前
	鍋田	庚檀
	鍋田	檀ノ前
	鍋田	宝蔵檀
	鍋田	味之助壇
	元鍋田	飛牛壇
赤湯	赤湯（松沢）	段前
	椚塚	松木檀
	椚塚	松浦檀
	三間通	平蔵壇
漆山	池黒	庚檀
	池黒	壇の前
	池黒	五倫壇
梨郷	梨郷	松木壇
	梨郷	庚申壇
	梨郷	壇ノ前
	和田	和光院壇
	竹原	法界壇
	竹原	檀ノ入
宮内	宮内	大壇
金山	金山	和尚壇
吉野	上荻	浄海壇
	下荻	二十日壇

地区名		森地名
赤湯	赤湯	森前
	赤湯	森先
	赤湯	森
	赤湯	初森山
	長岡	稲荷森
	長岡	南森
	長岡	南森西
中川	釜渡戸	中ノ森
	川樋	森前
	川樋	中ノ森
	小岩沢	黒森山
吉野	太郎	丸森
	太郎	大森山
	太郎	梨ケ森
	下荻	高森
	下荻	中ノ森
	下荻	入中森
	下荻	中ノ森山
	下荻	森ノ腰
	上荻	神明森
	上荻	森
	上荻	小森
	上荻	躑躅森
	上荻	丸森
	上荻	中森
	上荻	入中森
	上荻	壱盃森
	上荻	茄子森
	上荻	恵美須森

地区名		森地名
吉野	上荻	明神森
	上荻	梨ケ森山
	小滝	中森沢
金山	金山	八森
漆山	池黒	貞白森
	漆山	手白森
	漆山	手白森山
梨郷	梨郷	大森
	竹原	丸森沢
	竹原	小丸森沢
	竹原	大丸森沢
	竹原	黒森
	竹原	丸森
	竹原	大森
	竹原	南黒森
	竹原	峰ケ森
	竹原	蜂ケ森

表２　市内の塚・壇・森の小字名

第３章　土地利用図調査（地区別調査）

１．赤湯地区

（１）赤湯地区の概要と特色

赤湯地区は、宮内扇状地南東の扇端に位置し、北に白鷹山山地の大平山地南端にあたる烏帽子山、東に大湿地帯である大谷地が広がる。

烏帽子山から長岡にかけて、森の山（消滅）、椚塚館の山、長岡山、長岡南森といった独立丘陵が大谷地の西方に連なる。吉野川が貫流しており、南東に向かって流れた河道は俎柳地区東側で西に流れを大きく転じる。

字限図から作成した土地利用図を見ると、白竜湖を中心とした大谷地特有の土地利用状況が特徴的である。また、独立丘陵や自然堤防に立地する集落（椚塚、長岡、俎柳、大橋）、 山裾の集落（赤湯、金沢、松沢）が見られ、大谷地や河川による低地を避けた集落配置が伺われる。吉野川の旧河道沿いにはいくつかの堤（古堤、千刈田堤、長岡堤、俎柳堤）が見られる。また、白竜湖周辺には複数の池塘が存在していたことが分かる。

①白竜湖周辺の土地利用（第 11 図）

白竜湖周辺では、かつては大きく五つに分類される特色ある水田が見られた。一つは普通の「堅田」で、県道 102 号（旧国道 13 号）の西側、次に耕耘に牛馬の使用可能で膝くらいまで泥に沈む「ひどろ」と呼ばれる泥田、「ひどろ」の次には牛馬が入ることができない「中段」、その次に深い泥田である「谷地田」が続く（特に深い水につかっている泥田は「どんぶけ谷地」と呼ぶ）。最後に、泥炭原野を谷地鎌で開墾した「起こし田」がある。

土地利用図を見ると、湖の東には広大な原野が広がり、地目は草地、萱場である。白竜湖の西から南に接する水田は畦畔の幅が特に太く、長方形の区画（緑色）が目立つ。この範囲が「起こし田」の範囲と思われ、泥炭湿地を谷地鎌で切って開墾した水田であろう。切り残した部分を畦畔にするため、そこが草地として表現される。

その外側は大区画の水田である。図では白く見える範囲で「谷地田（どんぶけ谷地）」と呼ばれた田んぼと思われる。深い泥田であるために小区画の畦畔を作ることができない範囲と思われる。当時の道（赤い線）もそのほとんどが「谷地田」の範囲の手前で途切れており、その先は歩いていくことができない状況がうかがえる。

大区画水田の外側には不整形の小区画の水田が見られる。「中段」と呼ばれる牛馬が入れない泥田と思われる。堅田と湿地の境に分布するのは、「ひどろ」と呼ばれる膝までの泥田である。「中段」と「ひどろ」の境は図では明瞭ではないが、より太い道があり、畑が散見され始めるあたりが「ひどろ」の範囲ではないかと思われる。これらの特徴的な泥炭水田は現在は土地区画整理事業によって乾田化されている。（参考　白竜湖（2） ―平成 28・29 年度　山形県指定天然記念物 白竜湖泥炭形成植物群落調査報告書―　2018 年 3 月南陽市教育員会）

②災害地形（第 12 図）

災害地形として、古堤 (字堤端）の東方及び千刈田堤（字湯河原）の南東に水田の中に多くの島状の畑地が残る。おそらくこれは過去の水害による土砂堆積地で、溜まった土を除去しきれなかったものと思われ、この島状畑地の分布する範囲は洪水の被災範囲

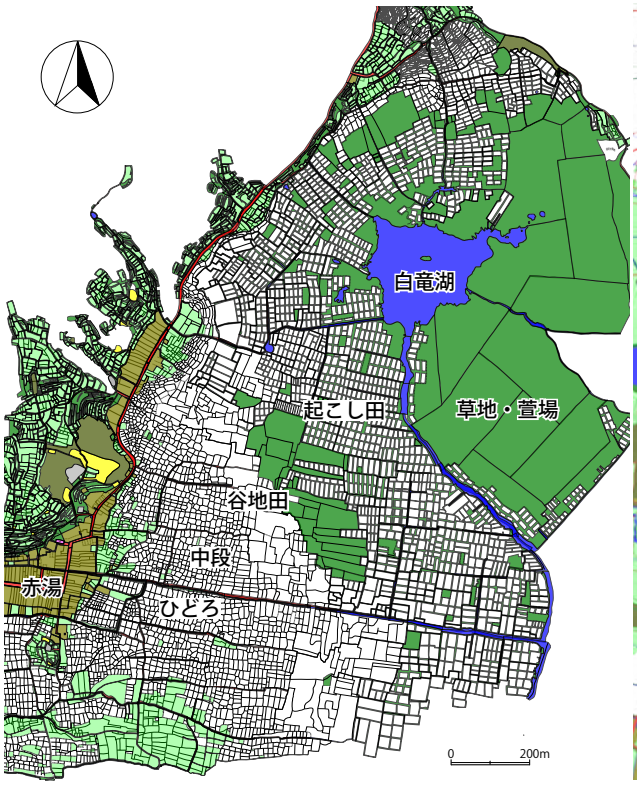
と考えられる。この島状畑地の分布が見られる起点は、一つは古堤付近で、そこから吉野川左岸を南東に広がる。古堤の付近には字名として川原、石田、石法花、川端が見られ、その末端は椚塚字砂田付近である。もう一つは千刈田堤付近でそこから吉野川右岸を南東に広がり、末端は長岡字砂原付近である。

この土地利用図は明治８年（1875）の状況を示している。明治８年から概ね 100 年前までの災害史を見ると下記の記録がある。

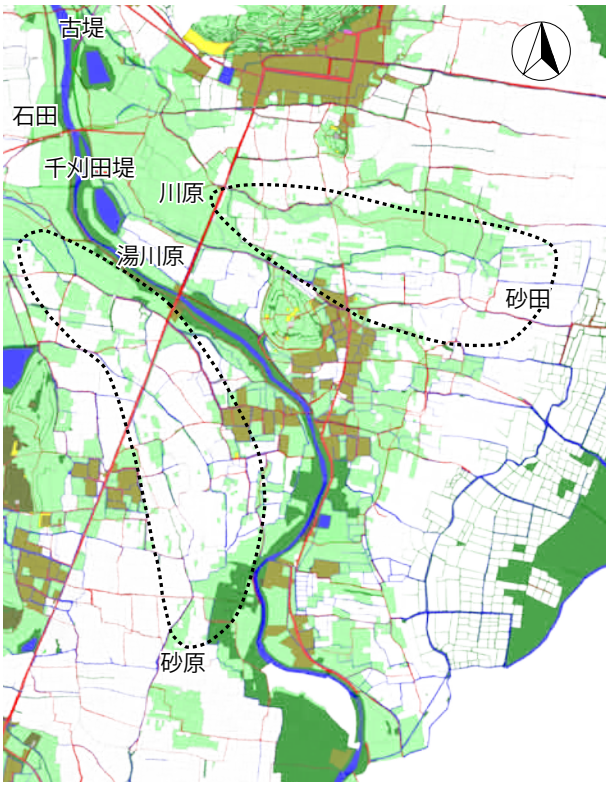
・６年前、明治２年（1869）の洪水
・43 年前、天保４年（1832 前）の洪水。吉野川堤防 60 間押切りで泥海となる。二色根、俎柳の川欠け。
・45 年前、天保元年（1830）の洪水。北条郷宝暦７年以来の洪水。吉野川・池黒川（織機川）氾濫し、赤湯の町は舟で通行、宮内は４尺余、砂塚・関根・宮崎・池黒・漆山辺りも３・４尺の水付き、諸所の堤抜ける。
・118 年前、宝暦７年（1757）の洪水。５月 24 ～ 27 日の大雨で２丈７尺の出水といい、赤湯は大川となり、織機川も大氾濫して流路を変えたと伝える。

これらの記録から洪水の規模や被災年からの経過時間を考えると、島状畑地を形成した洪水は天保元年か天保４年の洪水が原因の可能性が高いと考えられる。

この他の災害地名としては、椚塚字押出は、洪水により押し寄せた土砂の堆積を示し、三間通字堰欠は洪水で堰が破損したことを示す小字名である。



第 11 図　明治８年　白竜湖周辺の水田



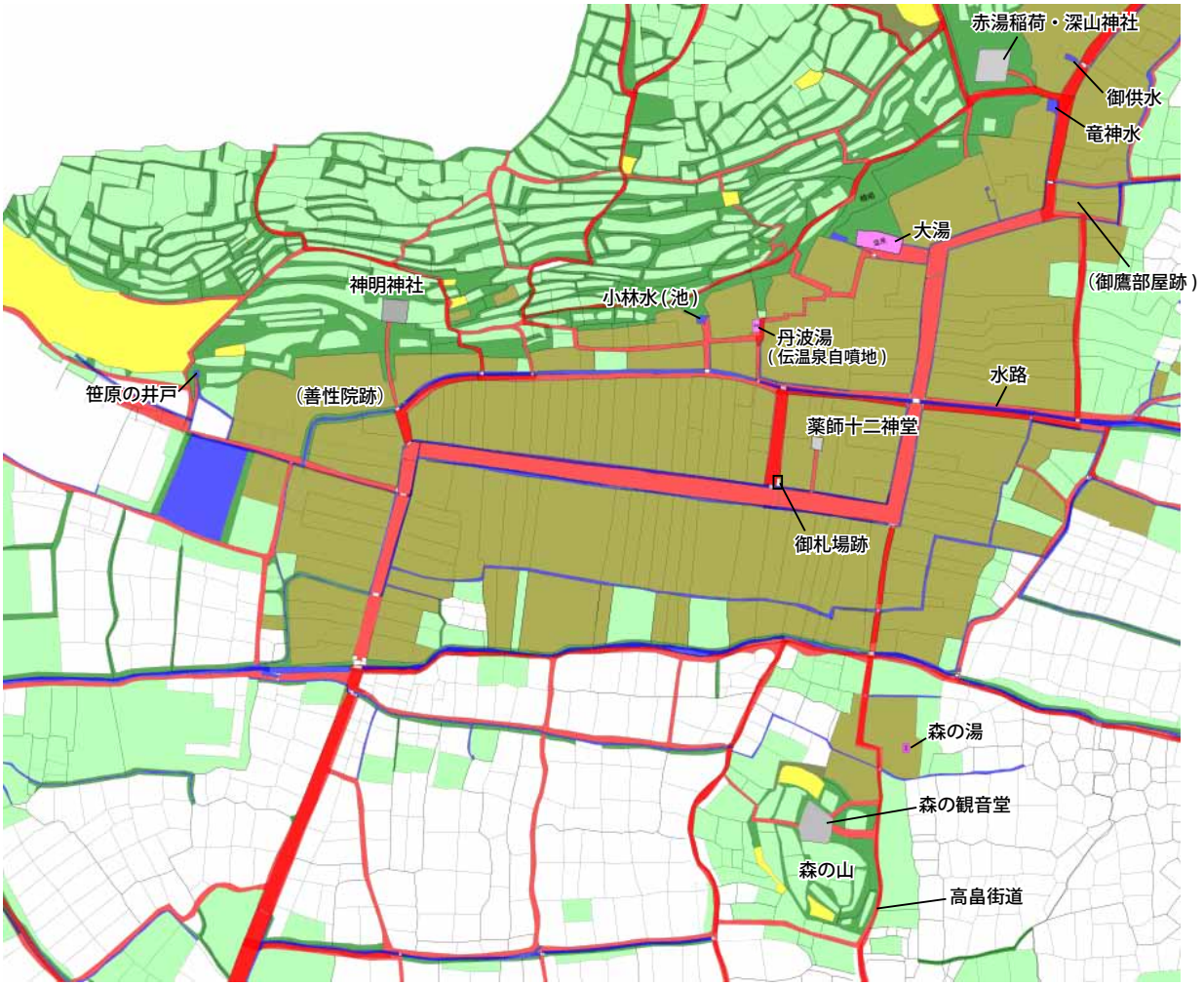
第 12 図　洪水の痕跡（島状畑地）

③赤湯地区の集落・屋敷・館等

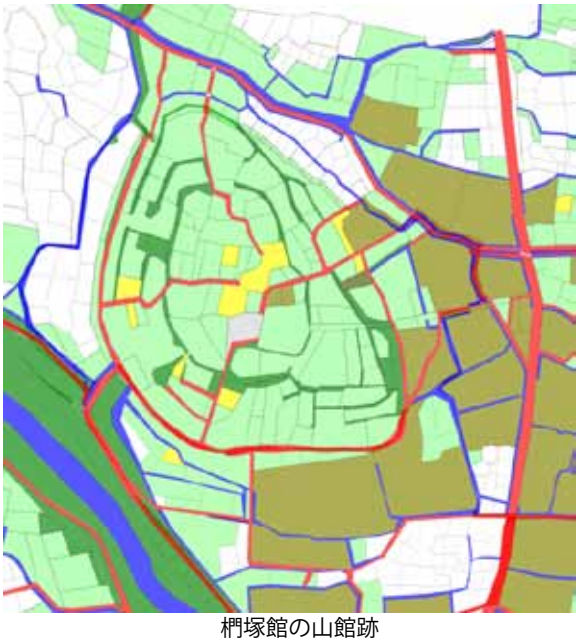
明治８年の赤湯村の集落を第 13 図に示す。集落の規模は江戸時代からあまり変わっていない。江戸時代には結城記念館前北東角と清水町の永仁二年磨崖板碑の所に町に出入りするための木戸が置かれ、その内側が赤湯であった。表町通りは長岡表町線（結城記念館前の通り）の所でＬ字に屈曲しており、現在のように直進していない。大谷地から続く水路は西町の堤まで続いており、現在の御神坂の下まで谷地舟での往来ができたという。

字限図で判読可能な屋敷･館跡（第 14 図）は、椚塚館の山館跡、俎柳館跡、東唐越館跡、長岡館跡、大橋城・御殿跡、大橋古館跡（油小林在家）である。

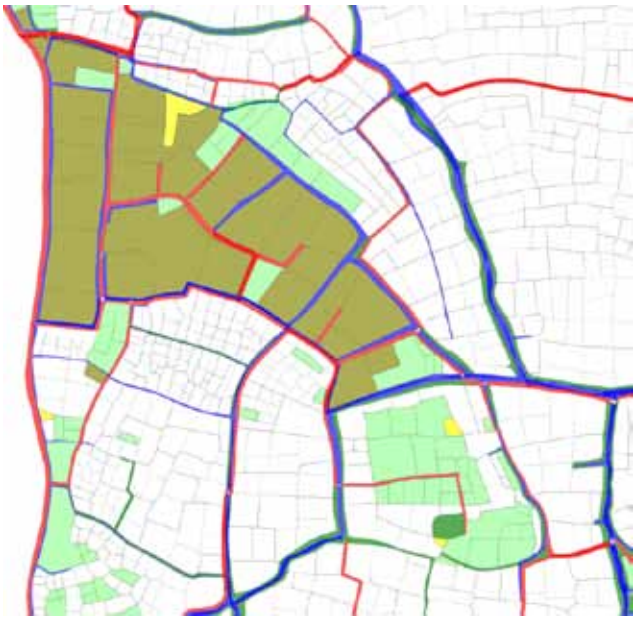
椚塚館の山館跡は、周囲を水堀で囲む卵型の丘城で、水堀跡は水田になっている。山の斜面に数段の曲輪が確認される。俎柳館跡は、街道から一番遠い東端に方形館を置く。方形館の周囲の堀跡は水田になっている。東唐越館跡は、五角形を呈し、周囲の堀跡は水田になっている。長岡館跡は、長岡山丘陵に立地し、南北に長い長方形を呈し、三段の曲輪が確認できる。頂上は南と北に分かれていた可能性がある。大橋城は、水田になった堀跡に囲まれた方形の主郭と、堀の役目を果たす旧河道を挟んで南に御殿跡が確認できる。大橋古舘跡は、西堀と南東角の堀が水田としてわずかに残るが大部分は畑地となっている。畑の区画から方形の屋敷跡が確認でき、湯目文書に出てくる油小林在家の可能性がある。



第 13 図　明治８年の赤湯村



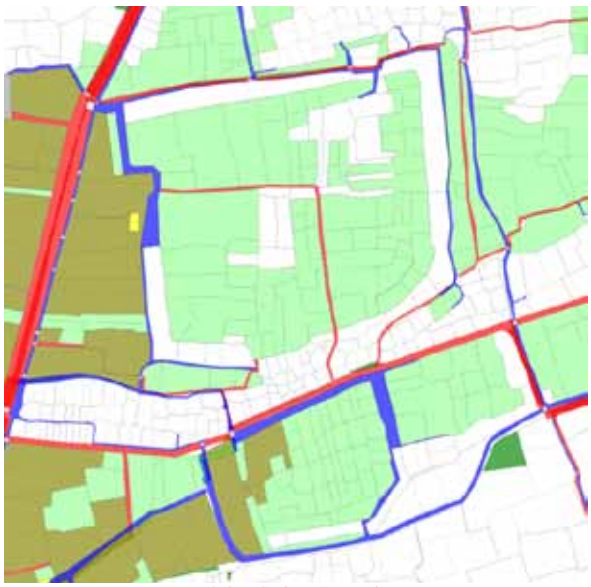
椚塚館の山館跡



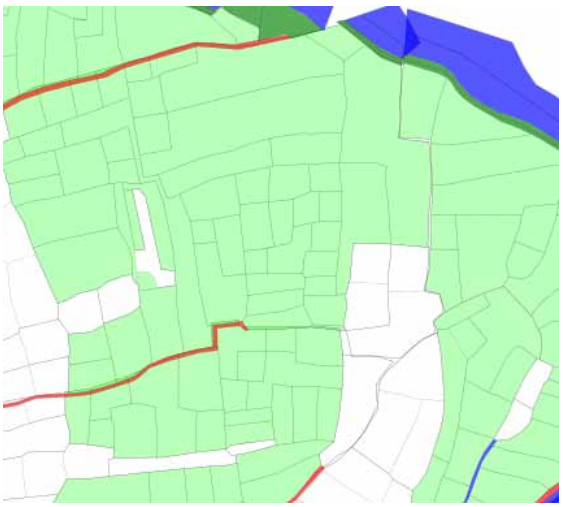
俎柳館跡

東唐越館跡

長岡館跡



大橋城跡・御殿跡



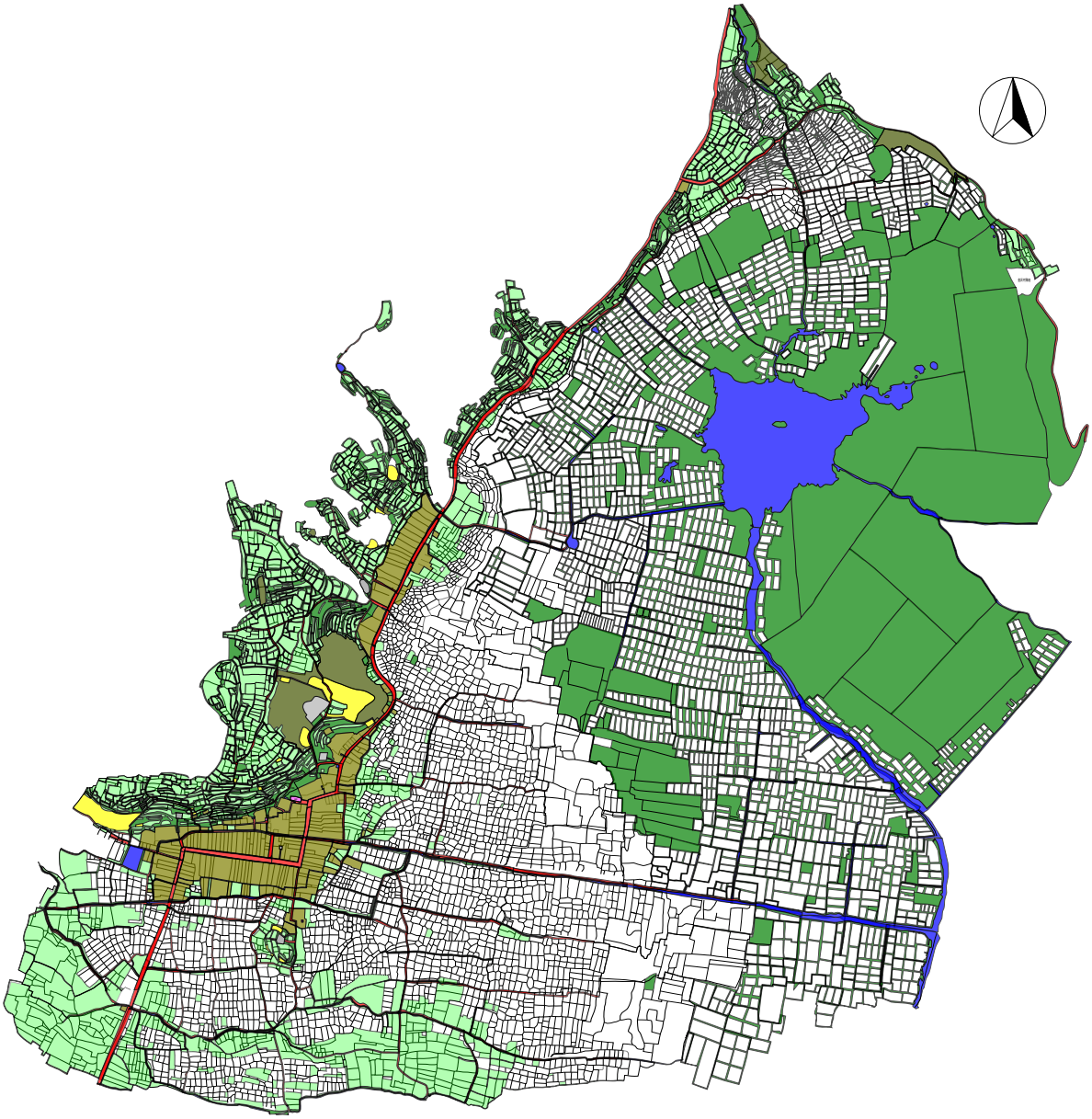
大橋古館跡（油小林在家）

第 14 図　赤湯の屋敷や館跡

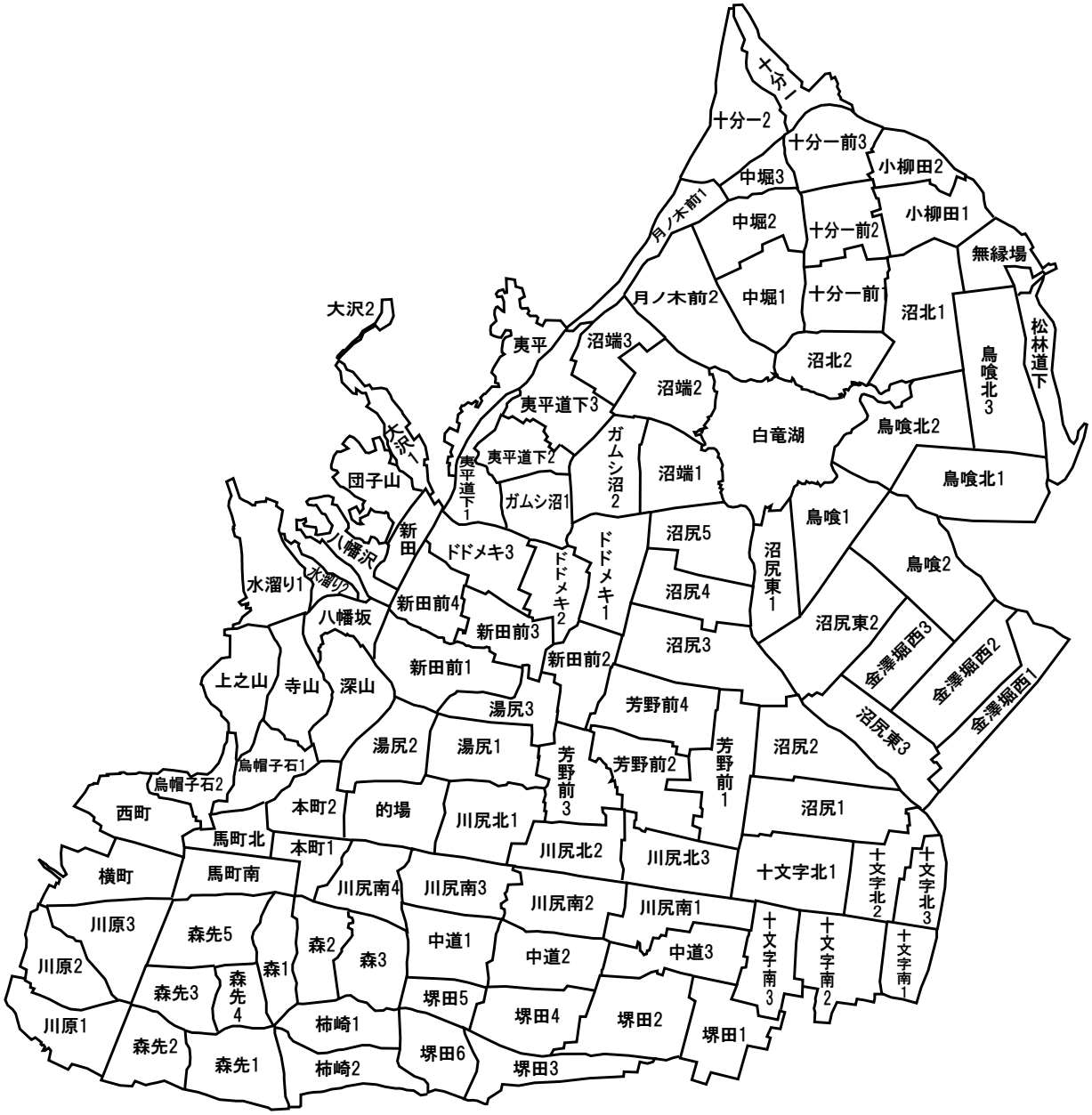
（2）土地利用図（赤湯）

①赤湯

大谷地､特に白竜湖に関連する地名が湖を中心に同心円状に分布する。湖の東には｢鳥喰」地名が見られる。現在も萱地で多くの鳥の繁殖地になっている。南は「沼尻」地名で湖の末端の意味で、その外側に「芳野前」､「新田前」が見られる。西は「沼端」､「ガムシ沼」､「ドドメキ」等、沼や湖への流水に関する地名が見られる。北には「中堀」が見られ十分一山からの水路を示す。集落は､馬町､本町に集中し､山添いに現在の清水町､北町方面へ集落が連なる。「馬町」は馬市にちなむ名称である。正保２年に馬市が設けられる以前は「新町（ｱﾗﾏﾁ）又は荒町」で、「深山」「寺山」に位置する深山寺或いは東正寺を背景とする商業地であったと思われる。「森」は森の山に由来する。「川原」は河川敷である。



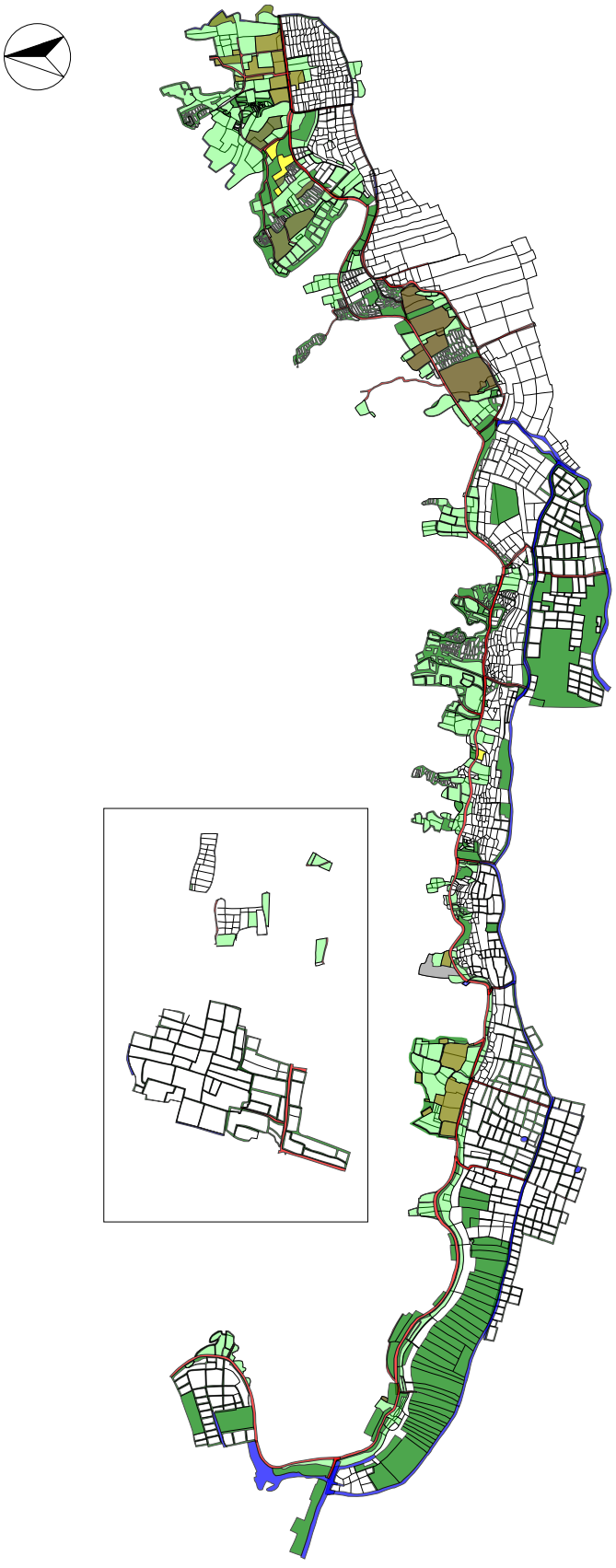
第 15 図　土地利用図　赤湯


十分一1
十分一2
十分一前3
小柳田2
中堀3
月ノ木前1
中堀2
十分一前2
小柳田1
無縁場
月ノ木前2
中堀1
十分一前1
沼北1
松林道下
大沢2
夷平
沼端3
沼北2
鳥喰北3
沼端2
白竜湖
鳥喰北2
夷平道下3
大沢1
夷平道下2
ガムシ沼2
沼端1
鳥喰北1
団子山
夷平道下1
ガムシ沼1
鳥喰1
新田
沼尻5
八幡沢
ドドメキ3
ドドメキ2
ドドメキ1
沼尻東1
鳥喰2
水溜り1
水溜り2
新田前4
沼尻4
八幡坂
新田前3
沼尻東2
金澤堀西3
新田前2
沼尻3
新田前1
金澤堀西2
上之山
寺山
深山
湯尻3
芳野前4
金澤堀西1
沼尻東3
湯尻2
湯尻1
芳野前3
芳野前2
芳野前1
沼尻2
鳥帽子石1
鳥帽子石2
西町
本町2
的場
川尻北1
沼尻1
馬町北
本町1
川尻北2
川尻北3
十文字北1
十文字北2
十文字北3
横町
馬町南
川尻南4
川尻南3
川尻南2
川尻南1
十文字南3
十文字南2
十文字南1
川原3
森先5
森2
森3
中道1
中道2
中道3
川原2
森1
森先3
森先4
堺田5
堺田4
堺田2
堺田1
川原1
森先2
柿崎1
堺田6
森先1
柿崎2
堺田3

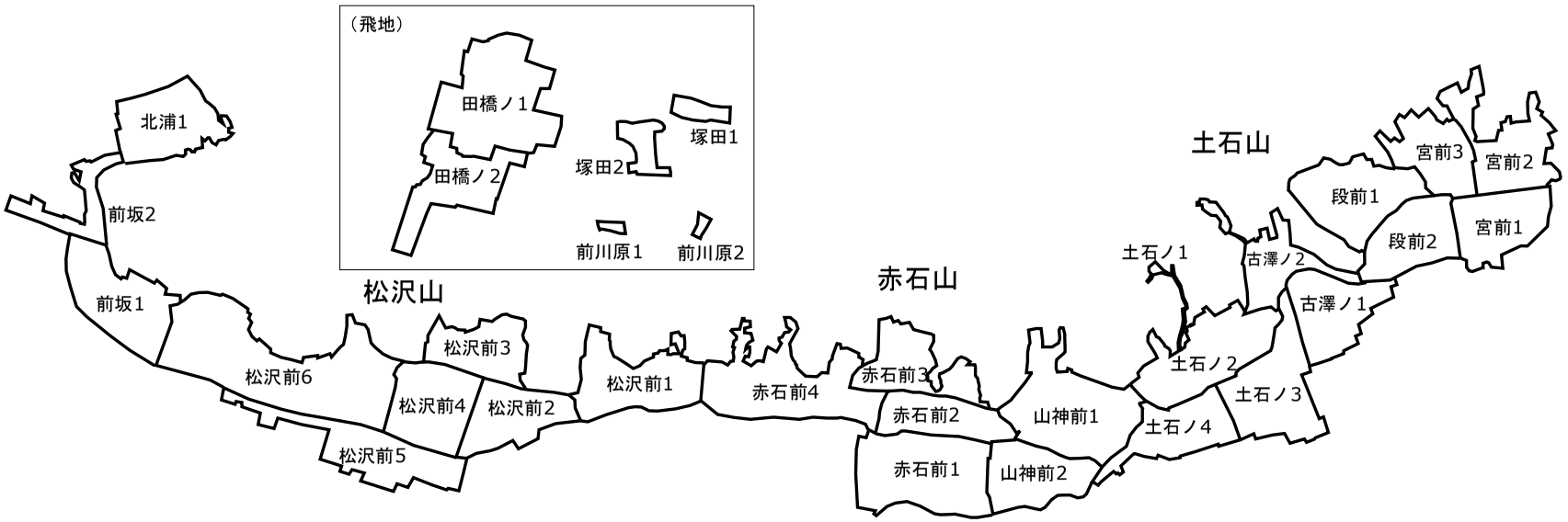
第 16 図　赤湯の小字名

②松沢

山の南裾に大谷地に面した集落が散在する。「松沢前」「赤石前」「土石」は全て背後の山の名称（松沢山、赤石山、土石山）に由来する。「宮前」は草刈八幡神社に由来する。この神社には源義家が東征の際に武運を祈り、馬に草を刈り与えたという伝承がある。



第17図　土地利用図　松沢

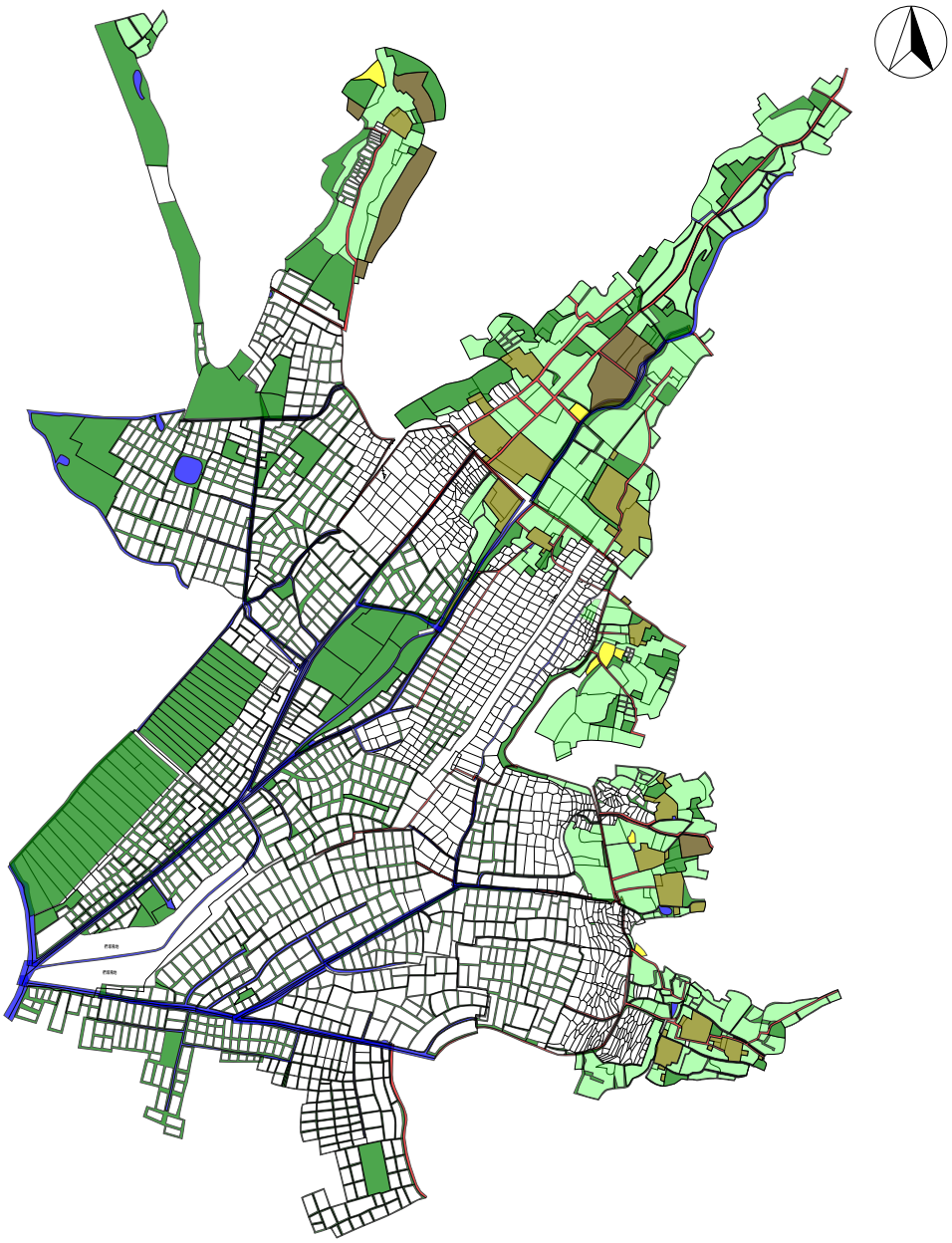

（飛地）
田橋ノ1
塚田1
田橋ノ2
塚田2
前川原1
前川原2
北浦1
前坂2
前坂1
松沢山
松沢前6
松沢前3
松沢前4
松沢前2
松沢前5
松沢前1
赤石山
赤石前4
赤石前3
赤石前2
赤石前1
山神前1
山神前2
土石山
土石ノ1
土石ノ2
土石ノ3
土石ノ4
古澤ノ2
古澤ノ1
段前1
段前2
宮前3
宮前2
宮前1

第 18 図　松沢の小字名

③金沢

谷地に面した山裾に集落が散在する。大谷地の「蓮沼」には池塘が見られる。金沢は鉱山に依頼する。寛永６，７年頃に最盛であった堅刈金山や取揚坂の鉱山があった。

「入金」「七両坂」「天　秤屋」「転石」「大小屋」等、鉱山の開発に由来するとされる小字名が見られる。



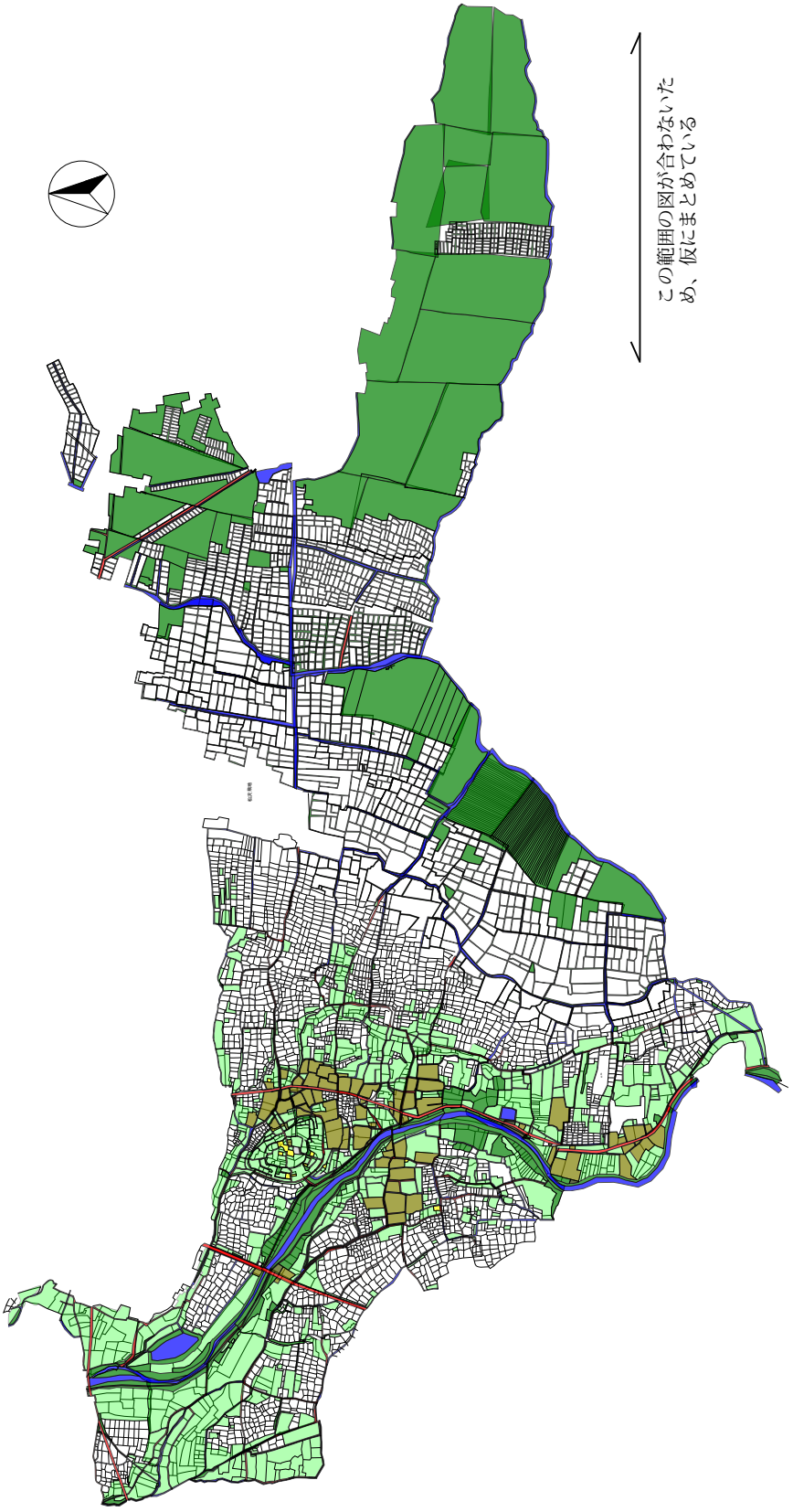
第 19 図　土地利用図　金沢

松林下
七両坂1
上ノ原
七両坂前2
七両坂前1
大小屋
蓮沼2
蓮沼1
転石2
転石1
天秤屋
酒町前
入金1
入金2
外林
源蔵
金沢組中の2
金沢組中の1
万平3
万平2
万平1
万平4
柳沢前1
柳沢前4
十文字北
柳沢前3
柳沢前2
北浦2
柳沢2
柳沢1
北浦1

第 20 図　金沢の小字名

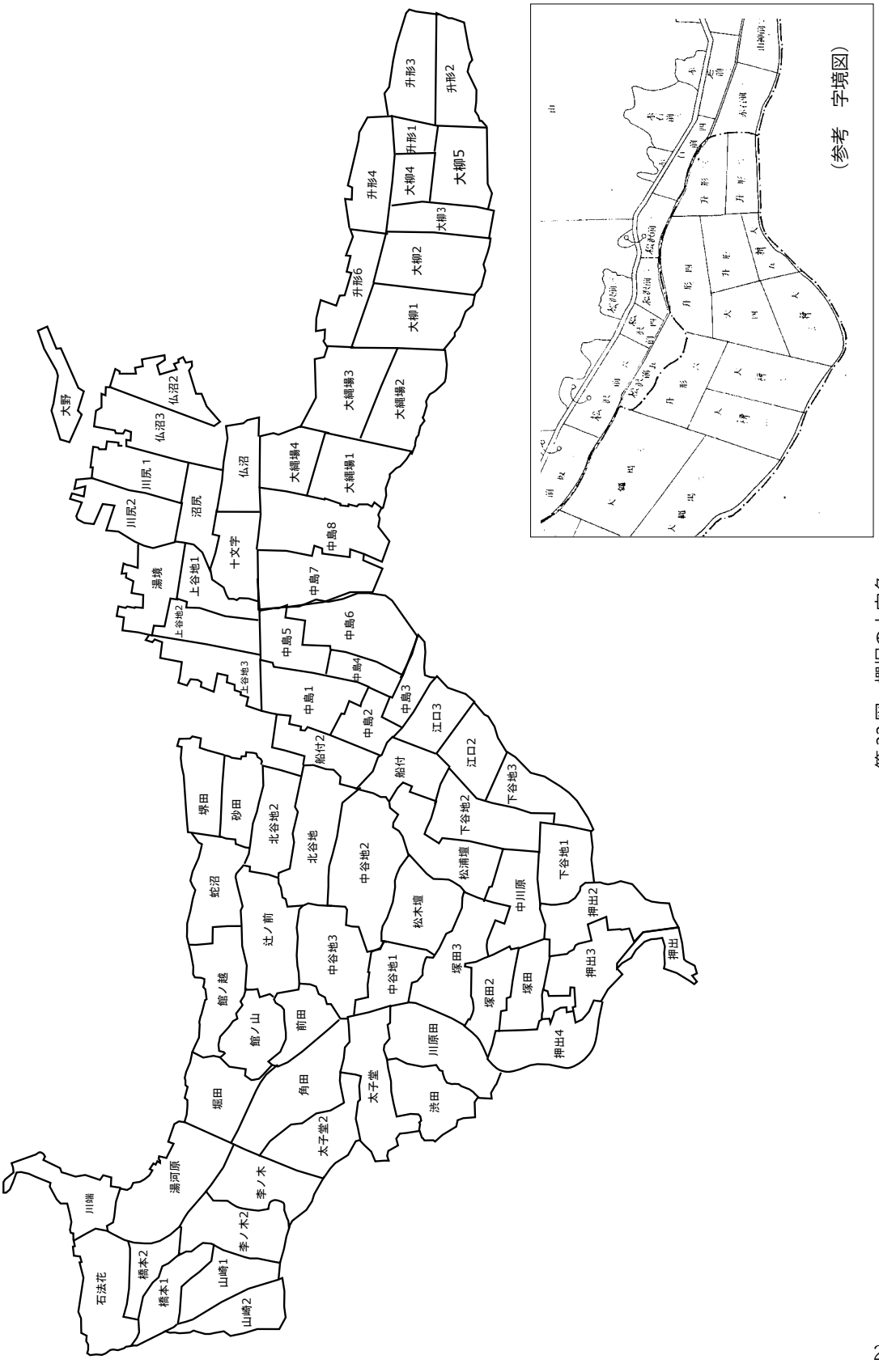
④椚塚

館ノ山の東から吉野川左岸沿いに集落が連なり、地区の西よりを吉野川が南東流する。地区東半は大谷地になっている。大谷地内の地名には湿地に由来するものや開拓地名が見られる。「船付」は船着き場と思われ、松沢から椚塚に至る水路は松沢口ノ舟道と呼ばれた。度々洪水被害を受けた地域であり、吉野川の近くには、洪水による堆積土を示



第 21 図　土地利用図　椚塚

す「押出」が見られ、「塚田」もおそらく洪水堆積土が塚状に残った場所と思われる。「川原田」「川端」「湯河原」「石法花」は河川跡を示す。「角田」は中世屋敷の付属耕地の門田も考えられるが、川べりであることから洪水で欠けた田（欠け田）の転化と思われる。「館ノ山」「館ノ越」「堀田」は、中世城館址関連地名である。



（参考　字境図）

第 22 図　椚塚の小字名

⑤二色根

二色根館跡のある二色根山（「館山」「南京」「南京観音林」「薬師山」「浦山」「中の山」「秋葉山」）の南の山裾に集落が位置する。地区の中央を吉野川が南東流するが、山裾には旧河道が走る。「館の内」「壁の内」「根小屋」「根小屋前」「根小屋浦」「的場」は二色根館に関連する。「大門」は薬師寺の門と思われる。「水溜」「綿内」は湧水地名である。

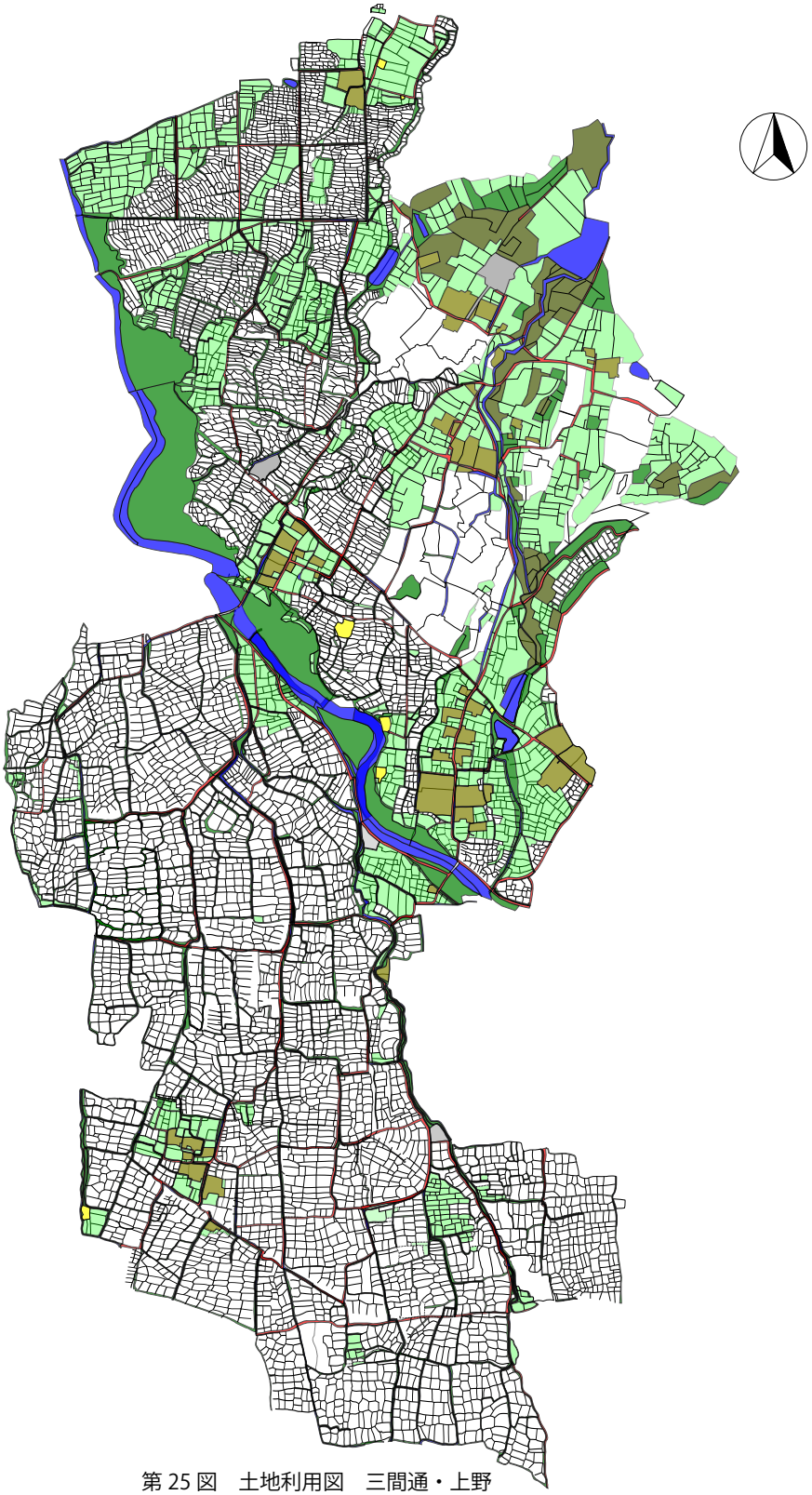
第 23 図　土地利用図　二色根

「大日前」「大日浦」は大日如来を祀ったお堂に由来する。「上氷堂」「下氷堂」（ｼﾐﾄﾞｳ）は、志味堂（四昧堂）観音堂があったことに由来する。「石田」「下川原」「堤端」は旧河道や洪水氾濫地名である。「砂田」「起田」は洪水により生じた微高地を新田開発した地名と思われ、「面田」は開拓地の免税地を示す「免田」と思われる。

第 24 図　二色根の小字名

⑥三間通・上野

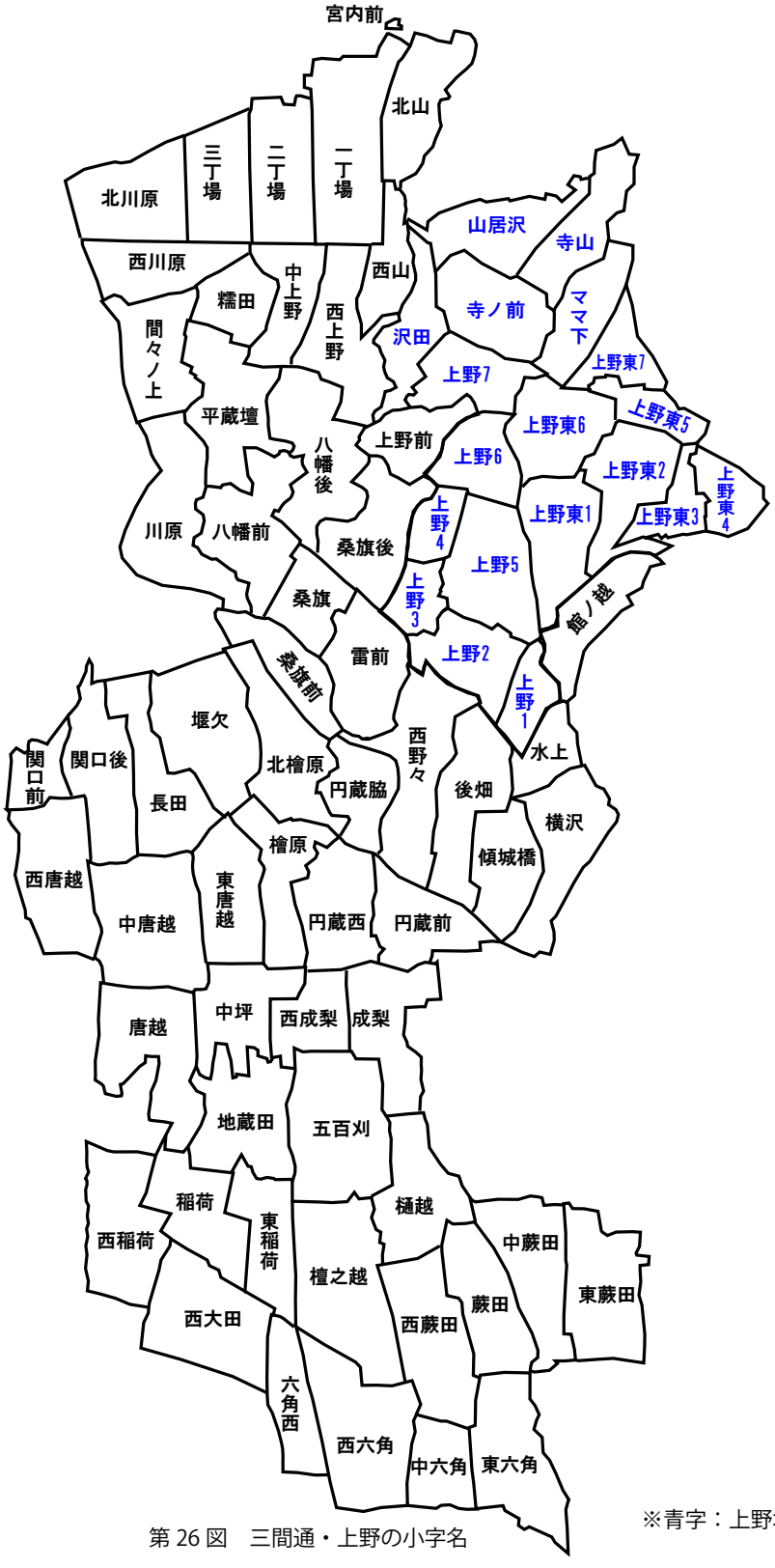
上野段丘の裾を南東流する吉野川が地区を大きく南北に二分し、主に上野段丘上に集落が見られるが、稲荷集落のみ平地に位置していた。洪水地名としては「堰欠」が見られる。「六角」は、六面幢があったことに由来する。「稲荷」は稲荷神社に由来する。「東唐越」には館跡が残る。「円蔵」は現在の蝦夷神社に由来する。「傾城橋」は二色根の根小屋跡の屋敷を利用してできた茶屋(一種の遊郭)に通うために渡った橋に由来する。「桑



第 25 図　土地利用図　三間通・上野

旗」(ｶﾊﾞﾀ) は川端か。「一丁場」～「三丁場」は近世における耕地整理跡である。「雷前」は雷神社に由来する。間々（ママ）は崖の意味である。

上野（ﾜﾉ）は、段丘を意味しているとされる。周辺に上野山（ワノヤマ）等、ワノと読む地名が広く見られる。二色根城主粟野氏との関連で、かつて二色根から宮内付近を粟野郷と称した名残とも考えられる。「山居沢」の山居は、耕作地を分けて分家する散居の当て字と考えられる。



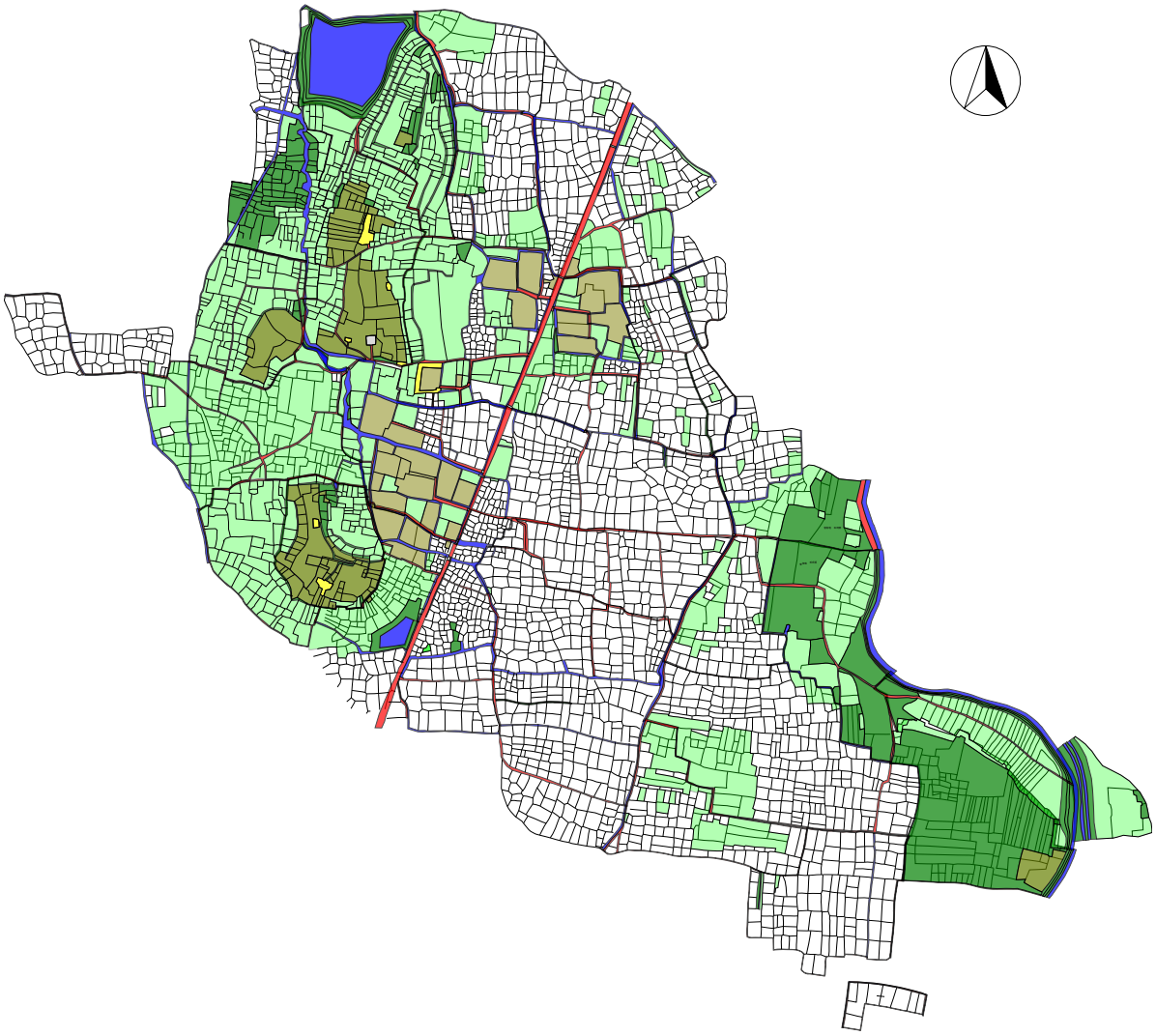
第 26 図　三間通・上野の小字名

※青字：上野地区

⑦長岡

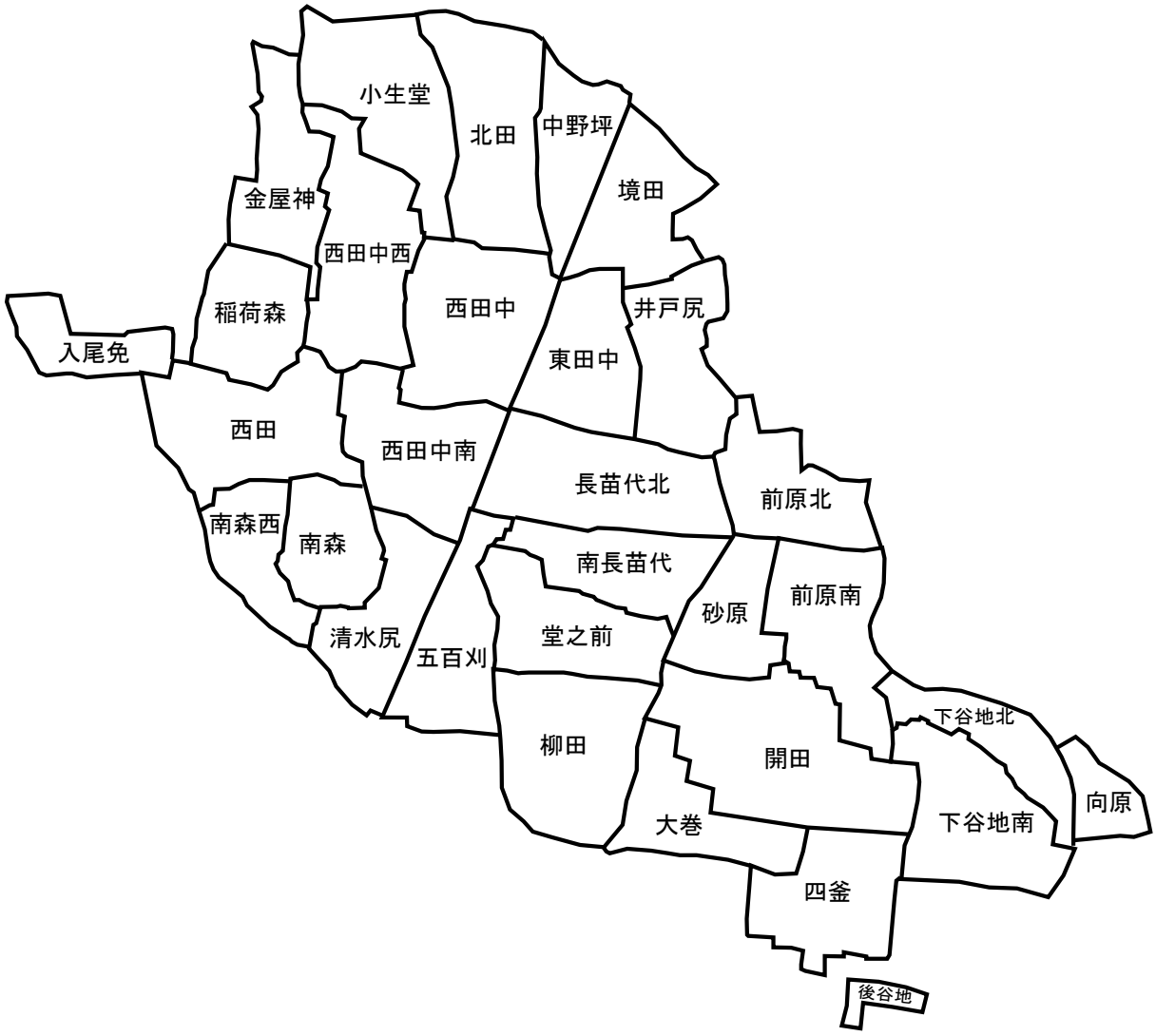
長岡山丘陵と南森丘陵の東側に集落が広がる。「稲荷森」は稲荷森古墳、「南森」は長岡南森遺跡である。長岡山（「小生堂」「西田中西」）には長岡山館があった。「小生堂」の由来は越王堂で、長岡山に学校が建設される前にはお堂があったという。「金屋神」は鍛冶の神に由来する。

「境田」から「砂原」にかけ南東方向に島状畑地が見られる。これは洪水による堆積



第 27 図　土地利用図　長岡

土を除去しきれなかった跡と思われる。「砂原」「開田」にかけて吉野川が蛇行していたと思われ、「大巻」も川が大きく曲がった地点を示している。「四釜」のシカは砂洲を、マは場所を表すとされ、河川による砂の堆積地と思われるが、四釜在家（俎柳）との関連も考えられる。集落地は元々「田中」で、それが西と東に分かれた後、「西田中」の南に「西田中南」、西に「西田中西」の地名を配したと思われる。「入尾免」は井料免で、用水管理用の共同水田に関連する免税地である。

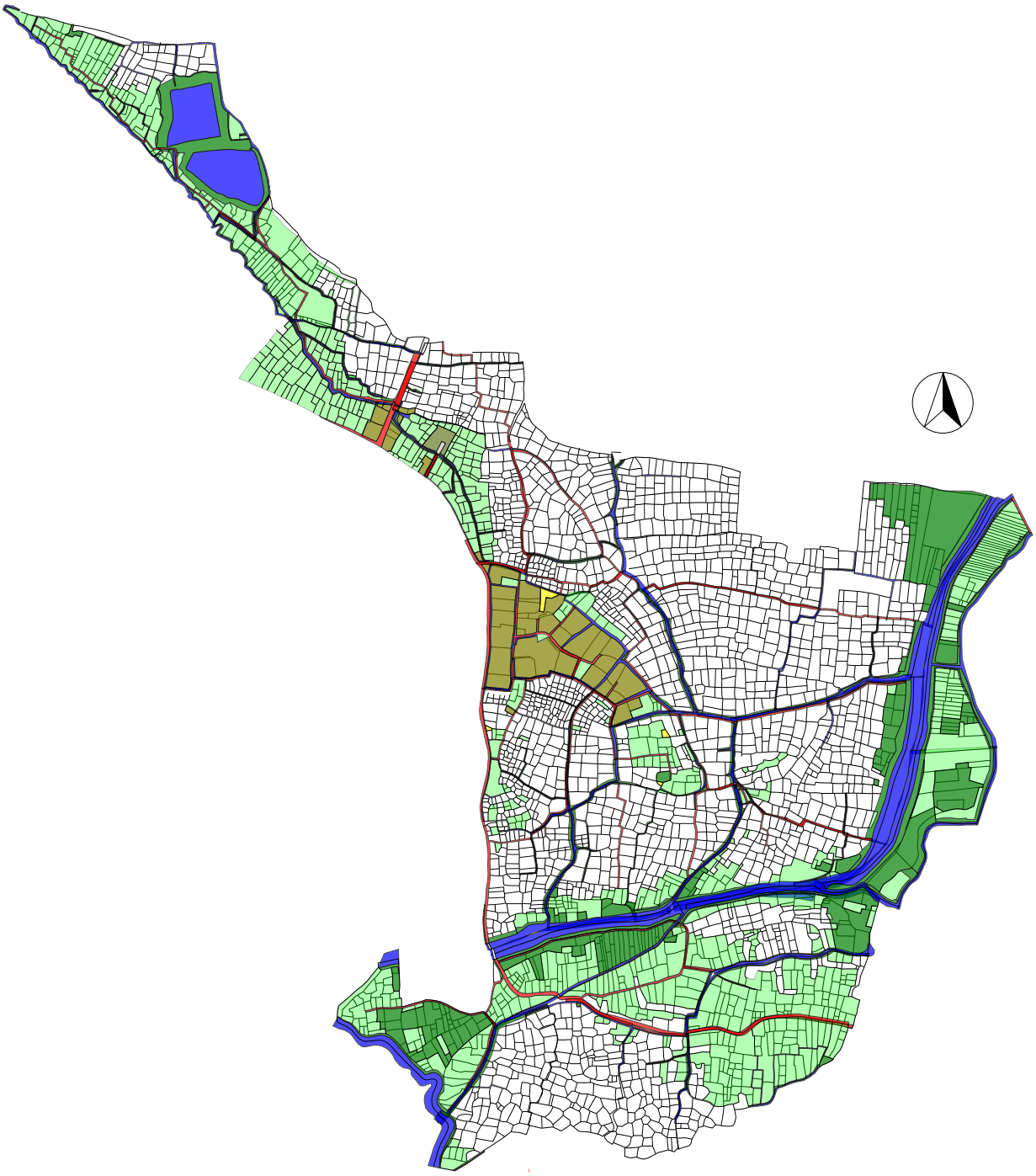


第 28 図　長岡の小字名

⑧俎柳

地区内で吉野川が大きく西へ流れを変える。地区の南東部には大谷地やその開拓に関連する地名が多く見られる。「吉見分」は江戸時代に吉見次右エ門の開拓とされる。「右京」は右京在家や、右京堰をつくった人物との関係が考えられる。

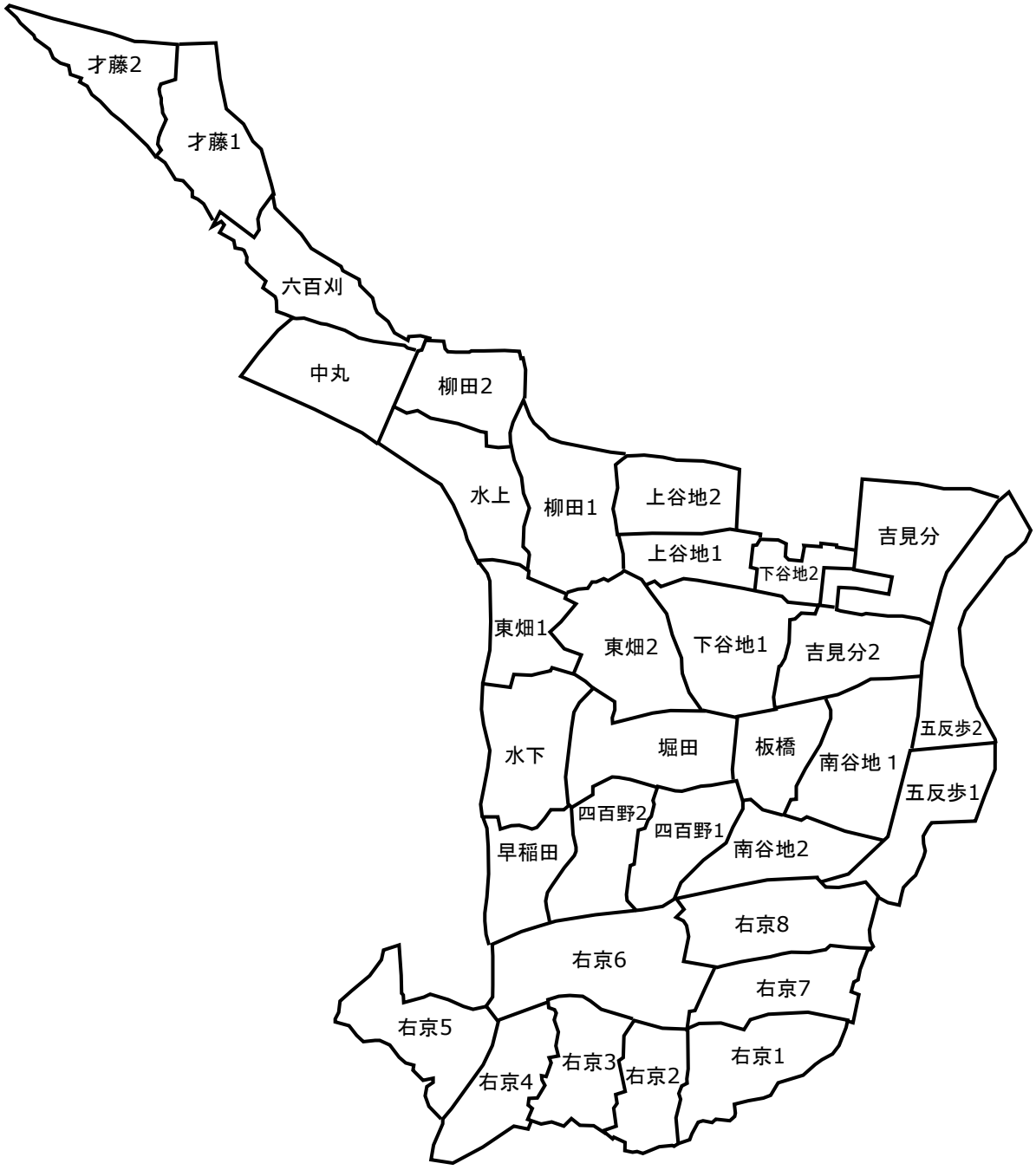
集落は俎柳道（御番所道）の東に位置する。集落東端の「堀田」に方形の城館又は屋敷址が見られ、集落全体で連廓式にも似た配置となっている。「中丸」は天文 22 年湯目文書にある中麿郷の転化と思われる。「才藤」は斎藤在家に関連すると思われる。



第 29 図　土地利用図　俎柳

「水上」「水下」など、水にちなむ地名が見られる。

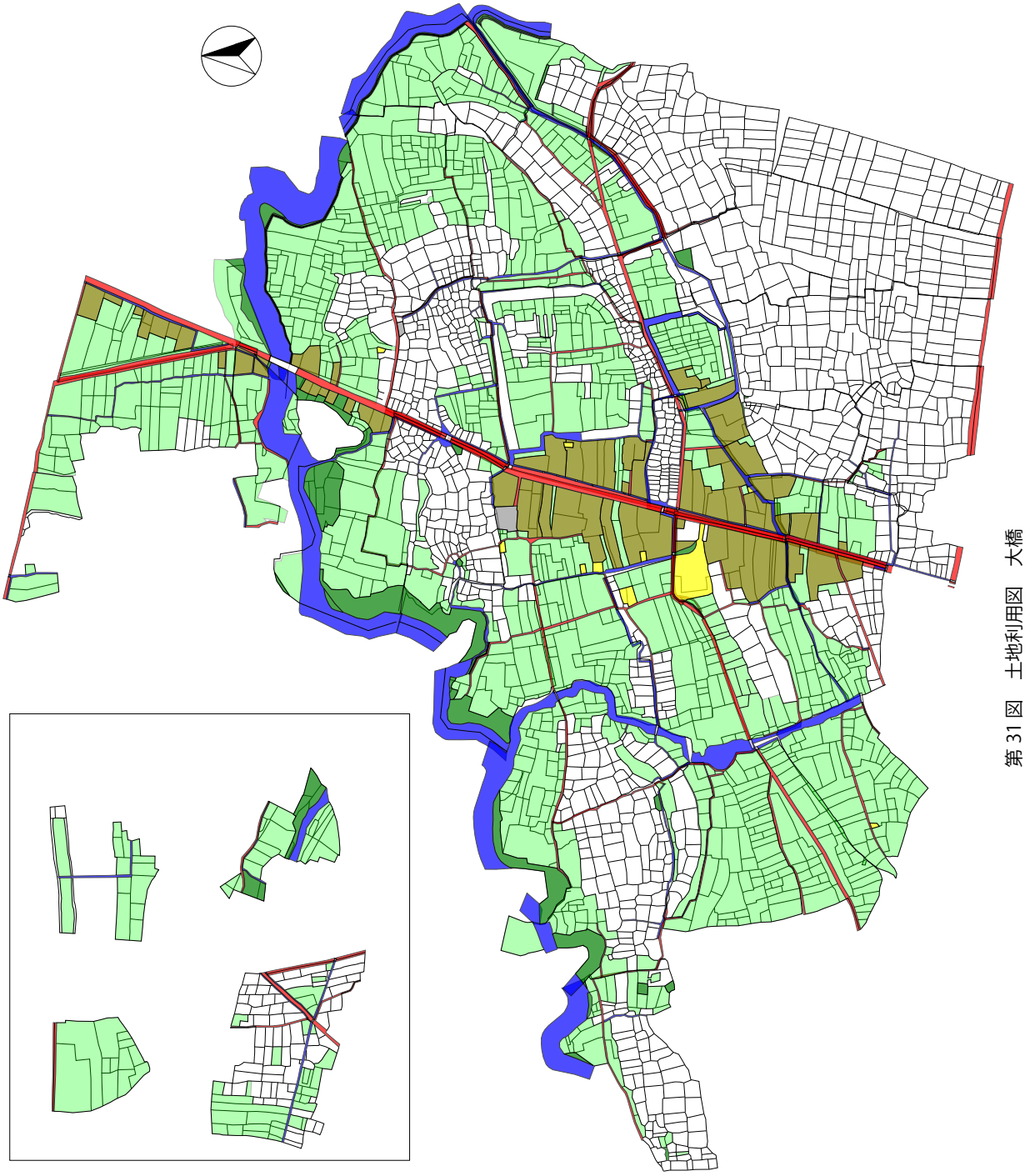
地名としての「俎柳」は「真板柳」とも記される。調理に使うマナイタに由来する伝説が残るが、清浄な水を示す真名井（まない）地名の可能性も考慮する必要がある。なお、隣接する鍋田地区には 「まないのまい（真名井の前）」「まないじょう（真名井城か）」の地名があったことが知られている。



第 30 図　俎柳の小字名

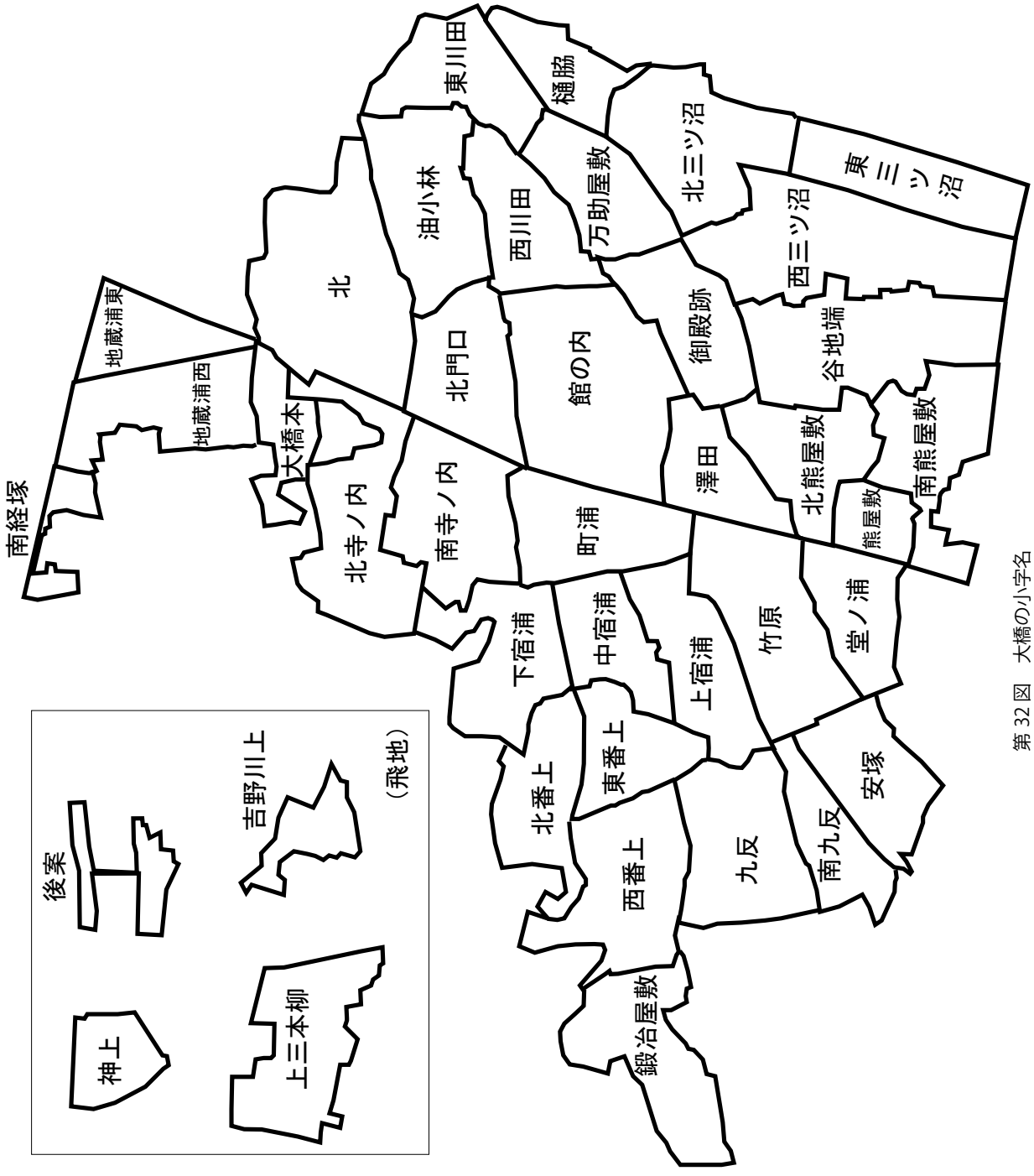
⑨大橋

吉野川左岸の自然堤防と後背湿地にあたる。自然堤防上に大橋城があり、主にその西に小城下町的な集落が広がる。地区南東には谷地関連地名が見られる。地区の中央を東西に旧河道が走っている。「館の内」「御殿跡」「北門口」は大橋城と御殿跡に関連し、「熊屋敷」「万助屋敷」等の屋敷地名がその周囲に分布する。「油小林」は油小林在家に関連する。「寺ノ内」は瑞光寺があった場所である。町の西方に見られる「番上」は番匠のことで大工、「鍛冶屋敷」は鍛冶職人の居住地と思われる。



第 31 図　土地利用図　大橋

「大橋」の大は美称である。橋は、橋或いは端の意と思われる。大橋の由来は橋にちなむとされるが、明応元年（1492）湯目文書に「おおはし之郷」が出てくる。それ以前に郷名になるほど大きな橋が存在したのかどうか。屋代郷と赤井郷の境目であることから赤井郷の端や条里の端、或は屋代 (高畠町) に進出してきた伊達氏の支配地に対する長井氏側の端や境の意味がないか検討の余地がある。



第 32 図　大橋の小字名

２．宮内地区

（１）宮内地区の概要と特色

宮内地区は、宮内扇状地の扇頂から扇央に位置し、北は白鷹山山地の鷹戸屋山地で、その南端にあたる慶海山､武道作山がある。東は白鷹山山地の大平山地の秋葉山があり、その南西に内原段丘が広がり、その山裾を吉野川が南流する。

その平地部は、東に吉野川氾濫原が広がり、その西は集落地と条里水田が見られる水田地帯に分かれる

宮内の集落は、宮沢川の谷口に立地する熊野大社の門前町として栄えた。吉野川の谷口集落でもある。また、古くは熊野大社の北側の菖蒲沢地区（宮沢）が中心地であったと伝わり、宮沢城を始めとする城郭群が立地する。

①門前町の土地利用

大鳥居のある鳥居の場から北の宮町では、通りの左右に多くの坊が立ち並んでいた。『宮内町の文化財』（1965　宮内文化史研究会）によれば鳥居の場から北（菖蒲沢含む）を宮の内といい、熊野山の北方の沢あい（菖蒲沢地区）を宮沢と言ったとされ、この神領の外を宮外村と称したという。この宮外村が宮沢城の城下町、熊野大社の門前町として栄えたとし、現在の字宮前がその中心とする。

宮町の通りは、熊野大社の登り口から南に向かう直線の道路で、鳥居の場で東西からの道が互い違いに接続する。このように奥の神社から直線道路を曳き、直線道路に入ってくる道を互い違いにするという点や、途中の鳥居の場を武者溜まりとして利用可能な構造にしている点など鎌倉の町割りに類似する点がある。長井庄地頭が大江氏であったことが影響しているかどうかはわからない。これに対し近世に整備が行われたとみられる宮前・本町付近や柳町付近、粡町では城下町に見られるような鍵型の道路が見られ、宮町に比べ、新しい様相が加わっている。また、宮町の通りに面した屋敷に比べ、新町、宮前、横町、本町、粡町等、近世以降に整備が進んだ地域の屋敷は、道に面する間口が狭く奥行きが長い敷地になっていることも特徴である。

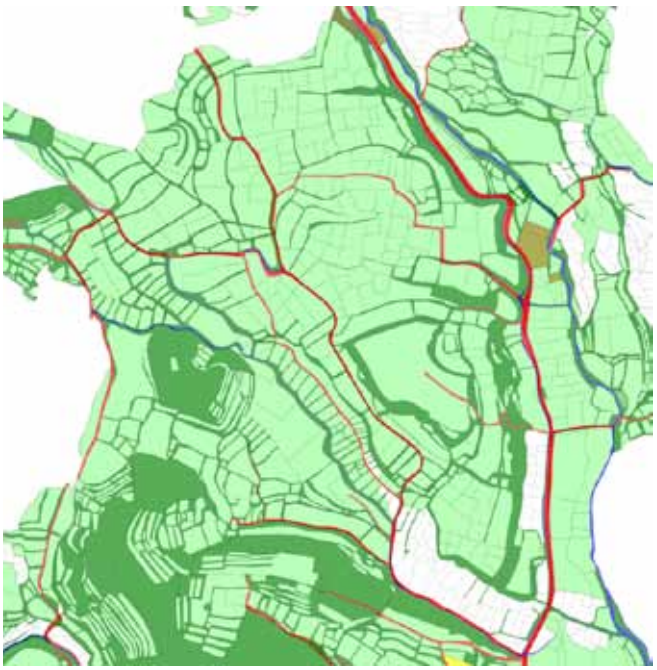
②災害地形

災害地形として、集落の東側の吉野川氾濫原の状況が見て取れる。現在のような堤防が無かった時代に、洪水で川幅を広げた川が何度も川岸を抉った様子がみられる。粡町１、下田４、黒木１・２、馬場１、久根崎と円弧状の川欠け地形が連続する。これらより東は網状流路状の河川氾濫原になっている。字一本杉でも同様の川欠けが見られる。

また、字砂押では、自然堤防が決壊したことによるクレバススプレーが形成されており、地名もその洪水の際に押し寄せ堆積した砂に由来している。

③宮内地区の屋敷・館等

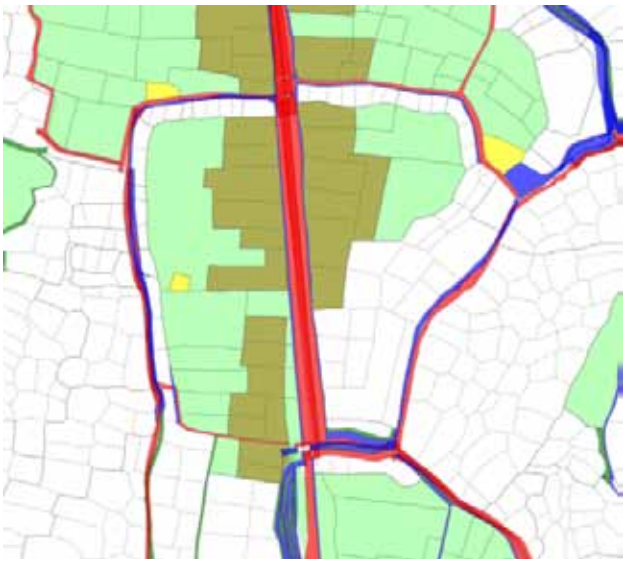
字限図で判読可能な屋敷・館跡（第 33 図）は、菖蒲沢の宮沢城、宮内南館跡、字斎藤４の斎藤館跡、字馬場の馬場（館）跡、字黒木２の屋敷跡である。宮沢城は堀跡が水田になっており、斜面は草地で表現されている。長岡南館跡は山頂付近は全て草地に表現されているが斜面の曲輪が畑地となっている。斎藤館は主郭が方形で南にも曲輪がある。堀跡が水田になっている。馬場跡は大きな方形で堀跡が水田になっている。東南は川欠けで乱れている。黒木２の屋敷も方形で周囲を堀で囲む。



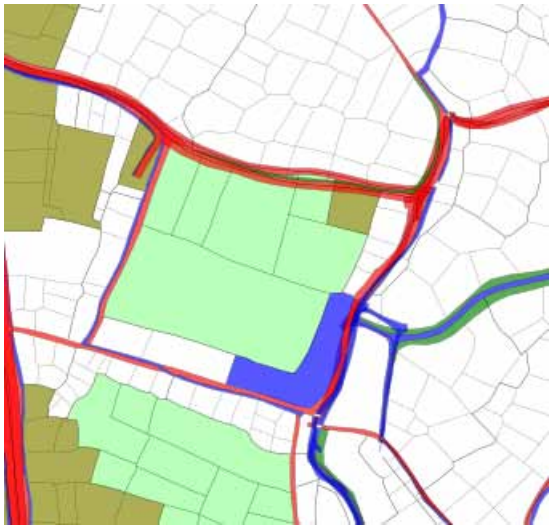
宮沢城跡

宮内南館跡

斎藤館跡



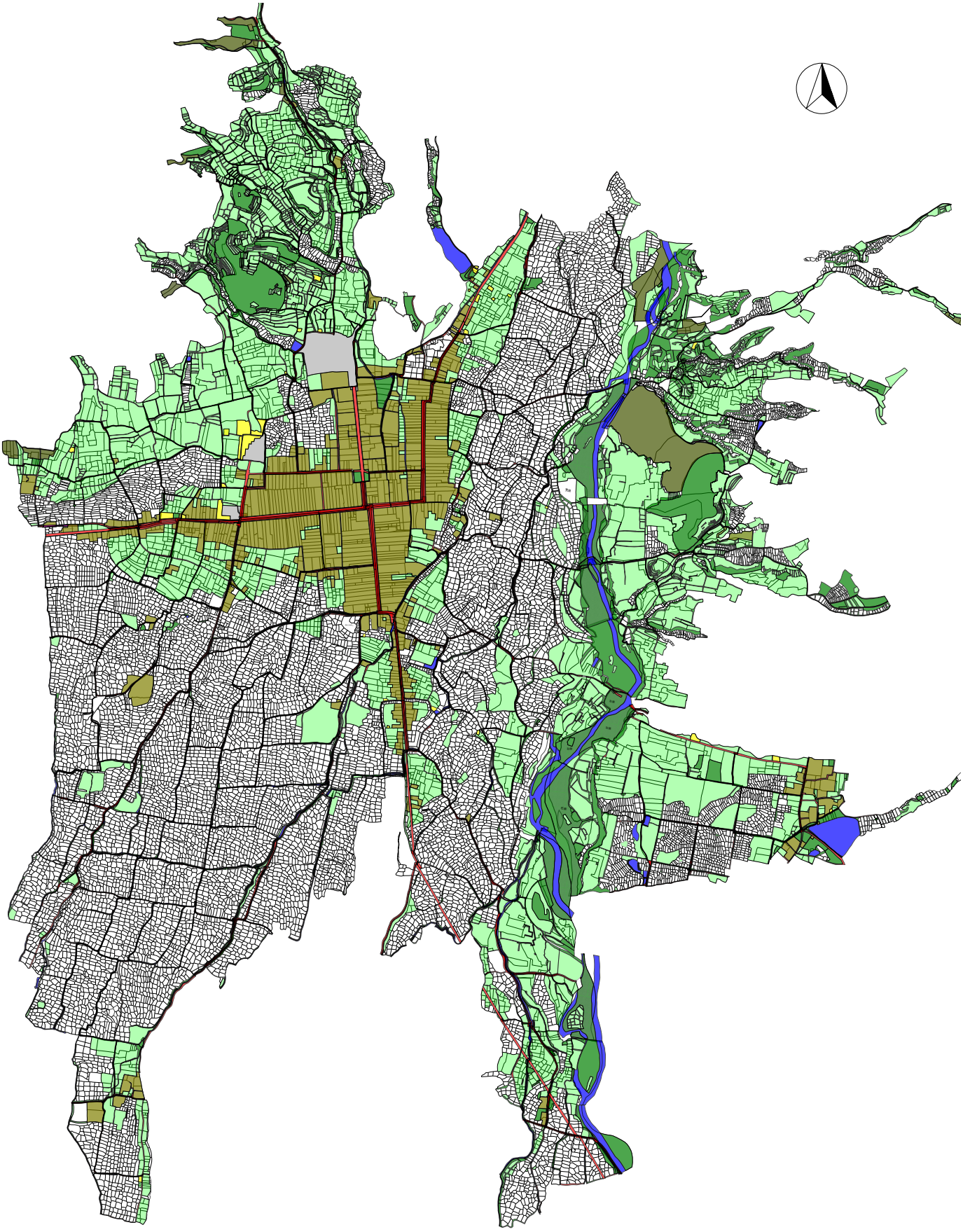
馬場（館）跡



黒木 2 の屋敷跡

第 33 図　宮内の屋敷や館等

（2）土地利用図（宮内）



第 34 図　土地利用図　宮内

梅ケ澤
白山堂
高日向2
鍋石
館の上
寺山3
寺山2
寺山1
疱瘡神堂
高日向1
山王山3
武道作2
武道作1
山王山4
山王山2
菖蒲沢
山王山1
尻無澤1
尻無澤2
尾島
塔ノ越3
塔ノ越2
塔ノ越1
学頭川原1
学頭川原2
学頭川原3
学頭川原4
学頭川原1
官代林5
官代林3
官代林4
官代林7
官代林6
官代林2
官代林1
南澤5
南澤4
南澤3
南澤2
南澤1
山ノ神3
山ノ神1
山ノ神2
鐘小屋4
花沢
坂町
久保
清水1
清水2
鐘小屋3
鐘小屋1
鐘小屋2
別所5
別所4
別所3
別所2
別所1
寺西
田町1
田町2
宮町
糀町2
糀町1
砂押1
砂押4
砂押5
砂押2
砂押3
大檀6
大檀5
大檀3
大檀4
大檀1
大檀2
柳町1
柳町2
阿弥陀堂
新町1
新町2
宮前
横町
本町1
本町2
町尻1
町尻2
下田3
下田4
下田2
下田1
堀之内
飯詰3
飯詰2
飯詰1
上川原壱
上川原2
中川原1
中川原2
中向山3
中向山2
中向山4
中向山1
丸山下
源兵衛平3
源兵衛平2
源兵衛平1
富貴田4
富貴田3
富貴田2
富貴田1
大清水1
大清水2
穴田4
穴田5
穴田3
穴田2
穴田1
黒木1
黒木2
馬場2
馬場3
馬場1
一本杉3
一本杉2
一本杉1
一本杉4
川原田2
川原田3
川原田1
川原1
川原2
中ノ坪1
中ノ坪2
中ノ坪3
中ノ坪4
斎藤4
斎藤3
斎藤2
斎藤1
三番縄9
三番縄8
三番縄7
三番縄10
三番縄5
三番縄6
三番縄11
三番縄3
三番縄4
三番縄12
三番縄2
三番縄1
八幡田1
八幡田2
櫻田1
櫻田2
久根崎
湯街道2
湯街道3
湯街道1
大曲2
大曲1
内原6
内原5
内原3
内原2
内原7
内原4
内原1
内原8
上野原2
上野原3
上野原1
関口11
関口12
関口8
関口9
関口10
関口7
関口6
関口4
関口3
関口2
関口1
関口5
砂子田1
砂子田2
砂子田7
砂子田3
砂子田6
砂子田4
砂子田5

第 35 図　宮内の小字名

３．金山地区

（１）金山地区の概要と特色

金山地区は、東は白鷹山山地の大平山地、西は白鷹山山地の鷹戸屋山地が広がり、宮内扇状地の谷口から上流に位置する山合いの地の吉野川両岸に集落が分布する。谷底平地に吉野川の氾濫跡が見られ、山裾の高台に集落が立地する。

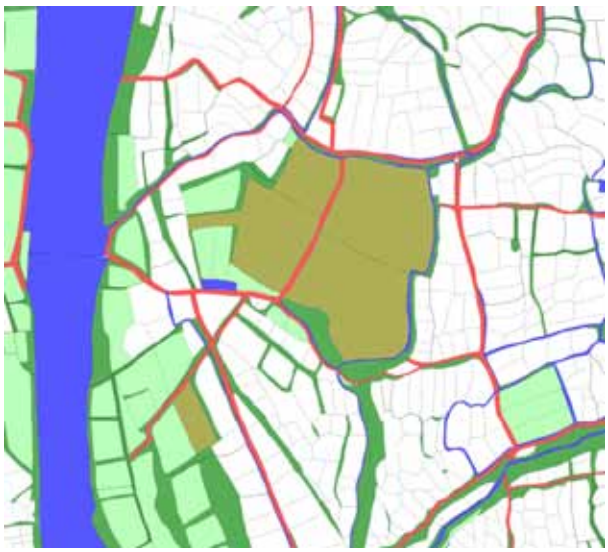
①災害地形

災害地形として地名を見ると、字流屋敷や字乱橋は洪水被害の地名と考えられる。字龍の口は、増水した水が龍のように流れくる場所と考えられる。字牛喰沢は地崩れ地名とみられる。字片岡５、字巻の澤、字桜渕、字河原付近では旧河道が確認される。

②金山地区の在家・館等

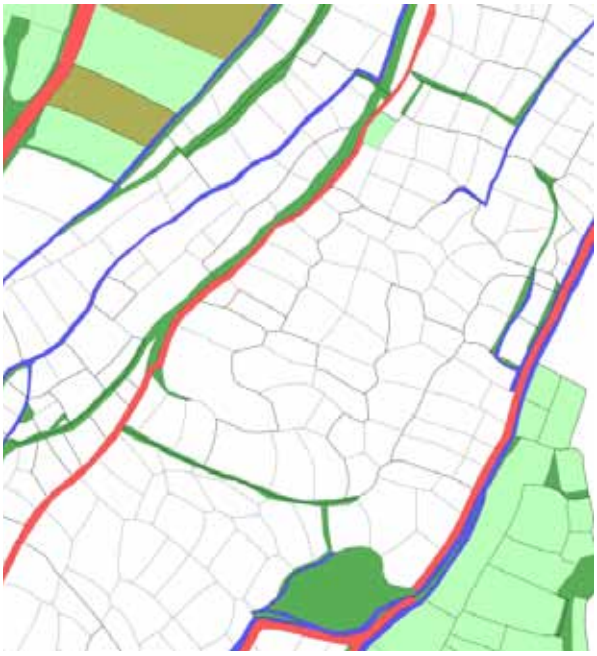
在家は元々は荘園が年貢を徴するときの最下部の被割当者であったが、領主が年貢を課するときの単位となり、領内の個々の屋敷と付属の田畑を指す。金山地区では、平八在家（天文 18 年（1549）湯目文書）、雀在家（天文 22 年（1553）湯目文書）、けとう在家（天正 11 年（1583）湯目文書）、 白山在家（天正 13 年（1585）北条段銭帳）、畑在家、黒在家の６ヶ所の在家が知られているが、金山地区にはこのうち現在白山在家、畑在家、黒在家の３ヶ所の小字名が残る。

館跡は、色部氏の館跡として平館が知られている。吉野川が米沢盆地に流れ出る谷口付近に立地し、吉野川左岸に位置する。近年、この東側の山々に楯山館、天ケ澤館などが確認されている。田中館跡は平館の北、吉野川左岸の字田中に位置する。二重の堀に囲まれた輪廓式の館である。立石館跡は吉野川左岸の字明神堂・字立石に位置する。長方形の館跡で、竜ノ口神社が立石館の辰方位に所在していた。字寺清水は元々東禅院があったとも言われる。字限図では中央に島を残す清水跡と思われる草地と墓地が見られる。



平館跡

田中立跡

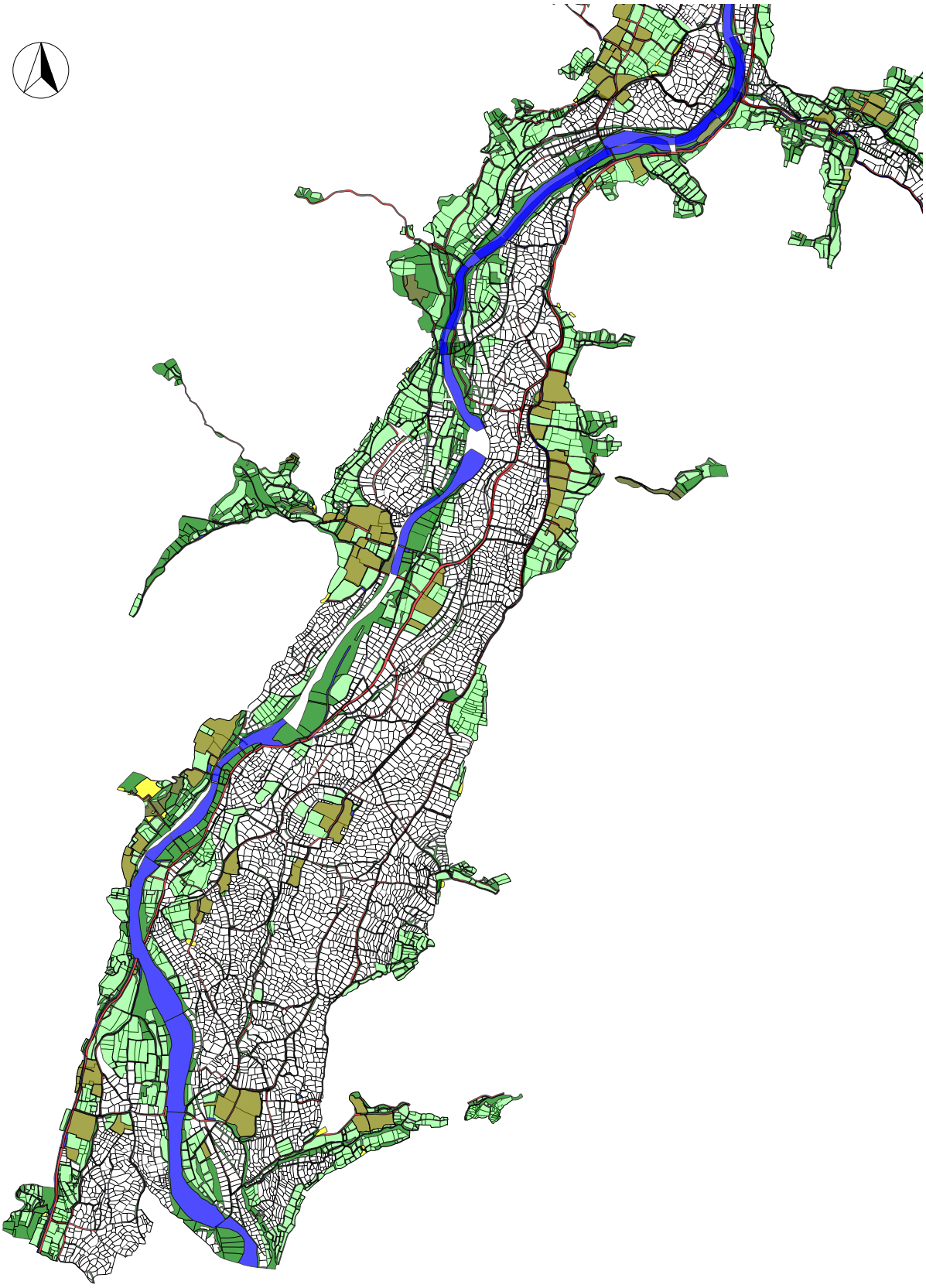


立石館跡

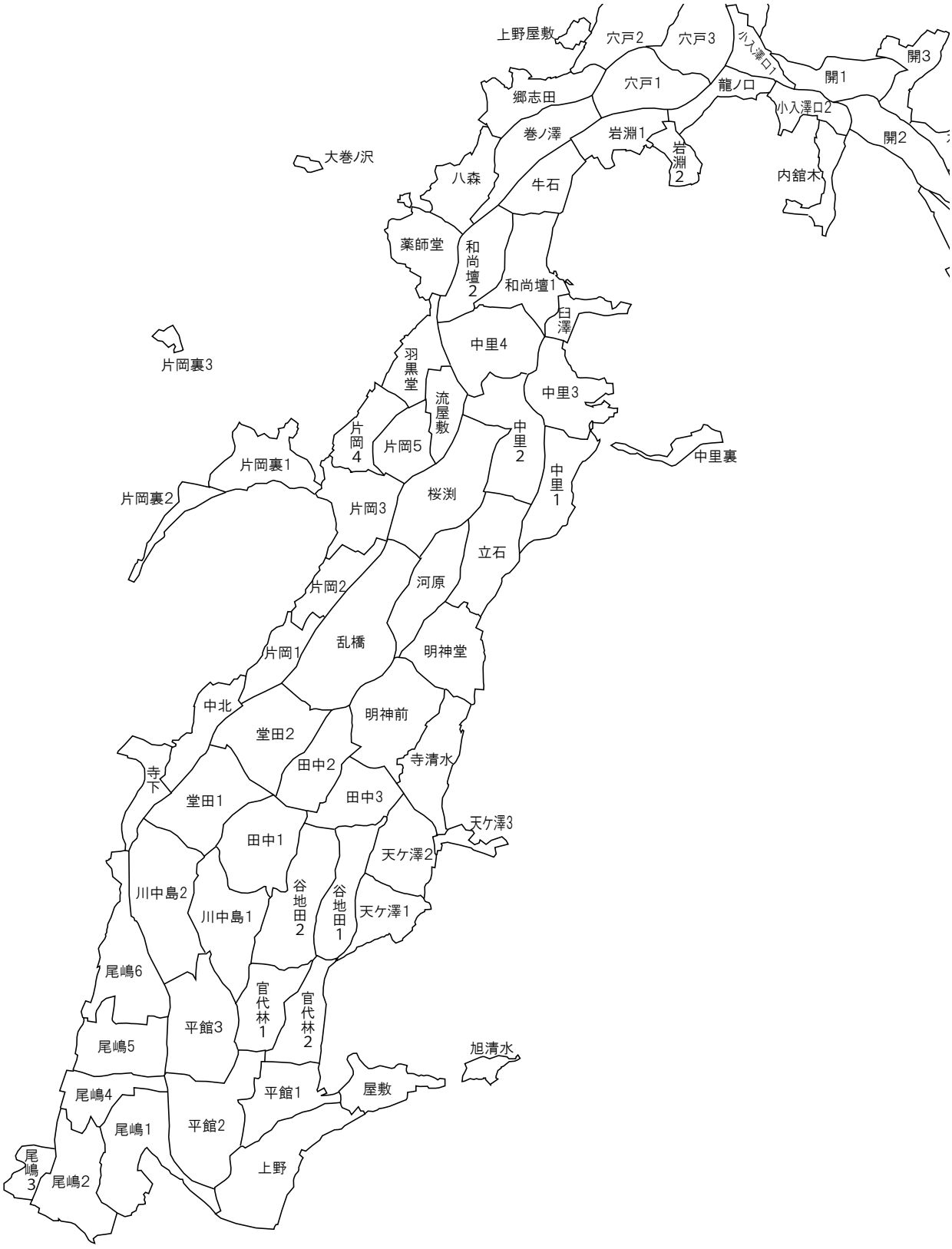
字寺清水

第 36 図　金山の館等

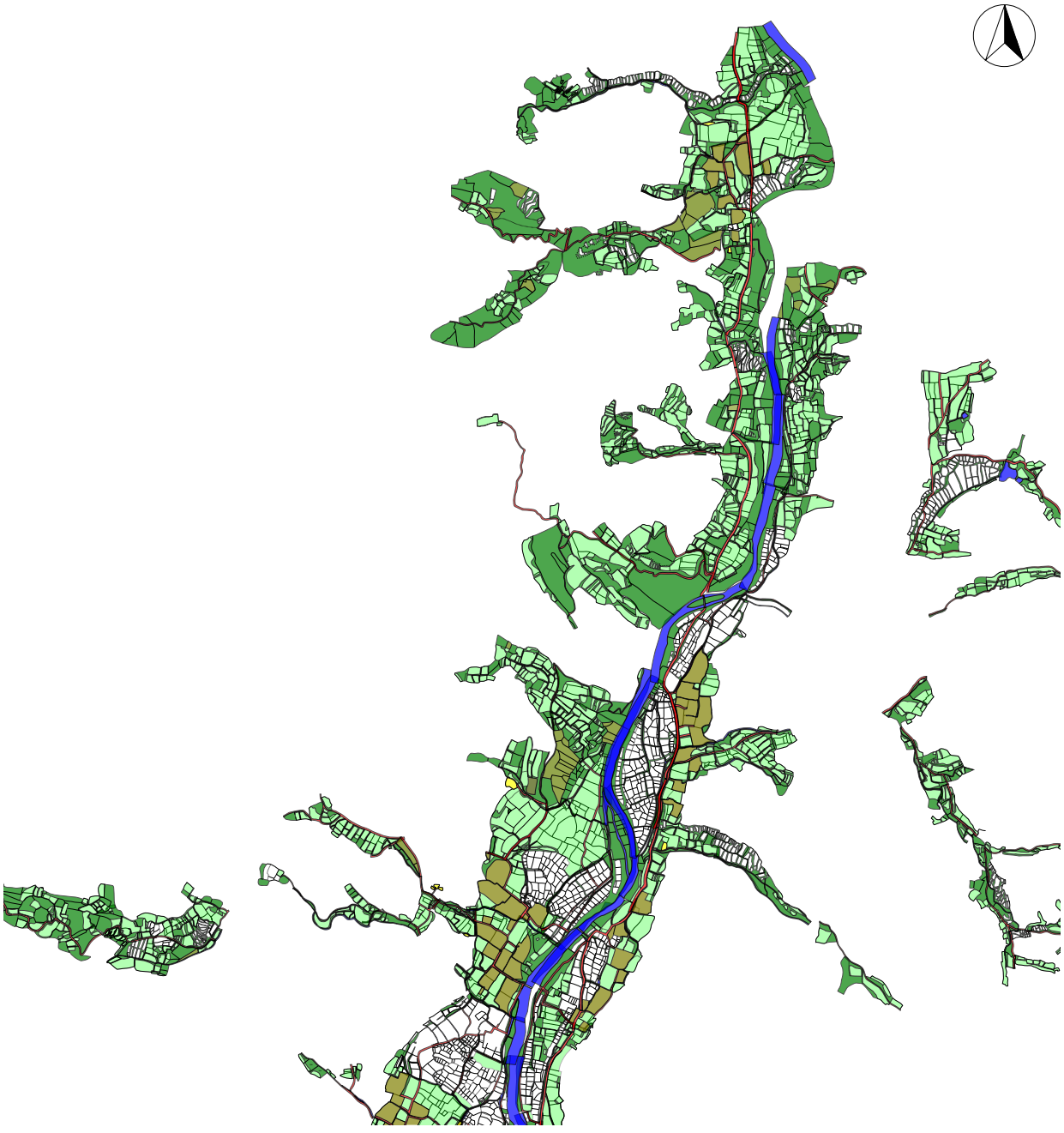
（2）土地利用図（金山）



第 37 図　土地利用図　金山 1（南）



第 38 図　金山の小字名 1（南）



第 39 図　土地利用図　金山 2（北）

第 40 図　金山の小字名 2（北）

第４章　南陽市（赤湯・宮内・金山）の小字名及び地名

市内各地区の小字名､地名を地区別に記録する。その出典の凡例は表３のとおりである。なお、これによらない場合は文献名を直接記載した。また古文書に見られる在家は、地名として残っていないものを字名・地名欄に（）で示した。

年	文献名	記号
1525	伊達稙宗安堵状（大永五年）	A
1538	鍋田郷土史（21 頁　天文７年御段銭古帳）	B
1553	伊達晴宗公采地下賜録（天文 22 年）	C
1585	天正 13 年北条段銭状	D
1638	寛永十五御検地帳羽付村	E
1638	寛永十五年漆山村之内杢之沢須刈田御検地帳	F
1638	寛永拾五年北條之内漆山村御検地帳	G
1638	寛永十五年北條之内荻村御検地帳	H
1638	寛永 15 年北条之内赤湯村御検地帳	I
1638	寛永 15 年組柳村検地帳	J
1639	萩生田村寛永拾六年水帳之事	K
1639	寛永 16 年組柳村検地帳 (山形県史資料編９)	L
1656	明暦二年御狩場之図	Lb
1739	元文４年温泉記（市史編集資料 26 号Ｐ 34）	M
1767	明和４年北條之内長瀞村御検地帳	N
1781	鍋田郷土史（17・18 頁　天明元年）	O
1786	天明６年文書	P
1790	寛政二年懸入石中山之在釜渡高帳	Q
1791	寛政３年赤湯村本地開改水帳	R
1794	寛政６年松沢村本地開改水帳	S
1824	文政７年金沢村本地開田畑水帳	T
1824	文政７年萱野改革水帳（赤湯町史 268 頁）	U
1843	天保 14 年新田村漆反別名寄帳	V
1849	嘉永２年赤湯村本地開改水帳	W
	永代売渡申田畑證文之事	X
	御林集（日本林制史資料：赤湯町史 345 － 346 頁	Y
	温泉記（市史資料集 26 号 49 頁）	Z
1874	明治７年地租改正　地価帳　土地台帳写（鍋田邑）	aa
1874 ～ 1893	明治７、８、26 年字限図	ab
1876	明治９年新開掴帳（赤湯町史 360 頁）	ac
1938	東置賜郡史（昭和 13・14 年）	ad
1938	山形県地名録（昭和 13 年）	ae
1968	赤湯町史（昭和 43 年）	af
1973	沖郷村史（昭和 48 年）	ag
1979	梨郷村史（昭和 54 年）	ah
1981	角川日本地名大辞典（昭和 56 年）	ai
	南陽市地名索引（安達）	aj
1990	南陽市史（平成２年）	ak
2010	南陽市島貫の歴史（平成 22 年）	al
2013	平成 25 年税台帳	am

表３　小字名・地名の出典

１．赤湯　（１）赤湯・金沢・松沢の小字名・地名

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
赤湯			ｱｶﾕ		
1	赤湯	堺田	ｻｶｲﾀﾞ	R,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	椚塚との境にある田
2	赤湯	柿崎　(ad: 柿先)	ｶｷｻﾞｷ	I,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	ｶｹ：欠ける。垣根で囲んだ崎の説あり
3	赤湯	森前	ﾓﾘﾏｴ	am	森の山の南
4	赤湯	森先	ﾓﾘｻｷ	R,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	森の山の西に広がる田
5	赤湯	森	ﾓﾘ	I,R,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	森の山（現在は山は無い、源泉がある）
6	赤湯	本町	ﾓﾄﾏﾁ	W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	
7	赤湯	馬町北	ｳﾏﾏﾁｷﾀ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	馬市の開催地（元は新町や荒町：ｱﾗﾏﾁ）
8	赤湯	馬町南	ｳﾏﾏﾁﾐﾅﾐ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	〃
9	赤湯	横町	ﾖｺﾏﾁ	R,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	
10	赤湯	西町	ﾆｼﾏﾁ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	西に位置する町場
11	赤湯	的場	ﾏﾄﾊﾞ	I,R,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	武芸の練習場
12	赤湯	芳野前	ﾖｼﾉﾏｴ	R,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	
13	赤湯	芳野前南	ﾖｼﾉﾏｴﾐﾅﾐ	am	
14	赤湯	湯尻	ﾕｼﾞﾘ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am,I,R	排湯が流れる末端地か
15	赤湯	烏帽子石	ｴﾎﾞｼｲｼ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	指定文化財烏帽子石に由来
16	赤湯	上野山　(ab: 上之山)	ｳｴﾉﾔﾏ　(af: ﾜﾉﾔﾏ)	I,ab,ad,af,ai,ak,am	上野山館跡
17	赤湯	寺山	ﾃﾗﾔﾏ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	東正寺がある
18	赤湯	水溜	ﾐｽﾞﾀﾏﾘ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	東正寺北西の山合いの窪地
19	赤湯	新田前	ｼﾝﾃﾞﾝﾏｴ	ab,ad,af,ai,ak,am	開拓地名
20	赤湯	八幡沢	ﾊﾁﾏﾝｻﾞﾜ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	赤湯八幡宮がある
21	赤湯	新田	ｼﾝﾃﾞﾝ	ad,ae,af,ai,ak,am	開拓地名、主に寛永年間に開拓された
22	赤湯	団子山	ﾀﾞﾝｺﾞﾔﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	山の形に由来か
23	赤湯	大沢	ｵｵｻﾜ	ad,ae,af,ai,ak,am	白竜湖に流れ込む大きな沢。沢の出口が北町遺跡
24	赤湯	夷平　(I,R,W: ゑぞか平)	ｴｿﾞﾀﾞｲﾗ	I,R,W,ad,af,ai,ak,am	終末期古墳群があったと伝わる
25	赤湯	夷平道下	ｴｿﾞﾀﾞｲﾗﾐﾁｼﾀ	ad,ae,af,ai,ak,am	
26	赤湯	夷平山	ｴｿﾞﾀﾞｲﾗﾔﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	終末期古墳群があったと云わる
27	赤湯	沼端	ﾇﾏﾊﾞﾀ	ad,ae,af,ai,ak,am	白竜湖西岸、田の中に池塘があった
28	赤湯	十文字南	ｼﾞｭｳﾓﾝｼﾞﾐﾅﾐ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	赤湯―松沢間。十文字は辻より新しい用語
29	赤湯	十文字北	ｼﾞｭｳﾓﾝｼﾞｷﾀ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am,T	
30	金沢	十文字北	ｼﾞｭｳﾓﾝｼﾞｷﾀ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am,T	
31	赤湯	川原	ｶﾜﾊﾗ	ae,af,ai,am	館の山の西方、吉野川左岸の川原
32	赤湯	西川原	ﾆｼｶﾜﾊﾗ	R,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	二色根村内飛び地
33	赤湯	中川原	ﾅｶｶﾜﾊﾗ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	二色根村内飛び地
34	赤湯	中道	ﾅｶﾐﾁ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	森の山の東、道が大谷地で尽きる所
35	赤湯	川尻北	ｶﾜｼﾞﾘｷﾀ	ab,ad,ae,af,ak,am	道が尽き、本格的な谷地になる地点
36	赤湯	川尻南	ｶﾜｼﾞﾘﾐﾅﾐ	ab,ad,ae,af,ak,am	赤湯ー松沢間、道が大谷地で尽きる所
37	赤湯	川尻	ｶﾜｼﾞﾘ	am,ai,ae,I,R,W	
38	赤湯	川南	ｶﾜﾐﾅﾐ	ai	
39	赤湯	川北	ｶﾜｷﾀ	ai	
40	赤湯	沼尻	ﾇﾏｼﾞﾘ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am,T	白竜湖から南東へ伸びる水路の西岸
41	金沢	沼尻	ﾇﾏｼﾞﾘ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am,T	
42	赤湯	沼尻東	ﾇﾏｼﾞﾘﾋｶﾞｼ	ad,ae,af,ai,ak,am	白竜湖から南東へ伸びる水路の東岸
43	赤湯	深山	ｼﾝｻﾞﾝ	W,ab,ae,af,ai,ak,am	深山寺があった
44	赤湯	八幡坂	ﾊﾁﾏﾝｻﾞｶ	ad,af,ak,am	赤湯八幡社の南側の谷
45	赤湯	ドドメキ	ﾄﾞﾄﾞﾒｷ	I,R,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	大沢の出口、水音が響く地

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
46	赤湯	ガムシ沼	ｶﾞﾑｼﾇﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	ガムシ：水生昆虫
47	赤湯	月ノ木前	ﾂｷﾉｷﾏｴ	ad,ae,af,ai,ak,am	鳥上坂へ登る途中の坂
48	赤湯	月ノ木山	ﾂｷﾉｷﾔﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	
49	赤湯	月ノ木	ﾂｷﾉｷ	ae.ai	
50	赤湯	(つきの木在家)	ﾂｷﾉｷｻﾞｲｹ	D	月ノ木在家
51	赤湯	鳥喰	ﾄﾘﾊﾞﾐ	ad,ae,af,ai,ak,am	白竜湖東側の草地。小鳥が多く来る地
52	赤湯	鳥喰北	ﾄﾘﾊﾞﾐｷﾀ	ad,ae,af,ai,ak,am	
53	赤湯	金沢堀西	ｶﾈｻﾞﾜﾎﾞﾘﾆｼ	ad,ae,af,ai,ak,am	
54	金沢	無縁場	ﾑｴﾝﾊﾞ	ad,ae,af,ai,ak,am	元火葬場
55	赤湯	沼北	ﾇﾏｷﾀ	ad,ae,af,ai,ak,am	
56	赤湯	十分一前	ｼﾞｭｳﾌﾞｲﾁﾏｴ	ad,ae,af,ai,ak,am	白竜湖の北
57	赤湯	十分一山	ｼﾞｭｳﾌﾞｲﾁﾔﾏ	ad,ai,ak,am	十分一：鉱山に入る物資に十分の一の物品税を課した
58	赤湯	十分一	ｼﾞｭｳﾌﾞｲﾁ	ae,af,ai,am	〃　、山南西裾の斜面
59	赤湯	中堀	ﾅｶﾎﾞﾘ	ad,ae,af,ai,ak,am	白竜湖北側
60	赤湯	中堀北	ﾅｶﾎﾞﾘｷﾀ	am	
61	赤湯	中堀南	ﾅｶﾎﾞﾘﾐﾅﾐ	am	
62	赤湯	小柳田	ｺﾔﾅｷﾞﾀﾞ	ad,ae,af,ai,ak,am	白竜湖北、十分一山裾
63	赤湯	玉坂	ﾀﾏｻｶ	ad,ae,af,ai,ak,am,R	玉坂鉱山
64	赤湯	玉坂山	ﾀﾏｻｶﾔﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	
65	赤湯	鳥上	ﾄﾘｱｹﾞ	ad,ae,af,ai,ak,am	取揚と記した文書もある
66	赤湯	秋葉山	ｱｷﾊｻﾝ	ad,ae,af,ai,ak,am	
67	赤湯	大沢山	ｵｵｻﾜﾔﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	古墳群があったと伝わる
68	赤湯	元林山	ﾓﾄﾊﾞﾔｼﾔﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	
69	赤湯	名子山	ﾅｺﾞﾔﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	
70	赤湯	狼ノ沢	ｵｲﾉｻﾜ	ad,af,ak,am	
71	赤湯	狼沢山	ｵｲﾉｻﾞﾜﾔﾏ　(am: ｵｵｶﾐｻﾞﾜﾔﾏ)	ae,ai,am	
72	赤湯	順礼坂山　(af: 順礼炭山)	ｼﾞｭﾝﾚｲｻﾞｶﾔﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	
73	赤湯	土平山　(ae: 大平山)	ﾄﾞﾍｲﾔﾏ	ad,af,ak,am,ae	
74	赤湯	扇平山	ｵｵｷﾞﾋﾗﾔﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	
75	赤湯	初森山　(af: 郡森山)	ﾊﾂﾓﾘﾔﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	
76	赤湯	草履掛山	ｿﾞｳﾘｶﾞｹﾔﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	
77	赤湯	籠石山	ｶｺﾞｲｼﾔﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	
78	赤湯	焼山	ﾔｷﾔﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	
79	赤湯	高ツムジ山	ﾀｶﾂﾑｼﾞﾔﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	
80	赤湯	つきの木沢　(Y: 槻ノ木沢)	ﾂｷﾉｷｻﾞﾜ	I,Y	
81	赤湯	つきの木前	ﾂｷﾉｷﾏｴ	I,R	
82	赤湯	けわい坂　(Z: 形勢坂、化粧坂)	ｹﾜｲｻﾞｶ	I,R,W,Z	地蔵清水の南側か
83	赤湯	谷内	ﾀﾆｳﾁ	I,R	
84	赤湯	へび沼	ﾍﾋﾞﾇﾏ	I,R,T	
85	赤湯	どす湯	ﾄﾞｽﾕ	I,R	
86	赤湯	しみと（四味堂）	ｼﾐﾄﾞ	I,R,W	二色根に氷堂（ｼﾐﾄﾞｳ）有。
87	赤湯	志ミと	ｼﾐﾄ	I	ｼﾐﾄﾞｳ、上記と同じか
88	赤湯	清水崎	ｼﾐｽﾞｻﾞｷ	I,R	〃
89	赤湯	川原田	ｶﾜﾗﾀﾞ	I,R	
90	赤湯	清水堂	ｼﾐｽﾞﾄﾞｳ	I,R	
91	赤湯	横町裏	ﾖｺﾏﾁｳﾗ	I,R	
92	赤湯	とうきりはし　(胴切橋、土切橋)	ﾄﾞｳｷﾘﾊﾞｼ	I, 市史編集資料 41 号	長岡表町線と国道 113 の十字路付近
93	赤湯	長田	ﾅｶﾞﾀ	I	
94	赤湯	藤左衛門作	ﾄｳｻﾞｴﾓﾝﾂﾞｸﾘ	I	
95	赤湯	草刈場	ｸｻｶﾘﾊﾞ	I	
96	赤湯	大百刈田	ｵｵﾋｬｸｶﾞﾘﾀ	I	
97	赤湯	大百刈之内	ｵｵﾋｬｸｶﾘﾉｳﾁ	I	
98	赤湯	小かた	ｺｶﾀ	I	

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
99	赤湯	みたらせ川　(P: 新田前みたらせ川)	ﾐﾀﾗｾｶﾞﾜ	I	旧赤湯八幡社付近？御手洗川
100	赤湯	成なし	ﾅﾘﾅｼ	R	三間通地区へ飛地か
101	赤湯	八幡堂	ﾊﾁﾏﾝﾄﾞｳ	R,W	
102	赤湯	鳥上坂	ﾄﾘｱｹﾞｻﾞｶ	R	取揚坂と記した文書もある
103	赤湯	入かね下	ｲﾘｶﾞﾈｼﾀ	R	入金村は金沢村のこと
104	赤湯	たのぶ	ﾀﾉﾌﾞ	R	
105	赤湯	笹原	ｻｻﾜﾗ	R	烏帽子山の西南
106	赤湯	十念坂	ｼﾞｭｳﾈﾝｻﾞｶ	R	民話では十年坂と記す
107	赤湯	馬場通	ﾊﾞﾊﾞﾄﾞｵﾘ	W	馬市に由来
108	赤湯	本町裏	ﾓﾄﾏﾁｳﾗ	W	
109	赤湯	深山うら	ｼﾝｻﾞﾝｳﾗ	W	深山寺に由来
110	赤湯	松嶋田	ﾏﾂｽﾏﾀﾞ	T	
111	赤湯	水神前	ｽｲｼﾞﾝﾏｴ	T	
112	赤湯	田橋	ﾀﾊﾞｼ	S	
113	赤湯	物見柳	ﾓﾉﾐﾔﾅｷﾞ	S	物見
114	赤湯	関畠	ｾｷﾊﾞﾀｹ	I	
115	赤湯	山畑	ﾔﾏﾊﾞﾀｹ	I	
116	赤湯	吉野	ﾖｼﾉ	I	
117	赤湯	福てん	ﾌｸﾃﾞﾝ	I	
118	赤湯	川原畠	ｶﾜﾗﾊﾞﾀｹ	I	
119	赤湯	とす森	ﾄｽﾓﾘ	I	
120	赤湯	源山内	ｹﾞﾝｻﾞﾝﾅｲ？	I	内：入り組んだ地形
121	赤湯	湯沢	ﾕｻﾜ	明暦二年御狩場之図	
122	金沢	北浦　(ai: 北裏)	ｷﾀｳﾗ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
123	金沢	柳沢	ﾔﾅｷﾞｻﾞﾜ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
124	金沢	柳沢前	ﾔﾅｷﾞｻﾜﾏｴ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
125	金沢	万平	ﾏﾝﾍﾟｲ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
126	金沢	万平山	ﾏﾝﾍﾟｲﾔﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	
127	金沢	金沢組中	ｶﾈｻﾞﾜｸﾐﾁｭｳ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
128	金沢	源蔵	ｹﾞﾝｿﾞｳ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
129	金沢	入金	ｲﾘｶﾞﾈ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	鉱山関連地名
130	金沢	入金村（煎金村）	イリガネムラ	M	
131	金沢	外ノ林	ﾄﾉﾊﾔｼ　（ad：ﾄﾉﾓﾉ、am: ｿﾄﾉﾊﾔｼ）	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
132	金沢	天秤屋	ﾃﾝﾋﾞﾝﾔ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	鉱山関連地名
133	金沢	白竜湖	ﾊｸﾘｭｳｺ	ae,af,ai,am	
134	金沢	上ノ原	ｳｴﾉﾊﾗ	ad,ae,af,ai,ak,am	
135	金沢	大小屋	ｵｵｺﾞﾔ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	鉱山関連地名、金山小屋か。或はｺﾔ：荒野（開拓免税地名）か
136	金沢	酒町前	ｻｶﾏﾁﾏｴ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
137	金沢	転石	ｺﾛﾋﾞｲｼ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	鉱山関連地名
138	金沢	蓮沼	ﾊｽﾇﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	池塘に由来
139	金沢	七両坂　(R,T: 七郎坂)	ｼﾁﾘｮｳｻﾞｶ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	北條郷鉱山史話に由来記載
140	金沢	七両坂前　(T: 七郎坂前)	ｼﾁﾘｮｳｻﾞｶﾏｴ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
141	金沢	松林下	ｼｮｳﾘﾝｼﾀ	ad,af,ak,am,ab	
142	金沢	松林道下	ｼｮｳﾘﾝﾐﾁｼﾀ　(am: ﾏﾂﾊﾞﾔｼﾐﾁｼﾀ)	ae,af,ai,am	
143	金沢	山ノ上	ﾔﾏﾉｶﾐ　（ﾔﾏﾉｳｴ）	ad,ae,af,ai,ak,am	
144	金沢	上谷地	ｶﾐﾔﾁ	ak,af,ad,T	
145	金沢	仏沼	ﾌﾞﾂﾇﾏ　（ad: ﾌﾞﾁﾇﾏ）	ad,ae,af,ai,ak,am,T	池塘に由来
146	金沢	柳山	ﾔﾅｷﾞﾔﾏ	ad,af,ai,ak,am	
147	金沢	外ノ山	ｿﾄﾔﾏ　（ad: ﾄﾉﾔﾏ）	ad,ae,af,ai,ak,am	
148	金沢	平次林	ﾍｲｼﾞﾊﾞﾔｼ	ad,ae,af,ai,ak,am	
149	金沢	金沢	ｶﾈｻﾞﾜ	ai	
150	金沢	七群坂	ｼﾁｸﾞﾝｻﾞｶ	U	七両坂のことか
151	金沢	赤坂	ｱｶｻｶ	Y	

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
152	松沢	宮原前	ﾐﾔﾊﾞﾗﾏｴ	ad,ae,af,ai,ak,am	
153	松沢	宮原	ﾐﾔﾊﾞﾗ	S	
154	松沢	宮前	ﾐﾔﾏｴ	ab	草刈八幡神社の前
155	松沢	段前	ﾀﾞﾝﾏｴ	ad,ae,af,ai,ak,am,R,S	壇（近世墓地）、墓地有
156	松沢	古沢	ｺｻﾞﾜ	ad,ae,af,ai,ak,am,S	
157	松沢	土石	ﾄﾞｲｼ	ad,ae,af,ai,ak,am,S	土石山の南
158	松沢	土石山	ﾄﾞｲｼﾔﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	
159	松沢	山神前	ﾔﾏﾉｶﾐﾏｴ	ad,ae,af,ai,ak,am,S	山神神社の南
160	松沢	赤石前	ｱｶｲｼﾏｴ　(am:ｱｶｼﾏｴ)	ad,ae,af,ai,ak,am,S	赤石山の南
161	松沢	松沢前	ﾏﾂｻﾞﾜﾏｴ	ad,ae,af,ai,ak,am,S	松沢山の南
162	松沢	松沢前山	ﾏﾂｻﾞﾜﾏｴﾔﾏ	ak,af,ad,ae	
163	松沢	松沢山	ﾏﾂｻﾞﾜﾔﾏ	ai,am	
164	松沢	前坂	ﾏｴｻﾞｶ	ad,ae,af,ai,ak,am,S	
165	松沢	田橋	ﾀﾊﾞｼ	ak,ai,af,ad,ae	
166	松沢	前川原	ﾏｴｶﾞﾜﾗ	ad,af,ak,am,S	
167	松沢	塚田	ﾂｶﾀﾞ	ad,ae,af,ai,ak,am,S	
168	松沢	島山	ｼﾏﾔﾏ	am	
169	松沢	沼南	ﾇﾏﾐﾅﾐ	am	
170	松沢	沼東	ﾇﾏﾋｶﾞｼ	am	
171	松沢	金沢前	ｶﾈｻﾞﾜﾏｴ	am	
172	松沢	赤石山	ｱｶｲｼﾔﾏ　(am:ｱｶｼﾔﾏ)	ai,am	
173	松沢	松沢	ﾏﾂｻﾞﾜ	am,ai,ae	
174	松沢	大平山	ｵｵﾋﾗﾔﾏ	ai	
175	松沢	北浦	ｷﾀｳﾗ	S,ai	
176	松沢	貉御所	ﾑｼﾞﾅﾉｺﾞｼｮ	U	市文化財
177	松沢	田所橋	ﾀﾄﾞｺﾛﾊﾞｼ	U	
178	赤湯	新町	ｱﾗﾏﾁ	享保の絵図	後に馬町に改称
179	赤湯	荒町	ｱﾗﾏﾁ	正保の絵図	〃

１．赤湯　（２）椚塚の小字名・地名

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
椚塚			ｸﾇｷﾞﾂﾞｶ	ae,ai	
1	椚塚	押出	ｵﾝﾀﾞｼ　(am: ｵｼﾀﾞｼ)	ad,ae,af,ai,ak,am	洪水等の砂泥堆積地
2	椚塚	塚田	ﾂｶﾀﾞ	ad,ae,af,ai,ak,am	
3	椚塚	川原田	ｶﾜﾗﾀﾞ	ad,ae,af,ai,ak,am	
4	椚塚	渋田	ｼﾌﾞﾀ	ad,ae,af,ai,ak,am	渋は赤錆のこと、鉄分の多い水が湧く田
5	椚塚	太子堂	ﾀｲｼﾄﾞｳ	ad,ae,af,ai,ak,am,ab	太子堂があったか
6	椚塚	上谷地	ｶﾐﾔﾁ	ad,ae,af,ai,ak,am	
7	椚塚	下谷地	ｼﾓﾔﾁ	ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川左岸、大谷地内
8	椚塚	北谷地	ｷﾀﾔﾁ	ad,ae,af,ai,ak,am	中谷地の北
9	椚塚	中谷地	ﾅｶﾔﾁ	ad,ae,af,ai,ak,am	館の山の東の集落～田
10	椚塚	松木檀	ﾏﾂﾉｷﾀﾞﾝ　(ﾏﾂｷﾀﾞﾝ)	ad,ae,af,ai,ak,am	壇：近世墓地に多い
11	椚塚	松浦檀	ﾏﾂｳﾗﾀﾞﾝ	ad,ae,af,ai,ak,am	壇：近世墓地に多い
12	椚塚	船付	ﾌﾅﾂｷ	ad,ae,af,ai,ak,am	谷地舟の係留地か
13	椚塚	前田	ﾏｴﾀ	ad,ae,af,ai,ak,am	館の山の南裾
14	椚塚	辻ノ前	ﾂｼﾞﾉﾏｴ	ad,ae,af,ai,ak,am	館の山北東、集落の南側
15	椚塚	中島	ﾅｶｼﾞﾏ	ad,ae,af,ai,ak,am	大谷地の起こし田の範囲
16	椚塚	境田	ｻｶｲﾀﾞ	ad,ae,af,ai,ak,am	赤湯との境
17	椚塚	蛇沼	ｼﾞｬﾇﾏ　(af: ﾍﾋﾞﾇﾏ)	ad,ae,af,ai,ak,am,ab	赤湯境、沼があったか
18	椚塚	館ノ越	ﾀﾃﾉｺｼ	ab,ad,af,ai,ak,am	館の山の北裾
19	椚塚	館ノ山	ﾀﾃﾉﾔﾏ	ad,af,ai,ak,am	館のあった山
20	椚塚	堀田	ﾎﾂﾀ	ad,ae,af,ai,ak,am,ab	館の山の西
21	椚塚	角田	ｶｸﾀ	ad,ae,af,ai,ak,am,ab	ｶｸﾀ（欠け田）：洪水で田が欠けた土地か
か	椚塚	李ノ木	ｽﾓﾓﾉｷ	ad,ae,af,ai,ak,am,ab	梨は穴師（ｱﾅｼのｱの脱字、産鉄に関わる職人）という場合もある。
23	椚塚	湯川原	ﾕｶﾞﾜﾗ	ad,ae,af,ai,ak,am,ab	千刈田堤があった
24	椚塚	山崎	ﾔﾏｻﾞｷ	ab,ad,af,ak,am	長岡山北端の先
25	椚塚	橋本東	ﾊｼﾓﾄﾋｶﾞｼ	ab	
26	椚塚	橋本	ﾊｼﾓﾄ	ad,ae,af,ai,ak,am	
27	椚塚	石法花	ｲｼﾎﾞﾂｹ	ad,ae,af,ai,ak,am,ab	六面幢があった。又はﾎｹ：石がごろごろした落差のある地
28	椚塚	川端	ｶﾜﾊﾞﾀ	ad,ae,af,ai,ak,am,ab	千刈田堤の北
29	椚塚	川尻	ｶﾜｼﾞﾘ	ad,ae,af,ai,ak,am	松沢の手前
30	椚塚	中川原	ﾅｶｶﾞﾜﾗ	ad,ae,af,ai,ak,am	塚田の東、起こし田
31	椚塚	江口	ｴｸﾞﾁ	ad,ae,af,ai,ak,am	屋代村境、大谷地
32	椚塚	砂田	ｽﾅﾀﾞ	ab,ad,ae,af,ai,ak	洪水堆積の砂地
33	椚塚	大野	ｵｵﾉ	ad,ae,af,ai,ak,am	金沢地内への飛び地
34	椚塚	左沢	ｻｻﾞﾜ　(am: ﾋﾀﾞﾘｻﾞﾜ)	ad,ae,af,ai,ak,am	金沢地内への飛び地
35	椚塚	松沢前	ﾏﾂｻﾞﾜﾏｴ	ad,ae,af,ai,ak,am	
36	椚塚	大縄場	ｵｵﾅﾜﾊﾞ	ad,ae,af,ai,ak,am	松沢の南、屋代村境
37	椚塚	大縄場ノ内大柳	ｵｵﾅﾜﾊﾞﾉｳﾁｵｵﾔﾅｷﾞ	ad,ae,af,ai,ak,am	
38	椚塚	大縄場ノ内升形	ｵｵﾅﾜﾊﾞﾉｳﾁﾏｽｶﾞﾀ	ad,ae,af,ai,ak,am	
39	椚塚	弗沼　(ab: 仏沼)	ﾌﾞﾂﾇﾏ　(am: ﾄﾞﾙﾇﾏ)	ad,ae,af,ai,ak,am	貉の御所の西
40	椚塚	沼尻	ﾇﾏｼﾞﾘ	ad,ae,af,ai,ak,am	
41	椚塚	十文字	ｼﾞｭｳﾓﾝｼﾞ	ad,ae,af,ai,ak,am	仏沼の西
42	椚塚	上谷地	ｶﾐﾔﾁ	ad,af,ak,am	
43	椚塚	湯境	ﾕｻﾞｶﾋ	ad,ae,af,ai,ak	赤湯境の脱字か
44	椚塚	前坂	ﾏｴｻｶ	am	
45	椚塚	新開	ｼﾝｶｲ	ae,ai	
46	椚塚	ニタロ	ﾆﾀﾛ	ac	
47	椚塚	大曲	ｵｵﾏｶﾞﾘ	ac	
48	椚塚	(丹後在家)	ﾀﾝｺﾞｻﾞｲｹ	D	丹後在家
49	椚塚	(豊後在家)	ﾌﾞﾝｺﾞｻﾞｲｹ	D	豊後在家
50	椚塚	(高関在家)	ﾀｶｾﾞｷｻﾞｲｹ	D	高関在家
51	椚塚	(沼さハ在家)	ﾇﾏｻﾞﾜｻﾞｲｹ	D	沼沢在家

１．赤湯　（３）長岡の小字名・地名

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
長岡			ﾅｶﾞｵｶ	ae,ai	
1	長岡	下谷地北	ｼﾀﾔﾁｷﾀ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川西岸
2	長岡	下谷地南	ｼﾓﾔﾁﾐﾅﾐ	ab,af,am	吉野川西岸
3	長岡	下谷地	ｼﾓﾔﾁ　(ab: ｼﾀﾔﾁ)	ad,ae,ai,ak,am	
4	長岡	前原北	ﾏｴﾊﾗｷﾀ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川西岸の旧河道、石河原有
5	長岡	前原南	ﾏｴﾊﾗﾐﾅﾐ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	〃
6	長岡	東田中	ﾋｶﾞｼﾀﾅｶ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	長岡山の東、街道東の集落
7	長岡	小生堂	ｺｾｲﾄﾞｳ　(af: ｺｼｮｳﾄﾞｳ、am: ｺｵｲﾄﾞｳ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	越王堂があったことに由来
8	長岡	金屋神	ｶﾅﾔｶﾞﾐ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	かなや神：産鉄の神
9	長岡	稲荷森	ｲﾅﾘﾓﾘ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	古くは神社をﾓﾘと言った又はドーム型の山をﾓﾘともいう。稲荷神社に由来。稲荷森古墳。
10	長岡	きつね在け	ｷﾂﾈｻﾞｲｹ	C	稲荷森は通称「きつね山」
11	長岡	西田中	ﾆｼﾀﾅｶ　(ﾆｼﾀﾞﾅｶ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	長岡山東の集落地
12	長岡	西田中西	ﾆｼﾀﾅｶﾆｼ　(ﾆｼﾀﾞﾅｶﾝｼ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	長岡山の南半地
13	長岡	西田中南	ﾆｼﾀﾅｶﾐﾅﾐ　(ﾆｼﾀﾞﾅｶﾐﾅﾐ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	南森北東の集落地
14	長岡	清水尻	ｼﾐｽﾞｼﾞﾘ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	南森南東の池地
15	長岡	南森	ﾐﾅﾐﾓﾘ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	南森。古くは神社をﾓﾘと言った又はドーム型の山をﾓﾘともいう。
16	長岡	南森西	ﾐﾅﾐﾓﾘﾆｼ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	南森の西
17	長岡	西田	ﾆｼﾀﾞ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	南森の北西
18	長岡	入尾免	ｲﾘｵﾒﾝ　(am: ｲﾘｵﾒ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	井料免：用水管理用の共同水田、免田
19	長岡	開田	ｶｲﾃﾞﾝ　(ai,ae: ｶｲﾀ、am: ﾋﾗｷﾀﾞ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	開拓地名
20	長岡	大巻	ｵｵﾏｷ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	長岡山館関連の牧か、旧河道が曲がる地か
21	長岡	堂の前　(ab: 堂之前)	ﾄﾞｳﾉﾏｴ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	南森の東、丘陵と自然堤防に挟まれた低地
22	長岡	後家谷地	ｺﾞｹﾔﾁ	af	
23	長岡	柳田	ﾔﾅｷﾞﾀﾞ	ab,ad,af,ak,am	柳の木
24	長岡	五百刈	ｺﾞﾋｬｸｶﾞﾘ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	刈は中世年貢上納に係る水田面積
25	長岡	長苗代北	ﾅｶﾞﾅﾜｼﾛｷﾀ	ab	丘陵と自然堤防に挟まれた低地
26	長岡	南長苗代	ﾐﾅﾐﾅｶﾞﾅﾜｼﾛ	ab	〃
27	長岡	長苗代	ﾅｶﾞﾅﾜｼﾛ	ad,ae,af,ai,ak,am	
28	長岡	境田	ｻｶｲﾀﾞ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	椚塚との境
29	長岡	北田	ｷﾀﾀﾞ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	集落のある西田中の北
30	長岡	向原	ﾑｶｲﾊﾗ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川西岸
31	長岡	中野坪	ﾅｶﾉﾂﾎﾞ	ab,af	条里関連地名か
32	長岡	四釜	ｼｶﾏ	ab,af	「シカ」は「干潟、砂洲」の意味。「マ」は場所。
33	長岡	砂原	ｽﾅﾊﾗ	ab,af	洪水による砂の堆積地
34	長岡	井戸尻	ｲﾄﾞｼﾞﾘ	ab,af	低湿地

１．赤湯　（４）俎柳の小字名・地名

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
俎柳　(真板柳)			ﾏﾅｲﾀﾔﾅｷﾞ	ae,ai	俎板に由来と伝承。真名井（まない）の可能性？ 鍋田 No91 参照
1	俎柳	水下	ﾐｽﾞｼﾓ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	集落の南、俎柳御番所があった。水路下流。
2	俎柳	東畑	ﾋｶﾞｼﾊﾀ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	街道の東、集落地
3	俎柳	堀田	ﾎﾘﾀ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	館跡
4	俎柳	水上	ﾐｽﾞｶﾐ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	水路上流。熊野神社有り
5	俎柳	中丸　(C: なかまろ)	ﾅｶﾏﾙ	C,J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	南森の南。中麿郷か
6	俎柳	六百苅	ﾛｯﾋﾟﾔｸｶﾞﾘ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	刈は中世年貢上納に係る水田面積
7	俎柳	才藤	ｻｲﾌｼﾞ　(ai,ae: ｻｲﾄﾞｳ、am: ｻｲﾄｳ)	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	さい藤在家に由来か
8	俎柳	さい藤在け (af: 斎藤在家)	ｻｲﾄﾞｳｻﾞｲｹ	C,J、af(302 頁)	さい藤在家
9	俎柳	斎藤屋敷	ｻｲﾄｳﾔｼｷ	J	さい藤在家関連か
10	俎柳	吉見分	ﾖｼﾐﾜｹ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川西岸。江戸時代に吉見次右エ門の開拓
11	俎柳	南谷地　(J: 南屋地)	ﾐﾅﾐﾔﾁ	J,ab,ae,af,ai,am	吉野川が西に曲がる所の右岸
12	俎柳	上谷地	ｶﾐﾔﾁ	J,ad,ae,af,ai,ak,am	集落北東側の低地
13	俎柳	下谷地	ｼﾓﾔﾁ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	集落東側の低地
14	俎柳	大谷地	ｵｵﾔﾁ	ab	
15	俎柳	早稲田	ﾜｾﾀﾞ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川北岸
16	俎柳	柳田	ﾔﾅｷﾞﾀﾞ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	集落の北
17	俎柳	右京	ｳｷｮｳ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	深沼村境、右京在家関連
18	俎柳	うきやう在家　(J,ak: 右京在家)	ｳｷｮｳｻﾞｲｹ	C,J,ak(湯目文書)	なかまろ (中麿) のうち、うきやう在家
19	俎柳	五反歩	ｺﾞﾀﾝﾌﾞ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川東岸
20	俎柳	白野	ｼﾛﾉ	af	
21	俎柳	宿ノ町	ﾔﾄﾞﾉﾏﾁ	ak	
22	俎柳	四百野	ｼﾋｬｸﾉ　(ﾖﾝﾋｬｸﾉ)	J,ab,am	館堀の南側。橋があったか
23	俎柳	板橋	ｲﾀﾊﾞｼ	J,ab,af	館跡東側の低地
24	俎柳 (鍋田)	(みよう在け)	ﾐｮｳﾉｻﾞｲｹ	C	名田（ﾐｮｳﾃﾞﾝ）の名残。平安中期から室町末まで荘園・国衙領の収得の基礎単位となった田地のこと。鍋田 No115
25	俎柳	水無	ﾐｽﾞﾅｼ	J	
26	俎柳	的場	ﾏﾄﾊﾞ	J、af(302 頁)	武芸の練習場
27	俎柳	小屋	ｺﾔ	J	開拓地名（荒野）か
28	俎柳	堀	ﾎﾘ	J	
29	俎柳	ほりはた	ﾎﾘﾊﾀ	J	
30	俎柳	堀畠	ﾎﾘﾊﾀｹ	J	
31	俎柳	岡（鬼）河原橋	ｵｶｶﾞﾜﾗﾊﾞｼ	J	
32	俎柳	熊野宮	ｸﾏﾉﾉﾐﾔ	J	熊野神社、字水上か
33	俎柳	かなうつき	ｶﾅｳﾂｷ	J	金空木（植物）？
34	俎柳	河はた	ｶﾜﾊﾞﾀ	J	川の端
35	俎柳	川畠	ｶﾜﾊﾞﾀｹ	J	
36	俎柳	こいは（af: こいそ）	ｺｲﾊ	J、af(302 頁)	
37	俎柳	堀小屋	ﾎﾘｺﾞﾔ	J	開拓地名（荒野）か
38	俎柳	(谷七在家)	ﾀﾆｼﾁｻﾞｲｹ	J	谷七在家
39	俎柳	南屋地	ﾐﾔﾐﾔﾁ	J	南谷地
40	俎柳	(吉長在家)(af: 吉永在家)	ﾖｼﾅｶﾞｻﾞｲｹ	J、af(302 頁)	吉長在家
41	俎柳	中やしき	ﾅｶﾔｼｷ	L	中屋敷
42	俎柳	火行段	ﾋｷﾞｮｳﾀﾞﾝ	L	熊野十二所権現の一つ飛行夜叉を祀ったか。鍋田 No122 関連
43	俎柳	(四釜在家)	ｼｶﾏｻﾞｲｹ	D	四釜在家

１．赤湯　（５）三間通・上野、他の小字名・地名

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
三間通			ﾐﾂﾏﾄﾞｵﾘ　(ae: ﾐﾂﾏﾄﾎﾘ)	ab.ai	道幅や三軒の屋敷が由来の説有り。発音を重視すれば川や水の神（ﾐｽﾞﾊﾉﾒﾉｶﾐ）を祀るか、或は水路に挟まれた場所か。
1	三間通	蕨田	ﾜﾗﾋﾞﾀﾞ	ab,ae,af,ai,am	吉野川の西、蕨田在家に関連か
2	三間通	西蕨田	ﾆｼﾜﾗﾋﾞﾀ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	ﾜﾗﾋﾞ：川に挟まれた地
3	三間通	東蕨田	ﾋｶﾞｼﾜﾗﾋﾞﾀ	ab,ad,af,ai,ak,am	吉野川の西、椚塚・二色根境
4	三間通	中蕨田	ﾅｶﾜﾗﾋﾞﾀ	ab,ad,af,ak,am	
5	三間通	西六角	ﾆｼﾛﾂｶｸ	ab,ae,ad,af,ai,ak	六面堂に由来か
6	三間通	東六角	ﾋｶﾞｼﾛﾂｶｸ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	〃
7	三間通	中六角	ﾅｶﾛﾂｶｸ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	〃
8	三間通	六角西	ﾛﾂｶｸﾆｼ	ab,ae,ad,af,ai,am	〃
9	三間通	西大田　(西太田)	ﾆｼｵｵﾀ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	矢ノ目館の北
10	三間通	稲荷	ｲﾅﾘ	ab,ae,ad,af,ai,am	稲荷集落。稲荷神社有り
11	三間通	東稲荷	ﾋｶﾞｼｲﾅﾘ	ab,ae,ad,af,ai,ak	稲荷集落の東
12	三間通	西稲荷	ﾆｼｲﾅﾘ	ab,ab,ad,af,ai,ak,am	稲荷集落の南西
13	三間通	壇之越	ﾀﾞﾝﾉｺｼ　(ﾀﾞﾝﾉｵﾁ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	壇を越えた所、壇の周り
14	三間通	樋越	ﾋｺﾞｼ　(am: ﾄｲｺﾞｼ)	ab,aead,af,ai,ak,am	水路地名。水路が三本流れる。諏訪神社有り。
15	三間通	地蔵田	ｼﾞｿﾞｳﾃﾞﾝ　(am: ﾁﾞｿﾞｳﾀﾞ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	奉納田や寄進された免租の田。地蔵講関係
16	三間通	唐越	ｶﾗｺｼ	ae,ad,af,ai,ak,am	越王神社地名か？　荷を空にして越す地の意か？
17	三間通	成梨	ﾅﾘﾅｼ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	ﾅﾙ：傾斜地。吉野川右岸の自然堤防の端
18	三間通	西成梨	ﾆｼﾅﾘﾅｼ	ab,ad,af,ai,ak	〃
19	三間通	円蔵西	ｴﾝｿﾞｳﾆｼ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	蝦夷神社の周辺
20	三間通	円蔵前	ｴﾝｿﾞｳﾏｴ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	〃
21	三間通	円蔵脇	ｴﾝｿﾞｳﾜｷ	ab,ae,ai,am	〃　及び中洲
22	三間通	檜原	ﾋﾉｷﾊﾞﾗ　(am: ｴﾊﾞﾗ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	東唐越館の東
23	三間通	北檜原	ｷﾀﾋﾉｷﾊﾞﾗ　(am: ｷﾀｴﾊﾞﾗ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	吉野川右岸。吉野川と堰の分流地
24	三間通	東唐越	ﾋｶﾞｼｶﾗｺｼ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	東唐越館
25	三間通	中唐越	ﾅｶｶﾗｺｼ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	
26	三間通	西唐越	ﾆｼｶﾗｺｼ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	若狭郷屋との境
27	三間通	関口前	ｾｷｸﾞﾁﾏｴ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	若狭郷屋・宮内との境
28	三間通	関口後	ｾｷｸﾞﾁｱﾄ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	宮内との境
29	三間通	長田	ﾅｶﾞﾀﾞ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	南北に長い田
30	三間通	堰欠	ｾｷｶﾞｹ	ab	洪水で堰が欠けた地
31	三間通	堰沢	ｾｷｻﾜ	ab,ai	
32	三間通	西野々	ﾆｼﾉﾉ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	三間通集落西の旧河道の西、吉野川左岸
33	三間通	後畑	ｺﾞﾊﾀ　(ai,ae: ｺﾞﾊﾞﾀ、am: ｱﾄﾊﾞﾀｹ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	古くからの三間通集落
34	三間通	横沢	ﾖｺｻﾜ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	二色根館根小屋の西
35	三間通	横沢裏	ﾖｺｻﾜｳﾗ	ab,ad,af,ai,ak,am	
36	三間通	水上	ﾐｽﾞｶﾐ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	横沢の上流、堤有り
37	三間通	館ノ越	ﾀﾃﾉｺｼ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	二色根館の西の山麓。館を越したところ、或は館の腰まわりの地
38	三間通	雷前	ﾗｲﾏｴ　(am: ｶﾐﾅﾘﾏｴ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	雷神社。雨乞いの神社。地目は墓地
39	三間通	八幡前	ﾊﾁﾏﾝﾏｴ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	八幡神社有り。
40	三間通	八幡後	ﾊﾁﾏﾝｱﾄ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	八幡神社の北
41	三間通	川原	ｶﾜﾊﾗ	ab,ae,ad,af,ai,ak	吉野川左岸、氾濫域
42	三間通	北川原	ｷﾀｶﾜﾊﾗ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	三間通北端の川原

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
43	三間通	西川原	ﾆｼｶﾜﾊﾗ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	吉野川左岸、段丘
44	三間通	平蔵壇	ﾍｲｿﾞｳﾀﾞﾝ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	吉野川左岸、段丘末端。壇は近世墓域か
45	三間通	上野前	ﾜﾉｳﾏｴ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	段丘、上野地区の南
46	三間通	上野山	ﾜﾉﾔﾏ	ab,ai	
47	三間通	西上野	ﾆｼﾜﾉｳ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	段丘
48	三間通	中上野	ﾅｶﾜﾉｳ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	段丘
49	三間通	北山	ｷﾀﾔﾏ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	三間通地区の北端、段丘
50	三間通	一丁場	ｲｯﾁｮｳﾊﾞ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	近世初期の開拓地
51	三間通	二丁場	ﾆﾁｮｳﾊﾞ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	〃
52	三間通	三丁場	ｻﾝﾁｮｳﾊﾞ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	〃
53	三間通	糯田	ﾓﾁﾀﾞ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	モチ：凹地
54	三間通	間々上　(間々ノ上)	ﾏﾏﾉｳｴ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	ﾏﾏ:急な崖・斜面の自然地形。崖線のこと。
55	三間通	館ノ山　(館山)	ﾀﾃﾉﾔﾏ	ab,ad,af,ai,ak,am	二色根館
56	三間通	五百苅	ｺﾞﾋｬｸｶﾞﾘ	ab,ae,ad,af,ai,ak	刈は中世年貢上納に係る水田面積
57	三間通	中坪	ﾅｶﾂﾎﾞ　(am:ﾅｶﾉﾂﾎﾞ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	中央が窪む地形？条里地名？
58	三間通	傾城橋	ｹｲｼﾞｮｳﾊﾞｼ　(am:ｹｲｾｲﾊﾞｼ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	古くからの三間通集落。二色根の茶屋の美女に会うため渡る橋
59	三間通	桑旗	ｶﾊﾞﾀ　(ad:ｸﾜﾊﾞﾀ、am:ｸﾜﾊﾞﾀ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	河端：川の側
60	三間通	桑旗前	ｶﾊﾞﾀﾏｴ　(ad:ｸﾜﾊﾞﾀﾏｴ、am:ｸﾜﾊﾞﾀﾏｴ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	吉野川左岸、氾濫域
61	三間通	桑旗後	ｶﾊﾞﾀｱﾄ　(am:ｸﾜﾊﾞﾀｱﾄ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	桑旗集落の北
62	三間通	宮内前	ﾐﾔｳﾁﾏｴ	ab,ad,af,ai,ak,am	宮内地内の飛び地
63	三間通	西山	ﾆｼﾔﾏ	ab,ae,af,ai,am	西上野の北、堤有り。
64	三間通	北西山	ｷﾀﾆｼﾔﾏ	ab	
65	三間通	山居沢	ｻﾝｷｮｻﾞﾜ	ae	
66	三間通	諏訪西	ｽﾜﾆｼ	am	
67	蒲生田(三間通)	上野	ﾜﾉ　(af,ad:ﾜﾉｳ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	ﾜﾉ：粟野郷の名残か
68	蒲生田(三間通)	上野東	ﾜﾉﾋｶﾞｼ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	
69	蒲生田(三間通)	沢田	ｻﾜﾀﾞ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	
70	蒲生田(三間通)	ママ下	ﾏﾏﾉｼﾀ　(am:ﾏﾏｼﾓ)	ae,ad,af,ak,am	
71	蒲生田(三間通)	寺山	ﾃﾗﾔﾏ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	
72	蒲生田(三間通)	寺ノ前　(寺野前)	ﾃﾗﾉﾏｴ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	
73	蒲生田	蒲生田山	ｶﾓｳﾀﾞﾔﾏ	ab,ad,af,ai,ak,am	
74	蒲生田	山居沢山	ｻﾝｷｮｻﾞﾜﾔﾏ	ab,ad,af,ai,ak,am	
75	蒲生田	山居原	ｻﾝｷｮﾊﾞﾗ	ab,ad,af,ai,ak,am	
76	蒲生田	内原	ｳﾁﾊﾞﾗ	ab,ad,af,ai,ak,am	内：入り組んだ地形
77	蒲生田	ウルイ沢　(雨霊沢)	ｳﾙｲｻﾜ　(ｳﾙｲｻﾞﾜ)	ab,ad,af,ai,ak,am	蒲生田山古墳群
78	蒲生田	ウルイ沢山	ｳﾙｲｻﾞﾜﾔﾏ	ab,ad,af,ai,ak,am	
79	蒲生田	北野沢	ｷﾀﾉｻﾜ	ab,ad,af,ai,ak,am	
80	蒲生田	北ノ沢山　(北野沢山)	ｷﾀﾉｻﾜﾔﾏ	ab,ad,af,ai,ak,am	
81	蒲生田	蒲生田	ｶﾓｳﾀﾞ　(ｶﾞﾓｳﾀﾞ)	ai	
82	上野	狸沢山	ﾀﾇｷｻﾞﾜﾔﾏ	am	
83	上野	上野中	ﾜﾉﾅｶ	am	
84	上野	上野西	ﾜﾉﾆｼ	am	
85	中央東	永田	ﾅｶﾞﾀ	am	平成の地籍調査事業で改名
86	三間通	わらび田在家	ﾜﾗﾋﾞﾀﾞｻﾞｲｹ	D	蕨田在家

１．赤湯　（６）二色根の小字名・地名

ＮＯ	地区名	字名（地名）	読み	出典	備考
二色根			ﾆﾛﾈ（ﾆｲﾛﾈ）	ae	丹、赤土に係る地名
1	二色根	上氷堂	ｶﾐｼﾐﾄﾞｳ	ab,ae,af,ai,am	志味堂（四味堂）に由来。新御堂の可能性も
2	二色根	下氷堂	ｼﾓｼﾐﾄﾞｳ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	〃
3	二色根	下川原	ｼﾓｶﾜﾗ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	古堤の南・南東、旧氾濫域
4	二色根	前川原	ﾏｴｶﾜﾗ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川が貫流。小字成立後に河道になった。
5	二色根	中川原	ﾅｶｶﾜﾗ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	〃
6	二色根	堤端	ﾂﾂﾐﾊﾞﾀ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	古堤、旧氾濫域
7	二色根	石田	ｲｼﾀﾞ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	石の多い地、災害地名
8	二色根	上起田	ｶﾐｵｺｼﾀﾞ	ab,ad,ae,af,ai,ak	吉野川右岸、自然堤防
9	二色根	中起田	ﾅｶｵｺｼﾀﾞ	ab,ad,af,ak	〃
10	二色根	下起田	ｼﾓｵｺｼﾀﾞ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	〃
11	二色根	起田	ｵｺｼﾀﾞ	am	
12	二色根	田中堰	ﾀﾅｶｾﾞｷ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	赤湯への水路起点
13	二色根	大日前	ﾀﾞｲﾆﾁﾏｴ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	大日堂の前（南）。堀有り。
14	二色根	山崎	ﾔﾏｻﾞｷ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	烏帽子山西端の先
15	二色根	湯坂	ﾕｻﾞｶ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	烏帽子山に上る西坂
16	二色根	水溜	ﾐｽﾞﾀﾏﾘ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	湧水地
17	二色根	館ノ内	ﾀﾃﾉｳﾁ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	薬師寺有り。二色根館
18	二色根	大門	ﾀﾞｲﾓﾝ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	薬師寺参道
19	二色根	大日浦　(ad,aa: 大日裏)	ﾀﾞｲﾆﾁｳﾗ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	大日堂有り。館堀となる旧河道有り
20	二色根	綿打	ﾜﾄﾁ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	ﾜﾀﾞ：山麓の湧水地。ｳﾁ：入り組んだ地形
21	二色根	的場	ﾏﾄﾊﾞ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	二色根館関連。武芸の練習場
22	二色根	鍛冶屋敷	ｶｼﾞﾔｼｷ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	鍛冶職人の居住地
23	二色根	根小屋	ﾈｺﾞﾔ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	二色根館のﾈｺﾞﾔ（非戦闘時の集落・家臣団屋敷跡等）
24	二色根	根 小 屋 裏　(am,af,ad,ae: 根小屋浦)	ﾈｺﾞﾔｳﾗ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	ネゴヤの裏
25	二色根	根小屋前	ﾈｺﾞﾔﾏｴ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	ネゴヤの南端
26	二色根	壁ノ内	ｶﾍﾞﾉｳﾁ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	壁は中世城館の施設？
27	二色根	南京	ﾅﾝｷｮｳ（Y: ﾅﾝｷﾝ、am: ﾅﾝｷﾝ）	ae,ad,af,ai,ak,am	
28	二色根	南京観音堂	ﾅﾝｷｮｳｶﾝﾉﾝﾄﾞｳ (ad,am: ﾅﾝｷﾝｶﾝﾉﾝﾄﾞｳ)	ae,ad,af,ai,ak,am	
29	二色根	南京観音林　(af: 南京観音堂林)	ﾅﾝｷｮｳｶﾝﾉﾝﾊﾞﾔｼ (ad,am: ﾅﾝｷﾝｶﾝﾉﾝﾊﾞﾔｼ)	ae,ad,af,ai,ak,am	
30	二色根	薬師山	ﾔｸｼﾔﾏ	ae,ad,af,ai,ak,am	
31	二色根	中ノ山	ﾅｶﾉﾔﾏ	ae,ad,af,ai,ak,am	
32	二色根	湯沢	ﾕｻﾞﾜ	ae,ad,af,ai,ak,am	
33	二色根	諏訪前	ｽﾜﾉﾏｴ	ae,ad,af,ai,ak,am	諏訪神社の北
34	二色根	大巻	ｵｵﾏｷ	ae,ad,af,ai,ak,am	二色根館関連、馬の飼育場
35	二色根	東面田	ﾋｶﾞｼｵﾓﾀﾞ	ae,ad,af,ai,ak,am	西面田の東。免田
36	二色根	西面田	ﾆｼｵﾓﾀﾞ	ae,ad,af,ai,ak,am	吉野川右岸（西）の免田
37	二色根	面田	ｵﾓﾀﾞ	am	免田
38	二色根	砂田	ｽﾅﾀﾞ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川右岸、砂の堆積地。災害地名
39	二色根	腰巡	ｺｼﾒｸﾞﾘ	ad,ae,af,ai,ak	起田に接する。微高地を巡る地
40	二色根	前田	ﾏｴﾀﾞ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	根小屋の前（南）の田
41	二色根	浦山	ｳﾗﾔﾏ	ae,ad,af,ai,ak,am	
42	二色根	シンタラ	ｼﾝﾀﾗ	Y	

１．赤湯　（７）大橋の小字名・地名

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
大橋			ｵｵﾊｼ	ab,ae,ai	大は美称。橋或は端か
1	大橋	大橋本	ｵｵﾊｼﾓﾄ	ae,ak,am	吉野川の北岸。街道渡河地
2	大橋	谷地端	ﾔﾁﾊﾞﾀ	ab,ad,ae,af,ai,ak	谷地の端。三ツ沼の西
3	大橋	谷地	ﾔﾁ	am	
4	大橋	熊屋敷	ｸﾏﾔｼｷ	ab,am	ｸﾏ：奥まった所。集落南端
5	大橋	北熊屋敷	ｷﾀｸﾏﾔｼｷ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	〃
6	大橋	南熊屋敷	ﾐﾅﾐｸﾏﾔｼｷ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	〃
7	大橋	御殿跡	ｺﾞﾃﾝｱﾄ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	御殿跡。近世鷹狩時の御休場に利用
8	大橋	樋脇	ﾄﾖﾜｷ　(am:ﾄｲﾜｷ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	屋代川に水路が合流する地
9	大橋	館ノ内	ﾀﾃﾉｳﾁ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	大橋城本丸
10	大橋	北門口	ｷﾀﾓﾝｸﾞﾁ	ab,ad,ae,af,ag,ai,ak,am	大橋城北門口、北は湿地
11	大橋	北	ｷﾀ	ab,ad,ae,af,ak,am	吉野川・屋代川合流地西の自然堤防
12	大橋	北寺ノ内	ｷﾀﾃﾗﾉｳﾁ	ab,ad,ae,af,ag,ai,ak,am	元々瑞光寺があった地
13	大橋	南寺ノ内	ﾐﾅﾐﾃﾗﾉｳﾁ	ab,ad,ae,af,ag,ai,ak,am	〃
14	大橋	町浦	ﾏﾁｳﾗ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	街道西側の集落、畿内神社有り
15	大橋	上宿浦	ｶﾐｼﾞｭｸｳﾗ　(ｶﾐﾔﾄﾞｳﾗ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川南岸。宿（大橋宿）の裏
16	大橋	中宿浦	ﾅｶｼﾞｭｸｳﾗ　(ﾅｶﾔﾄﾞｳﾗ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	棒川の東。宿（大橋宿）の裏
17	大橋	下宿浦	ｼﾓｼﾞｭｸｳﾗ　(ｼﾓﾔﾄﾞｳﾗ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	棒川の東、中宿浦の南。宿（大橋宿）の裏
18	大橋	中千代田	ﾅｶﾁﾖﾀﾞ	am	
19	大橋	竹原	ﾀｹﾊﾗ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	館原か？　現在瑞光寺有り。中を旧河道が流れる。
20	大橋	堂の浦	ﾄﾞｳﾉｳﾗ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	熊屋敷の西
21	大橋	北番上	ｷﾀﾊﾞﾝｼﾞｮｳ　(am:ｷﾀﾊﾞﾝｶﾐ)	ab,ad,ae,af,ag,ai,ak,am	番匠は工人（城館等を造るため招いた工人に土地を与えて優遇することがあった）。吉野川と棒川合流地の南西
22	大橋	東番上	ﾋｶﾞｼﾊﾞﾝｼﾞｮｳ	ab,ad,ae,af,ag,ai,ak	〃　棒川の西
23	大橋	西番上	ﾆｼﾊﾞﾝｼﾞｮｳ　(am:ﾆｼﾊﾞﾝｶﾐ)	ab,ad,ae,af,ag,ai,ak,am	〃　吉野川の南
24	大橋	東三ツ沼	ﾋｶﾞｼﾐﾂﾇﾏ	ab,ad,ae,af,ai,ak	地区の南東角、沼があったか
25	大橋	西三ツ沼	ﾆｼﾐﾂﾇﾏ	ab,ad,ae,af,ai,ak	地区の南東、沼があったか
26	大橋	北三ツ沼	ｷﾀﾐﾂﾇﾏ	ab,ad,ae,af,ai,ak	地区の東端、沼があったか
27	大橋	沢田	ｻﾜﾀﾞ	ab,ad,ae,af,ag,ai,ak,am	御殿跡の西、北に堀となる旧河道有り
28	大橋	万助屋敷	ﾏﾝｽｹﾔｼｷ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	御殿跡の東、北に旧河道有り。自然堤防上に屋敷跡か
29	大橋	東川田	ﾋｶﾞｼｶﾜﾀﾞ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川旧河道と屋代川合流地点
30	大橋	西川田	ﾆｼｶﾜﾀﾞ	ab,ad,ae,af,ai,ak	本丸の東の自然堤防
31	大橋	油小林　(D:あふらこはし)	ｱﾌﾞﾗｺﾊﾞﾔｼ	D,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川旧河道右岸の自然堤防。油小林在家があったか。
32	大橋	(あぶらこばやしと申候在家)	ｱﾌﾞﾗｺﾊﾞﾔｼ	ak(湯目文書)	天正 12 年 (1584) 大橋古館跡が関係か
33	大橋	安塚	ﾔｾﾂﾞｶ　(am:ﾔｽｽﾞｶ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	棒川の西。
34	大橋	九反	ｸﾀﾝ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	
35	大橋	南九反	ﾐﾅﾐｸﾀﾝ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	
36	大橋	下須川	ｹﾞｽｶﾞﾜ　(ai,ae:ｹﾞｽｶﾞ)	ad,ae,af,ai	
37	大橋	前橋	ﾏｴﾊｼ	ad,ae,af,ai	

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
38	大橋	上三本柳	ｶﾐｻﾝﾎﾞﾝﾔﾅｷﾞ	ad,ae,af,ag,ai,am	夏刈・石岡に跨る飛び地
39	大橋	下三本柳	ｼﾓｻﾝﾎﾞﾝﾔﾅｷﾞ	ad,ae,af,ag,ai	
40	大橋	神上	ｶﾐｼﾞｮｳ	ad,ae,af,ai,ak	夏刈への飛び地
41	大橋	後案	ｺﾞｱﾝ	ad,ae,af,ai,ak	石岡への飛び地
42	大橋	吉野川上	ﾖｼﾉｶﾞﾜｶﾐ	ak,am	鍋田・田中への飛び地
43	大橋	鍛治屋敷	ｶｼﾞﾔｼｷ	ab,ad,ae,af,ag,ai,am	鍛冶職人がいたか。集落から最も遠い位置にあたる
44	大橋	地蔵浦東	ｼﾞｿﾞｳｳﾗﾋｶﾞｼ	ab,am	地蔵裏
45	大橋	地蔵浦西	ｼﾞｿﾞｳｳﾗﾆｼ	ab,am	〃
46	大橋	地蔵浦	ｼﾞｿﾞｳｳﾗ	am	〃
47	大橋	番所前	ﾊﾞﾝｼｮﾏｴ	am	大橋御番所
48	大橋	稲荷前	ｲﾅﾘﾏｴ	am	
49	大橋	南経塚	ﾐﾅﾐｷｮｳﾂﾞｶ	am	
50	大橋	橋本	ﾊｼﾓﾄ	am	
51	大橋	西新屋敷	ﾆｼｼﾝﾔｼｷ	am	
52	大橋	(左衛門四郎在家)	ｻｴﾓﾝｼﾛｳｻﾞｲｹ	ak(湯目文書)	明応２年 (1493)
53	大橋	(とう中在家)	ﾄﾞｳﾅｶｻﾞｲｹ	ak(湯目文書)	天文３年（1534）

１．赤湯 （８）その他の地名等

ＮＯ	地区名	地名	読み	出典	備考
1	金沢	入金村（煎金村)	ｲﾘｶﾞﾈﾑﾗ	市史編集資料第 26 集Ｐ 34	大沼（白竜湖）の東山根を入金村と云う
2	金沢	堅刈	ｶﾀｶﾘ	市史中巻 P383 北条郷鉱山史話 P16	『樹蓄建議』の一節に「金沢村堅刈、金山也。」鳥上坂近くの地名。鉱山用語で岩盤の堅いところ。
3	赤湯	出町	ﾃﾞﾏﾁ	享保年間絵図	享保年間の絵図に見える。赤湯の集落の木戸外にできた町の名。結城豊太郎記念館付近から南側
4	赤湯	荒町（新町）	ｱﾗﾏﾁ	正保～享保年間の絵図	後に馬町に変化した。中世「アラマチ」は、寺社を背景にした商取引が行われる町の意味
5	—	西行川	ｻｲｷﾞｮｳｶﾞﾜ	米沢地名選（文化元年 1804 年)	吉野川を西行が沐浴したことにちなんで西行川とも言うとある。
6	—	立谷川	ﾀﾁｶｶﾞﾜ	明治 25 年赤湯温泉誌	吉野川を昔立谷川と称す。俗に逆サ川という
7	—	逆川（逆さ川）	ｻｶｻｶﾞﾜ	明治 25 年赤湯温泉誌	吉野川。米沢盆地で唯一南流するため
8	—	組矢川	ｸﾐﾔｶﾞﾜ	赤湯町史	三間通付近の吉野川。安部貞任伝説による。厨川の転化だろう。
9	—	厨川	ｸﾘﾔｶﾞﾜ	三間通区史	郡衙関連地名。赤湯以北の吉野川（沖郷に流れる）という。
10	—	中野川	ﾅｶﾉｶﾞﾜ	大正年間地図、謎解き三間通散歩第２号	吉野川の赤湯部分（宮内関口～最上川合流）を中野川という。かつて厨川の派流であったとみられる。
11	三間通	横沢川	ﾖｺｻﾜｶﾞﾜ	三間通区史	山居沢方面から流れる川
12	大橋	番所	ﾊﾞﾝｼｮ	赤湯町史	大橋館付近
13	大橋	カゲ屋敷	ｶｹﾞﾔｼｷ	赤湯町史	大橋館付近
14	金沢	泣坂	ﾅｷｻﾞｶ	北條郷鉱山史話	七両坂の手前。重い鉱石や物資運搬で泣かされる坂
15	金沢	薄雲坂	ｵｿﾉｻﾞｶ	北條郷鉱山史話	泣坂と同じ道。遊女薄雲に由来

２．宮内　（１）宮内の小字名・地名

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
宮内			ﾐﾔｳﾁ	ae,ai	
1	宮内	関口	ｾｷｸﾞﾁ	ab,ad,ae,ai,ak,am	沖郷に流れる吉野川本流と赤湯に流れる派流の分岐地であった。天正年間の大水増で吉野川は赤湯へ流れるようになった。
2	宮内	湯街道	ﾕｶｲﾄﾞｳ	ab,ad,ae,ai,ak,am	赤湯に通じる街道の意
3	宮内	大曲	ｵｵﾏｶﾞﾘ	ab,ad,ae,ai,ak,am	河川（地形）が曲がったところ。
4	宮内	久根崎	ｸﾈｻﾞｷ　(ad,ai: ｸﾈｻｷ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	曲（ｸﾈ）か。又はｸﾈ：土地が隆起して通過を妨げている所
5	宮内	馬場	ﾊﾞﾊﾞ	ab,ad,ae,ai,ak,am	騎馬の修練場
6	宮内	桜田	ｻｸﾗﾀﾞ	ab,ad,ae,ai,ak,am	ｻｸﾗ：低湿地地名、狭い所。
7	宮内	八幡田	ﾊﾁﾏﾝﾃﾞﾝ	ab,ad,ae,ai,ak,am	神社の免租の田か
8	宮内	砂子田	ｽﾅｺﾞﾀﾞ　(ai: ｽﾅｺﾀﾞ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	砂のある所。砂地
9	宮内	三番縄	ｻﾝﾊﾞﾅ　(ae: ﾊﾝﾊﾞﾅ、ad: ｻﾝﾊﾞﾅ、am: ｻﾝﾊﾞﾝﾅﾜ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	ﾅﾜ：畦道。開墾の始まりの縄。
10	宮内	斎藤	ｻｲﾄｳ	ab,ad,ae,ai,ak,am	人名か？　ｻｴﾄﾞ：塞土（厄災で村境に祭る神のある所）や狭土（狭い土地）の可能性も。館跡有り。
11	宮内	中坪　(中之坪、中ノ坪)	ﾅｶﾉﾂﾎﾞ	ab,ad,ae,ai,ak,am	条里地名か
12	宮内	穴田	ｱﾅﾀﾞ	ab,ad,ae,ai,ak,am	窪地
13	宮内	黒木	ｸﾛｷ	ab,ad,ae,ai,ak,am	ｸﾛ：小高い所、土地の浸食・崩壊地名
14	宮内	一本杉	ｲﾂﾎﾟﾝｽｷﾞ	ab,ad,ae,ai,ak,am	吉野川氾濫原
15	宮内	川原田	ｶﾜﾗﾀﾞ	ab,ad,ae,ai,ak,am	吉野川、氾濫原
16	宮内	上野原	ｳｴﾉﾊﾗ	ab,ad,ae,ai,ak,am	内原段丘、近世初期の開拓地
17	宮内	内原	ｳﾁﾊﾞﾗ	ab,ad,ae,ai,ak,am	内原段丘。堤・集落有り
18	宮内	源兵衛平	ｹﾞﾝﾍﾞｴﾀｲﾗ	ab,ad,ae,ai,ak,am	平は段丘上の平地（地すべりで形成される場合がある）
19	宮内	源兵衛山	ｹﾞﾝﾍﾞｲﾔﾏ	ae,ai,ak,am	
20	宮内	源兵衛平山	ｹﾞﾝﾍﾞｲﾀｲﾗﾔﾏ	ad,am	鉱山跡
	宮内	丸山下	ﾏﾙﾔﾏｼﾀ	ab,ad,ae,ai,ak,am	形がドーム状の山は東隣、源兵衛平三に見られる
21	宮内	中向山	ﾅｶﾑｶｲﾔﾏ	ab,ad,ae,ai,ak,am	向山公園。丸山館
22	宮内	南沢	ﾐﾅﾐｻﾞﾜ	ab,ad,ae,ai,ak,am	官代林の南
23	宮内	官代林	ｶﾝﾀﾞｲﾊﾞﾔｼ　(ai: ｶﾝﾀﾞｲﾊﾔｼ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	学頭川原の東の川向いの山地。（菖蒲沢焼きの粘土や蔵土壁用白粘土を採取したという）
24	宮内	学頭川原	ｶﾞｸﾄｳｶﾜﾗ　(am: ｶﾞｸﾄﾞｳｶﾞﾜﾗ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	熊野神社の学頭に関連
25	宮内	学頭	ｶﾞｸﾄﾞｳ※	ab,am	熊野神社の学頭に関連
26	宮内	塔ノ越	ﾄｳﾉｺｼ	ab,ad,ae,ai,ak,am	
27	宮内	尾島　(尾嶋)	ｵｼﾞﾏ	ab,ad,ae,ai,ak,am	
28	宮内	尻無沢	ｼﾘﾅｼｻﾞﾜ	ad,ae,ai,ak,am	どこが終わりかわからない沢
29	宮内	清水	ｼﾐｽﾞ	ab,ad,ae,ai,ak,am	
30	宮内	砂押	ｽﾅｵｼ	ab,ad,ae,ai,ak,am	洪水による砂の堆積地
31	宮内	上川原	ｶﾐｶﾜﾗ	ab,ad,ae,ai,ak,am	吉野川と河川敷き
32	宮内	中川原	ﾅｶｶﾜﾗ	ab,ad,ae,ai,ak,am	〃
33	宮内	下川原	ｼﾓｶﾜﾗ	ab,ad,ae,ai,ak,am	〃
34	宮内	飯詰	ｲｲﾂﾒ　(ad: ｲｰﾂﾒ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	吉野川右岸の自然堤防と氾濫原
35	宮内	堀之内　(堀ノ内)	ﾎﾘﾉｳﾁ	ab,ad,ae,ai,ak,am	
36	宮内	下タ田　(am: 下田)	ｼﾀﾀﾞ　(am: ｼﾓﾀﾞ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	吉野川氾濫原及びその際の集落

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
37	宮内	本町	ﾓﾄﾏﾁ	ab,ad,ae,ai,ak,am	
38	宮内	宮前	ﾐﾔﾏｴ　(ai: ﾐﾔﾏｲ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	安部馬右助屋敷跡等
39	宮内	新町	ｼﾝﾏﾁ	ab,ad,ae,ai,ak,am	
40	宮内	町尻	ﾏﾁｼﾞﾘ	ab,ad,ae,ai,ak,am	町外れ
41	宮内	大清水	ｵｵｼﾐｽﾞ	ab,ad,ae,ai,ak,am	大清水神社有り。湧水地。条里の水口に当たるか
42	宮内	富貴田	ﾌｷﾀﾞ　(ad: ﾌｷﾀ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	ﾌｹ：湿田、常時湿地。又は鍛冶地名か。風が強く吹く田という伝承有り。
43	宮内	阿弥陀堂	ｱﾐﾀﾞﾄﾞｳ	ab,ad,ae,ai,ak,am	正徳寺の南。阿弥陀堂があったか
44	宮内	柳町	ﾔﾅｷﾞﾏﾁ	ab,ad,ae,ai,ak,am	正徳寺有り
45	宮内	大壇	ｵｵﾀﾞﾝ	ab,ad,ae,ai,ak,am	近世墓地
46	宮内	鐘小屋	ｶﾈｺﾔ	ab,ad,ae,ai,ak,am	金屋子神：産鉄の神。「この地にタタラがあった。また、ここで熊野大社の洪鐘を造ったと言い伝え有り。
47	宮内	寺西	ﾃﾗﾆｼ	ab,ad,ae,ai,ak,am	蓬莱院有り
48	宮内	田町	ﾀﾏﾁ	ab,ad,ae,ai,ak,am	田に接した町。門前町の西
49	宮内	宮町	ﾐﾔﾏﾁ	ab,ad,ae,ai,ak,am	門前町
50	宮内	横町	ﾖｺﾏﾁ	ab,ad,ae,ai,ak,am	大鳥居南東
51	宮内	粡町	ｱﾗﾏﾁ	ab,ad,ae,ai,ak,am	ｱﾗﾏﾁ：中世の門前町商業地
52	宮内	久保	ｸﾎﾞ	ab,ad,ae,ai,ak,am	窪んだ地形。水害地名。公方の説有り
53	宮内	(くぼの在家)	ｸﾎﾞﾉｻﾞｲｹ	D	久保在家
54	宮内	菖蒲沢	ｼｮｳﾌﾞｻﾞﾜ　(am: ｼｮｵﾌﾞｻﾞﾜ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	ｼｮｳﾌﾞ：水路。ｼｮｳｽﾞ・ｿｰｽﾞ：取水口。元は宮沢、細井平洲がこの地の菖蒲を賞でたことにより改称と云う
55	宮内	坂町	ｻｶﾏﾁ	ab,ad,ae,ai,ak,am	熊野大社有り
56	宮内	花沢	ﾊﾅｻﾞﾜ	ab,ad,ae,ai,ak,am	熊野大社の西。ﾊﾅ：突き出た地形。土砂災害地名。
57	宮内	山王山	ｻﾝﾉｳﾔﾏ　(am: ｻﾝﾉｵﾔﾏ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	山王神社有り。南館
58	宮内	武道作	ﾌﾞﾄﾞｳｻｸ　(am: ﾌﾞﾄﾞｵｻｸ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	ﾌﾞﾄﾞｳ：連峰又は小谷、或は狭間の通路。ｻｸ：狭く行き詰った谷。丘陵間の細長く入り組んだ水田
59	宮内	武道作山	ﾌﾞﾄﾞｳｻｸﾔﾏ　(am: ﾌﾞﾄﾞｵｻｸﾔﾏ)	ad,ae,ai,ak,am	〃。前九年の役で源氏が陣を構えたという伝説有
60	宮内	寺山	ﾃﾗﾔﾏ	ab,ad,ae,ai,ak,am	蓬莱院跡
61	宮内	疱瘡神堂	ﾎｳｿｳｶﾐﾄﾞｳ　(ad: ﾎｳｻｳｶﾐﾄﾞｳ、am: ﾎｵｿｵｶﾞﾐﾄﾞｵ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	宮沢城。疱瘡神堂は熊野大社に移転
62	宮内	高日向	ﾀｶﾋﾅﾀ	ab,ad,ae,ai,ak,am	
63	宮内	高日向山	ﾀｶﾋﾅﾀﾔﾏ	ad,ae,ai,ak,am	
64	宮内	別所	ﾍﾞﾂｼｮ	ab,ad,ae,ai,ak,am	崩壊地名。又は本村に対し追加開墾を許された土地。熊野大社関連地名、蝦夷の俘囚を住まわせた地とも。
65	宮内	別所山	ﾍﾞﾂｼｮﾔﾏ	ad,ae,ai,ak,am	経筒出土地。
66	宮内	山ノ神　(山之神)	ﾔﾏﾉｶﾐ	ab,ad,ae,ai,ak,am	向山の東。山ノ神神社
67	宮内	鍋石	ﾅﾍﾞｲｼ	ab,ad,ae,ai,ak,am	大きな石（鍋石）があった。鍋石は運ばれ熊野大社境内の安部右馬助碑に使用された。北館。
68	宮内	館ノ上	ﾀﾃﾉｳｴ	ab,ad,ae,ai,ak,am	宮沢城の北半。蔵屋敷郭
69	宮内	白山堂	ﾊｸｻﾝﾄﾞｳ	ab,ad,ae,ai,ak,am	白山神社があった
70	宮内	梅ケ沢	ｳﾒｶﾞｻﾜ	ab,ad,ae,ai,ak,am	ｳﾒ：土砂崩れ地名。長谷観音有り
71	宮内	梅ケ沢山	ｳﾒｶﾞｻﾜﾔﾏ	ad,ae,ai,ak,am	〃
72	宮内	外屋	ﾄﾔ	ad,ae,ai,ak,am	細長い谷
73	宮内	外屋沢　(ae,ai: 外屋ｶﾞ澤)	ﾄﾔｻﾜ　(ae,ai: ﾄﾔｶﾞｻﾜ、am: ﾄﾔﾉｻﾜ)	ad,ae,ai,ak,am	

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
74	宮内	羽山堂	ﾊﾔﾏﾄﾞｳ	ad,ae,ai,ak,am	
75	宮内	羽山堂山	ﾊﾔﾏﾄﾞｳﾔﾏ	ad,ae,ai,ak,am	
76	宮内	大沢	ｵｵｻﾜ	ad,ae,ai,ak,am	
77	宮内	大沢山	ｵｵｻﾜﾔﾏ	ad,ae,ai,ak,am	
78	宮内	仁田	ﾆﾀ　(ae: ﾆﾀﾞ)	ad,ae,ai,am	宮沢川上流
79	宮内	早坂	ﾊﾔｻｶ	ad,ae,ai,ak,am	
80	宮内	矢ノ沢	ﾔﾉｻﾜ	ad,ae,ai,ak	宮沢川上流
81	宮内	十二堂	ｼﾞｭｰﾆﾄﾞｳ　(ad: ｼｭｰﾆﾄﾞｳ)	ad,ae,ak,am	熊野十二所権現に関係か
82	宮内	十二堂山	ｼﾞｭｳﾆﾄﾞｳﾔﾏ	ae,ai,am	〃
83	宮内	愛宕沢	ｱﾀｺﾞｻﾞﾜ　(ai: ｱﾀｺﾞｻﾜ)	ad,ae,ai,ak	
84	宮内	愛宕沢山	ｱﾀｺﾞｻﾞﾜﾔﾏ	ae,ai,am	
85	宮内	千代窪	ｾﾝﾀﾞｲｸﾎﾞ　(ad: ｾｲﾀｲｸﾎﾞ)	ad,ae,ai,ak,am	
86	宮内	向山	ﾑｶｲﾔﾏ	ad,ae,ai,ak,am	
87	宮内	水林	ﾐｽﾞﾊﾞﾔｼ　(ai: ﾐｽﾞﾊﾔｼ)	ad,ae,ai,ak,am	
88	宮内	孫四郎坂	ﾏｺﾞｼﾛｵｻｶ	ad,ae,ai,ak	人名
89	宮内	孫四郎山	ﾏｺﾞｼﾛｵﾔﾏ	ad,ae,ai,ak,am	
90	宮内	孫四郎坂山	ﾏｺﾞｼﾛｵｻｶﾔﾏ	ai,am	
91	宮内	小坂	ｺｻｶ	ad,ae,ai,ak,am	
92	宮内	小坂山	ｺｻｶﾔﾏ	ad,ae,ai,ak	
93	宮内	八幡	ﾊﾁﾏﾝ	ab	
94	宮内	川原前	ｶﾜﾗﾏｴ	ab,am	
95	宮内	大高下	ｵｵﾀｶｼﾀ	ae,ai,am	
96	宮内	三方矢	ｻﾝﾎﾞﾉﾔ	ae,ai	漆山へ飛び地
97	宮内	ひかげ坂	ﾋｶｹﾞｻﾞｶ	明暦二年御狩場之図	日影坂。元中山日影境の坂か
98	宮内	今熊	ｲﾏｸﾏ	明暦二年御狩場之図	向山の東。今熊鉱山跡
99	宮内	ただごひ	ﾀﾀﾞｺﾞｲ	明暦二年御狩場之図	
100	宮内	石澤	ｲｼｻﾞﾜ	明暦二年御狩場之図	
101	宮内	けいかい山（慶海山）	ｹｲｶｲｻﾝ	明暦二年御狩場之図	双松公園。慶海山館。僧名に由来ともいう。
102	宮内	足軽町	ｱｼｶﾞﾙﾏﾁ	町名	足軽の居住地という。

２．宮内　（２）その他の地名等

ＮＯ	地区名	地名	読み	出典	備考
1	宮内	寺家	ｼﾞｹ	宮内町の文化財（1965）P46	宮町の別名を寺家（じけ）と称する
2	宮内	宮外邑（宮戸邑）	ﾐﾔﾄﾑﾗ	宮内町の文化財（1965）P47	熊野山北方の沢あいを宮沢、現十文字から鳥居の場の奥の熊野山内と、宮沢を含めた神域を宮の内、宮内と呼んだ。一般民衆は神領の外、すなわち宮の外に住んでその集落が宮外村である。
3	宮内	蓮華棒堤	ﾚﾝｹﾞﾎﾞｳﾂﾂﾐ	鍋田郷土史 P111	宮内町の東方にあり。その築きし年月明らかならず。今は荒廃して僅かに痕跡を残すのみ

３．金山　（１）金山の小字名・地名

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
金山			ｶﾈﾔﾏ	ae,ai	
(神山)			ｶﾐﾔﾏ	ak2	金山の古名という
1	金山	上野	ｳﾜﾉ	ad,ae,ai,ak,am	平館の南東
2	金山	屋敷	ﾔｼｷ	ad,ae,ai,ak,am	楯ノ山の南の沢の集落
3	金山	旭清水	ｱｻﾋｼﾐｽﾞ	ad,ae,ai,ak,am	旭清水有り
4	金山	平館　(明暦２:平立)	ﾋﾗﾀﾞﾃ　(ae:ﾋﾀﾞﾃ)	ad,ae,ai,ak,am, 明暦二年御狩場之図	平館跡
5	金山	(平ハ在け　ak:平八在家)	ﾋﾗﾊﾞｻﾞｲｹ　(ak:ﾍｲﾊﾁｻﾞｲｹ)	C,ak(湯目文書)	平八在家
6	金山	尾島　(明暦２:をし満)	ｵｼﾞﾏ	ad,ae,ai,ak,am, 明暦二年御狩場之図	
7	金山	官代林	ｶﾝﾀﾞｲﾊﾞﾔｼ	ad,ae,ai,ak,am	
8	金山	天ケ沢	ｱﾏｶﾞｻﾜ	ad,ae,ai,ak,am	天ケ沢館の裾
9	金山	谷地田	ﾔﾁﾀ	ad,ae,ai,ak,am	湿地。天ケ沢館の西、平館の北
10	金山	川中島　(ai:川中嶋)	ｶﾜﾅｶｼﾏ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川・氾濫原
11	金山	寺ノ下	ﾃﾗﾉｼﾀ	ad,ae,ai,ak,am	東禅院の下
12	金山	中北	ﾅｶｷﾀ	ad,ae,ai,ak,am	東禅院の北東。吉野川右岸
13	金山	堂田	ﾄﾞｳﾃﾞﾝ	ad,ae,ai,ak,am	寺社の免租の田
14	金山	田中	ﾀﾅｶ	ad,ae,ai,ak,am	田中館
15	金山	寺清水	ﾃﾗｼﾐｽﾞ	ad,ae,ai,ak,am	東禅院跡
16	金山	明神前	ﾐｮｳｼﾞﾝﾏｴ	ad,ae,ai,ak,am	龍口明神の南
17	金山	乱橋	ﾐﾀﾞﾚﾊﾞｼ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川・左岸氾濫原・旧河道
18	金山	片岡	ｶﾀｵｶ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川右岸集落・田・旧河道
19	金山	片岡裏	ｶﾀｵｶｳﾗ	ad,ai,ak,am	片岡の西
20	金山	桜淵	ｻｸﾗﾌﾞﾁ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川・左岸氾濫原・旧河道。 ｻｸﾗ：狭い所。狭い縁の意
21	金山	河原	ｶﾜﾗ	ad,ae,ai,ak,am	旧河道
22	金山	明神堂	ﾐｮｳｼﾞﾝﾄﾞｳ	ad,ae,ai,ak,am	龍口明神。立石館。館の辰の口か。
23	金山	立石	ﾀﾃｲｼ	ad,ae,ai,ak,am	館石か。立石館
24	金山	中里	ﾅｶｻﾞﾄ	ad,ae,ai,ak,am	集落・田
25	金山	中里裏	ﾅｶｻﾞﾄｳﾗ	ad,ae,ai,ak,am	中里の東の山合い
26	金山	流屋敷	ﾅｶﾞﾚﾔｼｷ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川と旧河道に挟まれた地。災害地名。
27	金山	羽黒堂	ﾊｸﾞﾛﾄﾞｳ	ad,ae,ai,ak,am	羽黒神社
28	金山	臼沢	ｳｽｻﾞﾜ	ad,ai,ak,am	
29	金山	和尚壇	ｵｼｮｳﾀﾞﾝ	ad,ae,ai,ak,am	近世墓地。一字一石経有り
30	金山	牛石	ｳｽｲｼ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川とその左岸。八幡山の西の崎
31	金山	薬師堂	ﾔｸｼﾄﾞｳ	ad,ae,ai,ak,am	薬師堂
32	金山	大巻之沢	ｵｵﾏｷﾉｻﾜ	ad,ae,ai,ak,am	薬師堂の北西
33	金山	八森	ﾊﾁﾓﾘ　(am:ﾊﾂﾓﾘ)	ad,ae,ai,ak,am, 明暦二年御狩場之図	吉野川右岸
34	金山	巻ノ沢	ﾏｷﾉｻﾜ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川・旧河道。氾濫原
35	金山	郷志田　(ae,ai:合志田)	ｺﾞｵｼﾀﾞ　(ad,ai:ｺﾞｳｼﾀﾞ)	ad,ae,ai,ak,am	ｼﾀﾞ：湿った所。金山公民館
36	金山	穴戸	ｱﾅﾝﾄ　(ai:ｱﾅﾄ)	ad,ae,ai,ak,am	吉野川右岸。田(氾濫域)と集落
37	金山	岩淵	ｲﾜﾌﾞﾁ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川とその左岸の山裾
38	金山	龍ノ口	ﾀﾂﾉｸﾁ	ad,ae,ai,ak,am	災害地名。土石流。小入沢への入口
39	金山	小入沢	ｺｲﾘｻﾜ	ad,ae,ai,ak,am	川樋線沿い。
40	金山	小入沢口	ｺｲﾘｻﾜｸﾞﾁ	ad,ae,ai,ak,am	〃
41	金山	内立木(ad:内館木)	ｳﾁﾀﾃｷﾞ	ad,ae,ai,ak,am	内：入り組んだ地形。城館地名。地蔵岩物見
42	金山	開	ﾋﾗｷ	ad,ae,ai,ak,am	小入沢の西。開拓地名

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
43	金山	屏風岩	ﾋﾞﾖｳﾌﾞｲﾜ	ad,ae,ai,ak,am	小入沢の南。自然岩に由来
44	金山	鬼面石	ｷﾒﾝｾｷ　(ai: ｷﾒﾝｲｼ)	ad,ai,ak,am	自然石の鬼面石に由来
45	金山	鬼面岩	ｷﾒﾝｲﾜ	ae,ai	鬼面石の誤記か
46	金山	鍛冶屋敷	ｶｼﾞﾔｼｷ	ad,ae,ai,ak,am	屏風岩の東。鍛冶を行った所
47	金山	大弓ケ沢	ｵｵﾕﾐｶﾞｻﾜ	ad,ae,ai,ak,am	鍛冶屋敷の東
48	金山	小弓ケ沢	ｺﾕﾐｶﾞｻﾜ	ad,ae,ai,ak,am	小入沢の南東
49	金山	南沢	ﾐﾅﾐｻﾞﾜ	ad,ae,ai,ak,am	小入沢の東
50	金山	仲ノ沢　(ad: 中の沢)	ﾅｶﾉｻﾜ	ad,ae,ai,ak,am	南沢の東
51	金山	小笹松	ｵｻﾞｻﾏﾂ	ad,ae,ai,ak,am	仲ノ沢と尾根を挟んで北の沢
52	金山	中谷地	ﾅｶﾔﾁ	ad,ae,ai,ak,am	南沢の北。湿地
53	金山	牛喰沢　(ae: 牛食沢)	ｳｼｸﾗｲｻﾞﾜ　(ae: ｳｼｸｲｻﾞ、ai: ｳｼｸｲｻﾞﾜ)	ad,ae,ai,ak,am	ｸｲ：地崩れ
54	金山	五貫場	ｺﾞｶﾝﾊﾞ	ad,ae,ai,ak,am	小入沢の川向い（北）。砂金が五貫採れたとも、鉱山客に団子が毎日五貫売れたとも云う
55	金山	水沢	ﾐｽﾞｻﾜ	ad,ae,ai,ak,am	開の北
56	金山	佐藤林	ｻﾄｳﾊﾔｼ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川左岸。人名
57	金山	四ツ谷　(ae: 四ツ屋)	ﾖﾂﾔ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川右岸。
58	金山	上野屋敷	ﾜﾉﾔｼｷ　(ad,ai: ｳﾜﾉﾔｼｷ)	ad,ae,ai,ak,am	穴戸集落の西（山側）
59	金山	水上	ﾐｽﾞｶﾐ	ad,ae,ai,ak,am	穴戸の西
60	金山	金沢	ｶﾅｻﾞﾜ	ad,ae,ai,ak,am	石畑の西。鉱山関連地名
61	金山	西山	ﾆｼﾔﾏ	ad,ae,ai,ak,am	石畑・金沢の西
62	金山	北沢	ｷﾀｻﾞﾜ	ad,ae,ai,ak,am	石畑の北西
63	金山	石畑	ｲｼﾊﾀｹ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川右岸。集落。石が多く堆積する所か
64	金山	白山在家	ｼﾗﾔﾏｻﾞｲｹ	D,ad,ae,ai,ak,am	石畑の北。白山在家
65	金山	大久保	ｵｵｸﾎﾞ	ad,ae,ai,ak,am	畑在家の北。窪んだ地形。水害地名。
66	金山	畑在家	ﾊﾀｻﾞｲｹ	ad,ae,ai,ak,am	白山在家の北。畑在家
67	金山	黒在家	ｸﾛｻﾞｲｹ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川左岸。石畑・白山在家の川向い。黒在家
68	金山	萱ノ入　(ad: 萱野入)	ｶﾔﾉｲﾘ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川右岸。県庁石材産出地
69	金山	小原	ｺﾊﾗ　(am: ｵﾊﾞﾗ)	ad,ae,ai,ak,am	〃
70	金山	〆木	ｼﾒｷ	ad,ae,ai,ak,am	小原の東方の谷地形。ｼﾒ：湿った地・石の多い地
71	金山	石野沢	ｲｼﾉｻﾞﾜ	ad,ae,ai,ak,am	〆木の東。石の多い沢
72	金山	赤坂	ｱｶｻｶ	ad,ae,ai,ak,am	〆木の北
73	金山	長窪	ﾅｶﾞｸﾎﾞ	ad,ae,ai,ak,am	塔ノ越の東方
74	金山	小長窪	ｺﾅｶﾞｸﾎﾞ	ad,ae,ai,ak,am	長窪の南
75	金山	原	ﾊﾗ	ad,ae,ai,ak,am	畑在家の東～北東。吉野川と左岸の氾濫原、集落
76	金山	鳩山	ﾊﾄﾔﾏ	ad,ae,ai,ak,am	原と吉野川を挟んで西北
77	金山	瘤ケ沢	ｺﾎﾞｶﾞｻﾜ　(ai,am: ｺﾌﾞｶﾞｻﾜ)	ad,ae,ai,ak,am	石那坂の西
78	金山	石那坂	ｲｼﾅｻﾞｶ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川右岸。長く険しい坂か
79	金山	塔ノ越　(ai: 塔之越)	ﾄｵﾉｺｼ　(ai: ﾄｳﾉｺｼ)	ad,ae,ai,ak,am	吉野川とその左岸
80	金山	板宮	ｲﾀﾐﾔ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川右岸。板葺きの社があったか
81	金山	桂清水	ｶﾂﾗｼﾐｽﾞ	ad,ae,ai,ak,am	板宮の西。桂清水が湧く
82	金山	櫛引	ｸｼﾋｷ　(ae: ｸｽﾋｷ)	ad,ae,ai,ak,am	板宮の北～北西。ｸｼ：小丘の長く連なった高まり
83	金山	砥石沢	ﾄﾞｲｼｻﾞﾜ　(ai: ﾄｲｼｻﾞﾜ)	ad,ae,ai,ak,am	砥石沢鉱山
84	金山	地蔵岩	ｼﾞｿﾞｳｲﾜ	ad,ae,ai,ak,am	地蔵岩物見
85	金山	鬼ケ窪	ｵﾆｶﾞｸﾎﾞ	ad,ae,ai,ak,am	四ツ谷の西の山。天狗山館
86	金山	龍鳩山　(ai: 竜鳩山)	ﾘｳｷｳｻﾞﾝ　(ad,ai: ﾘｭｳｷｳｻﾞﾝ)	ad,ae,ai,ak,am	白山在家・畑在家の西の山。ﾘｭｳ:災害地名、土石流。ｸｴ・ｸｲ：崩壊地名。

ＮＯ	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
87	金山	桂山	ｶﾂﾗﾔﾏ	ad,ae,ai,ak,am	ｶﾂﾗ：急斜面（水に関連）、地すべり地形
88	金山	寺裏	ﾃﾗｳﾗ	ad,ae,ai,ak,am	
89	金山	橋ノ沢	ﾊｼﾉｻﾜ	ad,ae,ai,ak,am	金座館
90	金山	御岳山　(ae,ai,am: 御嶽山)	ｵﾐﾀﾞｹﾔﾏ　(ad,ai: ﾐﾀｹﾔﾏ)	ad,ae,ai,ak,am	塔ノ越の東の山。御岳山物見
91	金山	大平	ｵｵﾋﾗ	ad,ae,ai,ak,am	ﾋﾗ：山崩れの起きやすい所
92	金山	七瑳古山	ﾅﾅｻｺﾔﾏ	ad,ae,ai,ak,am	ｻｺ：谷。七つの谷が見られる山の意か
93	金山	八幡山	ﾔﾊﾀﾔﾏ	ad,ae,ai,ak,am	八幡神社
94	金山	赤塚山	ｱｶﾂｶﾔﾏ	ad,ae,ai,ak,am	ｱｶ：赤土、南の方角。釜渡戸境
95	金山	大高山	ｵｵﾀﾞｶﾔﾏ	ad,ae,ai,ak,am	
96	金山	大高	ｵｵﾀﾞｶ	ae,ai	
97	金山	山平	ﾔﾏﾋﾗ	ae,ai,am	羽黒層の西の山。
98	金山	瘤ケ峰	ｺｶﾞﾐﾈ	ae,ai,am	石那坂の西の山
99	金山	壺長井	ﾂﾎﾞﾅｶﾞｲ	ae,ai,am	桂山の南西。壺のような地形。金山風穴有り。
100	金山	中里前	ﾅｶｻﾞﾄﾏｴ	am	
101	金山	八幡前	ﾔﾊﾀﾏｴ	am	八幡神社入口
102	金山	天沢	ｱﾏｻﾜ	am	天ケ沢か
103	金山	三石田	ｻﾝｺﾞｸﾃﾞﾝ	am	
104	金山	(すすめ在け　ak: 雀在家)	ｽｽﾞﾒｻｲｹ	C,ak(湯目文書)	雀在家
105	金山	逢山	ｱｳﾔﾏ	明暦二年御狩場之図	吉野川の西に位置する
106	金山	(けとう在家)	ｹﾄｳｻﾞｲｹ	ak(湯目文書)	けとう在家

３．金山　（２）その他の地名等

ＮＯ	地区名	地名	読み	出典	備考
1	ー	神山道	ｶﾐﾔﾏﾐﾁ	やすらぎ第３号（金山高砂会　S50 年 1 月 15 日発行）	昔､金山は「神山道」といって、小滝を経て山形に通ずる重要な街道筋であった。
					※市史中巻に､「伊達時代のころ小入沢の奥で金山を発見してから金山と呼んだという。」とある。
2	ー	神山郷	ｶﾐﾔﾏｺﾞｳ	市史中巻 P386	金山村は、昔神山郷とよばれていたが、この山から良質の金鉱を採掘したことによってこの村名になった。
				市史上巻 P707	「龍口大明神古梁札写」に北条荘神山郷とある
3	ー	金山川	ｶﾈﾔﾏｶﾞﾜ	東置賜郡史下巻 P395	吉野川のこと
4	中里	三入山	ｻﾝﾉｲﾘﾔﾏ	地元聞き取り	七瑳古山の西側
5	ー	棚越坂	ﾀﾅｺｼｻｶ	大正年間地図	七瑳古山の東
6	ー	肘曲り峠	ﾋｼﾞﾏｶﾞﾘﾄｳｹﾞ	大正年間地図	鬼面石より東の道
7	ー	楯山	ﾀﾃﾔﾏ	地元聞き取り	七瑳古山南端、平館の東の山。城館跡

南陽市文化財調査報告書

南陽市字限図調査報告書（1）

― 赤湯・宮内・金山 ―

2021年3月31日

発行　南陽市教育委員会
〒999-2292　山形県南陽市三間通436番地の1
電話　0238-40-3211（代）
印刷　有限会社文進堂印刷
〒999-2221　山形県南陽市椚塚811－3
電話　0238-43-2116